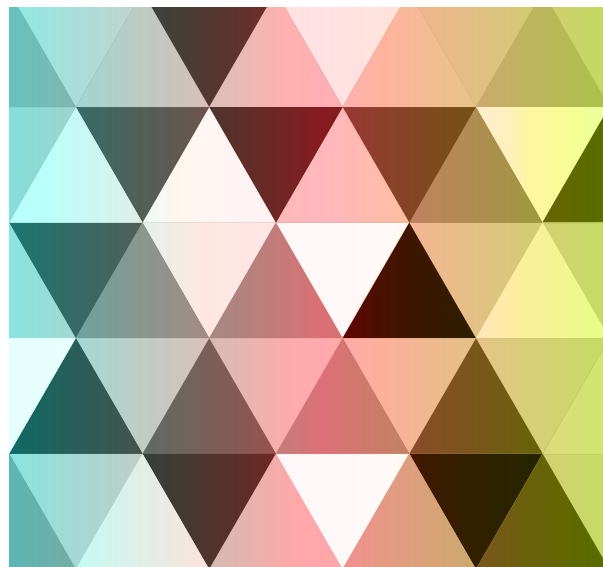


九州産業大学  
建築都市工学部

Year Book

2022-2023



Architecture

Housing and Interior

Civil and Urban Design Engineering

2022 年度イベント一覧	2
---------------	---

---

建築都市工学部の紹介	4
------------	---

---

教員紹介／学科の特色	6
------------	---

---

■ 建築学科	6
■ 住居・インテリア学科	8
■ 都市デザイン工学科	10

研究室紹介	12
-------	----

---

■ 建築学科	12
■ 住居・インテリア学科	18
■ 都市デザイン工学科	26

OB・OG 寄稿	34
----------	----

---

学生寄稿	40
------	----

---

■ 建築学科	40
■ 住居・インテリア学科	41
■ 都市デザイン工学科	42

施設紹介	43
------	----

---

進路実績紹介	44
--------	----

---

■ 建築学科	44
■ 住居・インテリア学科	46
■ 都市デザイン工学科	48

資格実績紹介	50
--------	----

---

博士前期・後期課程 研究課題および指導教員	52
--------------------------	----

---



## 卒業研究 56

---

- 建築学科 56
  - 2022年度 優秀作品
  - 2022年度 設計作品
  
- 住居・インテリア学科 68
  - 2022年度 優秀研究
  
- 都市デザイン工学科 84
  - 2022年度 優秀研究

## 建築都市工学部 全国高等学校プロジェクトコンテスト 87

---

- プロコンについて 87
- 総評および各賞コメント 89
- 入賞作品紹介 93

## 教員・学生受賞一覧 102

---

## オープンキャンパス紹介 103

---

- 建築学科 103
- 住居・インテリア学科 104
- 都市デザイン工学科 105

## 課外活動紹介 106

---

- ABC 建築道場 106
- 九産大野生動植物研究会 107

# 2022年度イベント一覧

## 4 入学式 (4/1)

「建築模型アイデア図鑑」の増刷記念トークイベント (4/24)  
 建築都市工学部建築学科 教授 矢作昌生と西日本工業大学 教授 石垣充氏 共著  
 会場：六本松蔦屋書店

## 5

## 6

九産大レクチャーシリーズ Vol.45 「感性を解放するアーキテクチャー」  
 (6/25) 津川恵理 / 主催 ABC 建築道場

九州産業大学景観研究センター  
 景観セミナー / レクチャーシリーズ 2022 前期  
 「文化と風景とグリーンインフラ」  
 (6/ 3- 流域治水とグリーンインフラ)  
 (6/17- 京の庭づくりと雨庭の可能性)  
 (7/15- 流域治水を実現する雨水活用住宅の未来)

## 7

## 九産大オープンキャンパス (7/17, 24)

九産大レクチャーシリーズ Vol.46 「うれしい気持ちをカタチにする」  
 (7/9) 寺田尚樹 / 主催 ABC 建築道場

## 8

国立青少年教育振興機構事業「積み木であかりのワークショップ  
 ～童話を題材とした読書感想光～」(8/11)

会場：福岡おもちゃ美術館  
 住居・インテリア学科 准教授 諫見泰彦+人間科学部子ども教育学科 学生  
 展示会「福岡県住宅供給公社「名島団地」での活動記録 2018～2021 年度  
 ～ 学生と共に歩んだ苦悩の 4 年間の記録～」

## 9

会場：福岡県庁 11 階「福岡よかもんひろば [北棟ラウンジ]」で展示  
 福岡県住宅供給公社 x 住居・インテリア学科 准教授 信濃康博+信濃研究室学生  
 オンラインセミナー 講演「デンマーク式 幸せな日々を送るヒント  
 ヒュッグという暮らし方」  
 主催：生活協同組合連合会コープ九州事業部、協力：デンマーク大使館  
 住居・インテリア学科 教授 小泉隆 (10/3)

## 10

九州産業大学景観研究センター  
 景観セミナー / レクチャーシリーズ 2022 後期  
 「まちをひらく水、まちをまもる緑」  
 (10/21- アーバンネイチャーと関与型水系基盤)  
 (11/25- 大平原の川と海をつなげる物語)  
 (12/16- 水辺と遊休不動産の利活用による拠点開発)



11

国立青少年教育振興機構事業「積み木であかりのワークショップ  
～童話を題材とした読書感想光～」(11/19)

会場：長門おもちゃ美術館

住居・インテリア学科 准教授 諫見泰彦+同学科 地域貢献実践ゼミナール



12

「第19回ふくおか水もり自慢！ in 北九州」にてタチケン雨庭について発表  
会場：黒崎ひびしんホール 中ホール

主催：福岡県河川整備課

都市デザイン工学科 教授 山下三平+大浦雅人（4年）

1

第3回 九州木質建物構造展

「3学年で取り組む実大の木造木造建築物制作」プロジェクトの一環で制作した  
木造制作物を展示

住居・インテリア学科教員 基盤強化プロジェクト実習Ⅲ履修生



九産大レクチャーシリーズ Vol.47 「存在のシリンダー」

(1/28) 島山鉄生・吉野太基 / 主催 ABC 建築道場



2

福岡県那珂川市教育部招聘事業「積み木であかりのワークショップ  
～童話を題材とした読書感想光～」(2/8, 9)

会場：那珂川市立南畑小学校

住居・インテリア学科 准教授 諫見泰彦+同学科 地域貢献実践ゼミナール

九産大レクチャーシリーズ Vol.48 「距離の設計」

(2/1) 島田陽 / 主催 ABC 建築道場

展示会 KSU プロデュース 2023 (2/23 ~ 2/26)

会場：ソラリアプラザ1F イベントスペースゼファ

協同組合福岡・大川家具工業会と芸術学部・商学部と連携した  
大川家具 PR 活動の成果展示

住居・インテリア学科 講師 吉村祐樹+吉村研究室3年生



3

北欧のパブリックスペースとアクティビティ

小泉隆×ディビッド・シム「北欧のパブリックスペース」出版記念トーク (3/20)

住居・インテリア学科 教授 小泉隆







Faculty of Architecture and Civil Engineering

# 建築都市工学部

建築学科 | 住居・インテリア学科 | 都市デザイン工学科

西日本初の建築、住居・インテリア、  
都市・土木を総合的に学べる学部。

これまで分野、資格、法律などが縦割りに分断されていた3領域を総合的に扱うことで、国土の強靱化、循環型まちづくり、グリーンインフラ、住環境ストックの有効活用などの現代的な課題に対し、住空間から都市まで横断的に活躍できる人材を育てます。

## アドミッション・ ポリシー

(入学者の受け入れ方針)

建築都市工学部は、工学における基礎的知識をベースに、国土から住まいまで連続する空間のあり方を追求する広い視野を持ち、多様な社会ニーズに応えることのできる実践的能力を有した人材養成のため、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 建築都市工学に関する学修意欲が高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 建築都市工学分野において卓越した能力を持っている人



### 学びの特長Ⅰ

#### 3学科全ての学生が受講できる学部共通科目

建築都市工学部では、工学における基礎的知識をベースに、住居からこの国の風景まで、連続する空間のあり方を追及する広い視野を持ち、多様なニーズに応えることのできる実践力を有した人材養成のために、3学科全ての学生が受講できる学部共通科目を設置しています。

##### 【学部共通科目一覧】

- 建築都市入門
- 建築デザイン
- 建築製図Ⅰ
- 建築製図Ⅱ
- 保存修景計画
- グリーンインフラ論
- 基礎測量学
- プログラミング入門
- インターンシップ
- 職業指導
- 工業概論

### 学びの特長Ⅱ

#### 学科連携による資格取得教育の充実



建築士資格は、3学科の学生全員が目標にできます。学科間で教員が協力し、充実した資格取得教育を実現します。そのほかの資格についても、各学科の専門性を生かして取得をサポートします。

### 学びの特長Ⅲ

#### 地域貢献プロジェクト型教育の推進

まちづくり、空き家問題、災害に強い建築設計、新しいインテリア・家具の提案など、実社会の課題を積極的に学部・学科で取り組み、教員、学生がプロジェクトグループを結成し、実践的に学びます。



福岡市東区の団地リノベーションプロジェクト

#### Topics

#### 充実した教授陣による実践教育で高い就職率を実現

建築家、空間デザイナー、各委員、研究者など、実社会で活躍する多様な教授陣が学外連携の教育を実践し、高い就職率を誇っています。



#### 学生による活発な課外活動を積極支援

ABC建築道場、九産大野生動植物研究会など、様々なサークルが活動。実務家を迎えてのセミナーなども活発に企画・開催しています。





# 教員紹介

建築学科

	研究分野
	建築構造・材料
教授 UCHIDA KAZUHIRO 内田 和弘	研究テーマ
	コンクリート系構造物の 応力伝達機構に関する研究

	研究分野
	建築構造・材料
教授 SHIRAKAWA TOSHIO 白川 敏夫	研究テーマ
	鉄筋コンクリート構造物の耐久 性とその評価方法に関する研究

	研究分野
	建築構造
教授 HANAI NOBUAKI 花井 伸明	研究テーマ
	鉄筋コンクリート造建物の 安全性に関する研究

	研究分野
	建築計画 建築意匠
教授 YAHAGI MASAO 矢作 昌生	研究テーマ
	建築空間に関する研究および 設計活動

	研究分野
	建築構造・材料
准教授 KANG WOOJA 姜 優子	研究テーマ
	建築の耐震構造に関する研究

	研究分野
	建築計画
准教授 FUNAKOSHI MASAHIRO 船越 正啓	研究テーマ
	高齢者居住に関する研究

	研究分野
	建築環境・設備
教授 KITAYAMA HIROKI 北山 広樹	研究テーマ
	都市・建築における快適環境の 形成とエネルギー有効利用に関 する研究

	研究分野
	建築史・意匠
教授 TOMITA HIDEO 富田 英夫	研究テーマ
	ドイツ近代建築史

	研究分野
	都市計画
教授 HITAKA KEIICHIRO 日高 圭一郎	研究テーマ
	景観まちづくり 防災まちづくり

	研究分野
	建築計画、 建築社会システム
准教授 OHBA TOMOKO 大庭 知子	研究テーマ
	地域ストック活用

	研究分野
	建築環境・設備
准教授 KUMA YUKO 隈 裕子	研究テーマ
	数値解析, 建築環境解析, 建築 起源のCO <sub>2</sub> 削減・省エネルギー

## 建築学科の取組みや特徴

- 経験豊富な講師陣による充実した専門教育
- 実践型の教育カリキュラム
- 高い就職先の質と就職率

住宅をはじめ、文化施設、高層ビル、建築遺産、街、地域、都市環境など、領域が幅広いのが建築学です。そこで安全性や耐久性を学ぶ「構造・生産系」、空間の快適性や省エネを学ぶ「環境・設備系」、デザインや空間の機能性を学ぶ「計画・歴史系」の3つの専門的視点から、体系的にアプローチします。各分野の考え方や相互の関係を学修し、建築業界あらゆる分野で輝ける多様なエンジニアを育成します。



### [各系の特徴]

- 構造・生産系
  - コンクリート系構造物の応力伝達機構に関する研究
  - 鉄筋コンクリート構造物の安全性に関する研究
  - 建築災害の低減・防止に関する研究
  - 建築物の耐震設計・耐震改修に関する研究
- 環境・設備系
  - 生活空間の快適性に関する研究
- 計画・歴史系
  - まちづくりと都市政策
  - 居住計画に関する研究
  - 建築の歴史の研究
  - 確かな設計能力を身に付ける実践教育



### [4年間の学びの流れ]

#### 1年次

##### 学びの基礎づくり

建築の原点である住宅を題材に「見て、触って、造る」体験学習で建築学を学ぶための基礎をつくります。

#### 2年次

##### 専門的な学びの基礎づくり

「計画・歴史系」、「環境・設備系」、「構造・生産系」のそれぞれの分野において、進路と興味に応じた専門分野を学修します。

#### 3年次

##### 専門分野を選択・学修

希望する専門分野の研究室に入り、専門知識や技術をより深く修得します。

#### 4年次

##### 将来(就職・進学)に向けての活動

卒業研究では、卒業論文または卒業設計を選択します。

### 計画・歴史系 / 環境・設備系 / 構造・生産系

【JABEE】3年次には、JABEE(日本技術者教育認定機構)の認定を受けた、より高度で充実した教育・指導を行う「建築学科総合コース」の選択もできます。JABEE認定により、国際的に通用する技術者を養成する高等教育機関として認められ、卒業と同時に技術士補(要手続)の資格を得ることができるとともに、技術士の一次試験が免除されます。

### 建築学科総合コース

#### 建築設計製図I

設計演習の導入科目として、造形演習課題、図面模写、模型製作、CAD演習などを行い、建築設計の基礎的な力を養います。

#### 住宅設計

「住宅」の設計プロセスを通して、環境を読み取り、生活を思い描き、発想し、形にし、図面化することを学びます。

#### 建築デザイン製図

設計課題を通して、設計・計画、構造・材料・構法、環境・設備の各専門分野を総合的に設計作品にまとめる力を養います。

#### 卒業設計


自ら課題を発見し、リサーチし、基本構想、計画・設計、プレゼンを行い、「考え・つくり・伝える」建築力を養います。

# 教員紹介 | 住居・インテリア学科


	<b>研究分野</b>
	建築環境・設備 環境工学 教育工学
	<b>研究テーマ</b>
教授 KAGAWA HARUMI 香川 治美	快適で健康的な居住環境デザインのための教育・研究 ICTを活用した教材開発・研究

	<b>研究分野</b>
	建築計画 デザイン学
	<b>研究テーマ</b>
教授 KOIZUMI TAKASHI 小泉 隆	インテリア・建築・都市を対象とした空間デザインおよび北欧デザインに関する研究

	<b>研究分野</b>
	建築計画・建築設計 都市デザイン
	<b>研究テーマ</b>
教授 FUKUYAMA HIDECHIKA 福山 秀親	業務系施設デザインに関する研究

	<b>研究分野</b>
	都市計画・建築計画 こども環境学
	<b>研究テーマ</b>
准教授 ISAMI YASUHIKO 諫見 泰彦	アート・サイエンスコミュニケーションと地域貢献に関する踏査および実践研究

	<b>研究分野</b>
	都市計画・建築計画
	<b>研究テーマ</b>
准教授 SHINANO YASUHIRO 信濃 康博	産学連携プロジェクトによる再生・活用・リノベーションの実践と研究

	<b>研究分野</b>
	建築計画 住生活学 福祉工学
	<b>研究テーマ</b>
准教授 MATSUNOO YOSHIMI 松野尾 仁美	居住地選好及び居住ライフスタイルに関する研究、福祉住環境に関する研究

	<b>研究分野</b>
	建築計画（建築人間工学） デザイン学
	<b>研究テーマ</b>
講師 YOSHIMURA YUKI 吉村 祐樹	建築空間・設備機器・家具の快適性や安全性に関する研究

	<b>研究分野</b>
	建築計画・意匠 住宅論
	<b>研究テーマ</b>
特任教授 YANASE MASUMI 柳瀬 眞澄	住宅における「心地よい」空間を実現する建築設計手法



## ■ 学科の学びの特色

住居・インテリア学科では、2022年度から「空間設計のスペシャリストを育成する」独自のカリキュラムがスタートしました。その特徴は次の通りです。

### 1. 空間設計のスペシャリストを育成

建築都市工学部における住居・インテリア領域の中でも、①人々を包み込む基本的な空間、②人々が住まう住居、③オフィスや商空間といった業務系施設のインテリア、④住居と業務系施設を複合した住居系複合施設のインテリアの4つを対象を絞り込んだ設計教育を設計基幹科目として位置づけます。その上で、住居・インテリア領域における上記の4つを対象とした設計の専門家たる人材養成を目指しています。

### 2. 少人数で実践的に専門性を高めるスタジオ制

1・2年次に前述の空間設計を学ぶ設計基幹科目とともに、住居・インテリア領域の基盤となる科目を学修し、住居・インテリア領域の知識を涵養して行きます。1・2年次での学びから、将来の進路選択を考えながら、各自が興味・関心のある専門分野を探索します。3年次前期からは専門分野別の各スタジオにわかれ、住居・インテリア領域における個別の専門的知識及び技術・技能を学修します。スタジオ制の導入により、実践力を培うことを重視した教育プログラムとなっています。

### 3. 実体験や地域・社会との関わりを重視した学び

カリキュラムでは、デザインサーベイ、プレゼンテーション実習といった実体験を伴う科目が複数開講しています。所属スタジオでの活動では、ICTを活用した工学的な実習もあり、実体験が豊富なカリキュラムとなっています。また、地域や企業との共同のプロジェクトが数多く進行しており、地域や社会的な課題解決を目指して、楽しく学ぶことができます。このように、実体験や地域・社会との関わりを重視した学びも特徴の一つです。

## ■ 2022年度の学科の TOPICS

「3学年で取り組む実大の木造建築物制作プロジェクト」

実際のサイズの木造建築物を制作し、図面上では気づくことができない細部を観察しながら、その気づきを設計の工程へフィードバックすることができます。制作の過程で、木組みや仕口など実物を見ることで、木造建築への理解も深まります。他大学ではあまり見られない、木造軸組の仕組みを学ぶ取り組みです。成果物は、(社)九州木質建物協議会主催の「第3回九州木質構造展」にて展示し、多くの方々にご覧いただきました(写真1)。



写真1 第3回九州木質構造展の様子

## ■ 卒業後の進路


2022年度までの進路実績は以下の通りです。(株)アーキタンツ福岡、(株)穴吹工務店、(株)イチケン、かわつひろし建築工房、五洋建設(株)、住友林業ホームテック(株)、生和コーポレーション(株)、タカラスタンダード(株)、(株)竹中工務店、大東建託(株)、大和リース(株)、東建コーポレーション(株)、西松建設(株)、(株)乃村工芸社、(株)ヒラテ技研、法政大学大学院デザイン工学研究科建築学専攻、三井デザインテック(株)、(株)ヤマダホームズ、(株)菱熱。※五十音順

## ■ 目指せる資格


卒業後すぐに一級建築士、二級建築士の受験資格を取得可能です。大学院在学中や卒業後数年以内に、2級建築士を取得する学部卒業生もいます。その他、インテリアコーディネーターや宅地建物取引士に挑戦し、在学中に合格する学生が複数います。

# 教員紹介

都市デザイン工学科

	<b>研究分野</b>
	生態学・緑化学
	<b>研究テーマ</b>
	自然環境の保全・再生・修復 および創出
教授 UCHIDA TAIZO 内田 泰三	

	<b>研究分野</b>
	地盤工学
	<b>研究テーマ</b>
	発生土や副産物の地盤工学的 有効利用
教授 HAYASHI YASUHIRO 林 泰弘	

	<b>研究分野</b>
	土木材料 コンクリート構造工学
	<b>研究テーマ</b>
	多機能コンクリート部材 の開発に関する研究など
教授 MATSUO EIJI 松尾 栄治	

	<b>研究分野</b>
	土木環境システム
	<b>研究テーマ</b>
	流域治水と雨庭に関する研究、 文化的景観の計画と管理に関する研究
教授 YAMASHITA SAMPEI 山下 三平	

	<b>研究分野</b>
	耐震工学 構造工学
	<b>研究テーマ</b>
	設計の想定を超える規模の地震作用 に対する橋梁全体系の崩壊動特性の 解明とその評価法の確立
准教授 OKUMURA TORU 奥村 徹	

	<b>研究分野</b>
	水環境工学, 河川工学, グリーンインフラ
	<b>研究テーマ</b>
	自然の機能を活用した流域管理に 関する研究, AI/IoT 技術による 洪水予測
准教授 SATO TATSURO 佐藤 辰郎	

	<b>研究分野</b>
	社会システム工学 安全システム 自然災害科学
	<b>研究テーマ</b>
	災害対応及び対策の実証的研究
准教授 YAMADA TADASHI 山田 忠	

	<b>研究分野</b>
	水工水理学 海岸工学
	<b>研究テーマ</b>
	沿岸域の防災と海域の利用 に関する波や流れの研究
准教授 YOKOTA MASAKI 横田 雅紀	

### ■学科の概要

都市デザイン工学科は1964年に九州産業大学工学部（当時）に設置された「土木工学科」に端を発した学科です。社会の基盤となる鉄道、道路、港湾・空港、河川、上・下水道などの経済・社会生活を支える公共施設をつくる技術を学ぶとともに、公園、緑地、自然環境などの厚生空間を整え、人間を含む生物一般が共に生きられる環境のデザイン力、計画力を身につける学舎でもあります。

さらに近年は、地球規模の環境問題、気候変動、それとも連動する大規模災害への対策が急務であり、そのための新しい知識と技術が求められています。本学科ではこれら新旧の課題について学ぶことができ、必要な資格が得られるようにカリキュラムの工夫をしています。

### ■都市をデザインするプロフェッショナルの育成

本学科の特色の一つは、都市防災や生物多様性など社会的要望の大きいテーマについて「土木デザイン」「都市防災」「まちづくり」「環境緑化」の4分野を軸に学修するカリキュラムがあることです。本学科のプログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定されており、国際的に通用するものです。

### ■地域の文化と自然を活かすワークショップ

二つ目の特色は、様々な地域連携の実践です。

たとえば、近隣地域で登山道を住民・行政・本学教員・学生が共同で活用策を考案するワークショップを実施しています。そこではまた、古民家を空き家対策でリノベーションしたり、竹林の山を灯明祭で文化的に活用したりするなど、持続可能な地域をつくる支援と連動したプロジェクトを行っています。

### ■自然災害と折り合う社会のために

3つ目はグリーンインフラを軸とした災害対策の研究・教育です。

ここ数年、九州だけでも桜島の噴火、熊本地震、九州北部豪雨など自然災害が頻発しています。火山活動や地震などによる斜面崩壊を低減する草木の導入や、都市型水害による被害をグリーンインフラによって低減する新技術を行政・産業界とともに提案

しています。

### ■目指せる資格

JABEE（日本技術者教育認定機構）のプログラム修了生には「技術士補」と同等の資格が授与されます。また、卒業後「建築士」が受験できること、「測量士補」や「環境再生医（初級）」の資格を登録申請により取得できることなども本学科の魅力となっています。

このほか、土木施工管理技士（二級は在学時に受験可）、建築施工管理技士、造園施工管理技士、管工事施工管理技士、ビオトープ管理士などの技術者資格（二級）を、最短で取得するための体系的なカリキュラムが導入されています。

高等学校教諭一種免許状（工業）なども特徴として挙げられます。

### ■就職先について

卒業後、就職して活躍する分野は多岐にわたります。民間会社としては、建設コンサルタント業・建設業・住宅/不動産会社・高速道路会社・鉄道会社・電力会社・造園業など多岐にわたります。

また、官公庁（国土交通省・都道府県・市町村・警察・消防など）や学校（大学・高校教員）も人気の就職先となっています。



実習の様子



## ■内田研究室（構造解析ゼミナール）

安全な構造物を作るためには、構造物のこともっとよく知る必要があります。内田研究室では、様々な力を受ける構造物や構造部材の挙動を解析的に明らかにすることが大きなテーマです。

内田研究室では、解析手法として、構造設計にも利用される構造解析や材料レベルからモデル化を行う有限要素法解析（FEM解析）を用います。3年生でゼミ配属になると、有限要素法の勉強を開始します。ゼミでは毎回、プレゼン形式で輪講を進めます。4年生になると、研究室会議で、毎週の研究の進捗状況をプレゼン形式で報告し、みんなでディスカッションします。内田研究室ではプレゼンに次ぐプレゼンです。また、3年生歓迎会に始まり、4年生の卒研の節目節目に、その他、夏合宿、最終発表

会、最終提出、追い出しコンパと、飲み会に次ぐ飲み会です。とても充実した2年間を送ることができます。



2019 夏合宿

## ■北山研究室（建築設備ゼミナール）

建築や都市の環境・設備分野の研究室です。快適でエコな環境創造は大切な命題ですが、研究室では“Think Globally, Act Locally”を合言葉に、様々な空間スケールでの課題に取り組んでいます（図1参照）。

2022年度の4年生は15名で、多くが設備工事業（サブコン）や総合建設業（ゼネコン）へと進みました。取り組んだ卒業研究のいくつか紹介します。「**建築建具の反りの研究**」では、フラッシュ戸を対象に反りの発生と要因に関して、事業所へのヒヤリングや簡易実験により整理・分析を行いました。「**大学施設でのエネルギー消費量とCO2排出量の研究**」では、本学の過去5年のエネルギー消費量を整理し、類似施設との比較、コロナ禍前後の動向などを分析、特性を明らかにしました。「**学校教室での空調・換気設備の最適運用の研究**」では、継続して長期実測

してるデータから設備の運用法と教室環境の調節について分析、提案を行いました。「**センシングによる可視化とマイコン制御による環境調節の研究**」では、居室の空気・温熱環境、照度などを自動計測し、その結果から空調・換気設備や照明設備の運用をマイコンで自動制御します。高齢者の熱中症予防や自然採光の積極的利用に寄与できればと思っています。

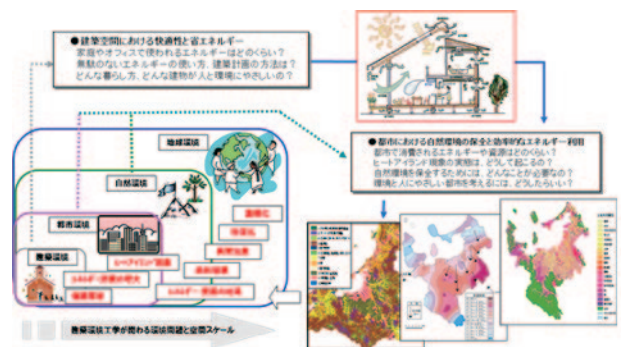


図1 研究対象のスケールと環境問題

## ■白川研究室（建築材料構法ゼミナール）

本研究室は、建築材料や構法などを専門分野としています。研究としては、鉄筋コンクリート構造物の耐久性予測、補修補強材料の評価、新たな仕上げ材料の開発などを行っています。行っている研究の一部について研究の背景と内容を紹介します。

現在、多くの建物が存在し、また、建設されています。日本全国での建築土木分野で使用される工事額は、五十五兆円程度ですが、この内、年々維持修繕工事の比率は高まっており、28%が維持修繕工事に使用されています。維持修繕工事を行うには、建築物の躯体部分の劣化程度（耐久性）を診断することが必要となってきます。

そこで、本研究室では、非破壊で建物の劣化状況を予測することができる「表面吸水試験装置」を開発し、その有用性を検証しています。写真1に研究

室で開発している「表面吸水試験装置」と既に実用化されている「透気試験装置」を使用し、実構造物を調査している様子を示します。この装置を使用し、鉄筋コンクリートの耐久性を評価する方法について他の大学と共同で検討もを行っています。

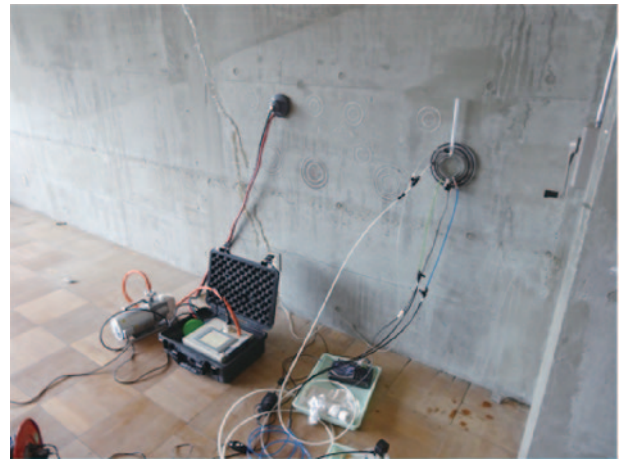


写真1 表面吸水試験装置による実構造物調査

## ■花井研究室（コンクリート系構造ゼミナール）

鉄筋コンクリート造は、建物のさまざまな構造種別の中でも主要な構造のひとつです。また、地震国・日本において、地震に強い建物を造ることは重要な課題です。花井研究室・コンクリート系構造ゼミナールでは、鉄筋コンクリート造の建物について、建物を構成する部材や接合部の加力実験を通じて、設計法や性能評価方法について研究しています。

これらの研究成果は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準」といった建物の設計基準に反映されています。

また、企業と共同で、鉄筋コンクリート造の建物の新たな耐震補強工法の開発にも取り組んでいます。



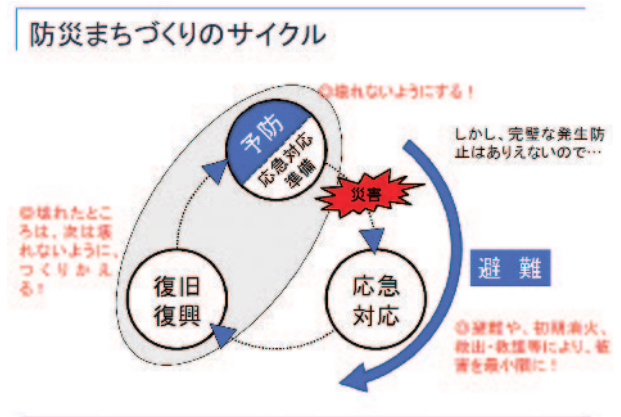


## ■日高研究室（都市政策ゼミナール）

日高研究室は、都市計画を専門とする研究室です。1999年度に開設されました。1999～2006年度までの8年間は、CADやCGによるコンピュータ支援によるビジュアライゼーションを主な研究テーマとし、その活動の中では、景観研究センターとの連携により、小型CCDカメラを活用したシュノーケルカメラシステムの開発等を行ってきました。

その後は、『景観まちづくり』や『防災まちづくり』をテーマとした都市計画研究を軸にして卒業論文等の指導を行っています。近年の卒業論文等では、『景観まちづくり』研究として「景観法制定前後の景観形成基準の変化に関する研究」「絵になる景観の視点場環境に関する研究 - 筑後画壇の描いた風景画を事例として -」等、「防災まちづくり」研究とし

て「地域による地震災害予防・減災活動に関する研究」、天神地区等のエリアマネジメント組織との共同研究として「エリア防災の推進に関する研究」、「雨水貯留浸透技術を活用した分散型水管理による防災まちづくり」等の研究に取り組んでいます。

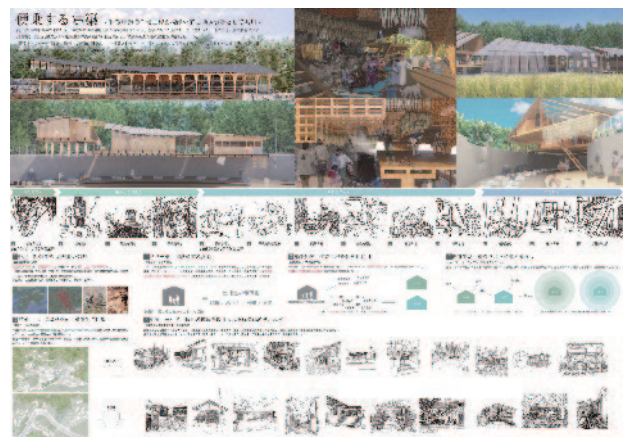


## ■矢作研究室（建築デザインゼミナール）

建築デザイン・設計を専門分野とする研究室です。実践教育を主眼としており、課題や研究活動においても、学生の提案内容が実際の社会でどのような意義があるか、あるいは実現可能であるか、意識しながら指導を行なっています。3年次のゼミでは、少子高齢化、グローバル化、環境問題、SDGs、ウィズコロナなど、その時々社会問題について話し合い、学生がそれぞれ社会への眼差しを持ち、建築で何ができるのか徹底的に議論を行います。他には、建築家を選択して、作品や思想を調べて議論を行い、建築家の住宅作品をCGや模型で再現して、その建築家が意図したことを読み解くなど、実践的な修練を行います。

そのような修練の集大成として行う「卒業設計」

では、田所佑哉くんの作品が「SDL卒業設計日本一決定戦」で11選をはじめ、学外で7つの賞を頂き、他の学生も学内外で入選を果たしました。



田所佑哉くんの卒業設計作品「便乗する建築」

## ■大庭研究室（建築ストック活用ゼミナール）

私たちの住む身近な地域には、多くの使われていない建物が存在します。その種類は、住宅（戸建て、集合住宅）や店舗、診療所、学校など様々であり、建物の歴史や所有者、築年数、構造、規模、敷地、周辺環境、地域課題等も異なります。それゆえに、「建築ストックの地域活用」には決まった正解がありません。また、これらストックは、適切に管理されなければ私たちの生活によく影響を及ぼします。しかし、管理・活用の工夫により、地域の衰退緩和や活性化に繋げることができます。リノベーションは地球環境保全に貢献する選択肢とも言えます。

大庭研究室は、2021年度より始まった新しい研究室です。建築ストックとその周りにある地域資源（自然、歴史、文化、慣習、人材等）のコラボレーションによる地域づくりの仕組みを研究していきます。フィールドワークを中心に活動し、詳細な調査・分

析に取り組み着実に研究成果を積み重ねていきます。  
（主な研究テーマ）

- ・民家再生(空き家活用) システムに関する研究
- ・農泊の持続可能性に関する研究
- ・地域施設の適正配置計画に関する研究



松山市の戸建て住宅を活用したシェアハウスの実測調査の様子

## ■姜研究室（耐震構造ゼミナール）

巨大地震に対して備えるためには、新築建築物の耐震設計の高度化だけではなく、既存建築物の耐震性能を評価して適切な対応をすることも重要な課題となります。耐震構造ゼミナールでは、新築建築物の耐震設計法、新構法の開発、既存建築物の補強方法などを研究しています。



- ・耐震壁中間梁のせん断強度に関する研究
- ・有開口耐震壁の圧力場を考慮した耐力評価式の提案
- ・W-Eco SYSTEM：省資源・長寿命化を目指した小型PCaパネル打ち込み型枠構法の開発
- ・中村式鉄筋コンクリート造建築の調査・記録および解析
- ・デザインの保護を重視した近代建築の耐震補強の方法と近代遺産の保存活用
- ・九州における現存する鋼構造物の資料調査

←門司赤煉瓦プレイスをはじめ、福岡や北九州などのまちづくりの活動に参加し、保存・活性化のお手伝いなどもしています。

## ■富田研究室（建築歴史ゼミナール）

富田英夫研究室（建築歴史ゼミナール）では、近代の建築・都市理念の地球規模での影響関係に注目し、つぎの〔1〕〔2〕〔3〕をメインプロジェクトとして研究しています。

〔1〕20世紀ドイツの建築芸術学校バウハウスの教師・卒業生たちの地球規模での建築・都市設計にかんする研究

〔2〕中世・近世・近代のドイツ語圏地域における曲線・曲面を使った建築形態のCGを用いた形態分析（ドイツ後期ゴシックの反転曲線リブやフライ・オットーのグリッド・シェル構造の研究）

〔3〕日本人建築家第一世代（とくに九州出身の辰野金吾、曾禰達蔵、岡田時太郎）の建築手法の研究



『きたれバウハウス』展（東京ステーションギャラリーほか、2019-2020）への協力（カタログ執筆など）

## ■船越研究室（居住計画ゼミナール）

今日の高齢社会の進行に伴い高齢者が誰とどのように住まうかは重要な課題です。本研究室は、近居、隣居、同居など親子の居住関係を基軸とした高齢者居住について研究を行っている居住計画研究室です。

本学科では3年次から1研究室当たり7～8名の学生が研究室に配属され、同学年から卒業研究の導入教育をゼミナール形式で行っています。

3年次前学期の建築学特論Ⅰでは、建築技術者としての眼を養うひとつとして20世紀の名建築について学び、そのまとめとして関心のある建築について発表・討論を行っています。また、高齢者居住および建築計画研究のための調査・分析方法について学んでいます。

3年次後学期の建築学特論Ⅱでは、日本住宅の変化・発展および多様化する高齢者居住について学び、

そのまとめとして親子二世帯居住の住宅設計を行っています。

卒業研究は、卒業研究履修生各々が興味・関心のあるテーマに取り組んでいます。そのため居住施設、公共施設、福祉施設、福祉政策、都市景観等々バラエティーに富んでいます。

卒業後の進路は、大和ハウス工業（株）、（株）一条工務店などの住宅メーカーおよび三井住友建設（株）などの建設会社に就職しています。





## ■隈研究室（建築環境ゼミナール）

快適性と省エネルギー性の両方に優れた住環境デザインをどのように実現するかということを考えて研究をしています。建物を使用する際の温湿度環境や暖冷房で消費するエネルギー量（電気代）の算定をコンピュータシミュレーションで行い設計に反映させます。また、省エネルギーや脱炭素に向けた動

きとして、全館空調システムに自然エネルギーである太陽熱を取り入れることで暖房、給湯、浴室乾燥などで消費するエネルギーの削減をします。そのプロジェクトでは、気候特性の異なる6地域に建設した実証住宅のすべてで43~92%の負荷削減を達成しています。



全館空調システムのイメージ



実証住宅の外観写真

## ■香川研究室（居住環境デザインゼミナール）

### 居住環境デザインゼミナールの目的

本ゼミナールの目的は「快適で健康的な居住環境デザインのための研究」です。そのために環境工学・感性工学（・設備工学・教育工学）の観点から、理論的かつ実践的に取り組みます。課題を発見し、技術的解決を探求するために、五感を研ぎ澄まし、ハカ（測・量・図・計）り、ICTやAIなどを活用して得たデータを定量的に分析、評価します。そこで本ゼミナールでは、「誰のために、いつ、どこで、□を○の状態にする、□を○の量に満たすようにする」、「□の状態や量を○にするために◇する」とモデル化し、□、○、◇に当てはまる解を合理的に導きます。□は、私たちが居る住環境の、特に住居・インテリアに焦点を絞って分解して選んだ、居住者の快適性や健康に大きく影響しそうな要素です。□の制御や組み合わせの工夫によって快適で健康的な居住環境デザインを具現化できるという仮説をたてています。時々刻々と非定常に流れ複雑に相互作用している目に見える要素も見えない要素も、□と○と◇に当てはめて考えます。

### 2022年度の主な研究テーマ

◎断熱・エネルギー消費・快適と健康の住環境評価（大学キャンパスの室内）◎環境物理および心理・生理の測定とデータ分析による居心地の主観と客観の総合評価（天然由来の香りを立たせる空間、段ボール製家具を利用する空間）◎地理情報システム・地理情報データの利用による居住環境評価と必要エリア特定（障がい者グループホーム）

### 2022年度の研究室のプロジェクト活動と連携

◎HACOCE（DIY ソロワークブース）の開発：(株)リモ・トローゼン／大東建託(株)／(株)リノベンチャー／福岡工業大・田村かおり先生 ◎プレゼンテーション3DCADを用いた大牟田市の古民家リノベーション設計計画：三池光竹実行委員会／NPO法人都市・



写真 ゼミナールでの活動の様子

建築遺産保存支援機構 ◎障がい者グループホームの設計計画から竣工まで：(株)スエナガ／(株)ゼンリン／安心計画(株) ◎カンボジアの住宅問題に取り組むオンラインSDGsインターンシッププログラム：ソーシャルマッチ(株)／Mr.Kongngy氏（社会起業家）／北九州市立大・辻井洋行先生／九州工業大・徳田光弘先生 ◎避難施設における人々の健康的な生活と快適性のための居住環境調査：福岡パッケージ(株)／熊本県益城町／人間科学部・安達先生・秋山先生・萩原先生・福田先生 ◎人にも建物にも環境にもやさしい窓：九州計測器(株)／(株)サンゲツ／(株)ジャパンシールド／亀屋硝子(株)／三建設備工業(株)

### ゼミナール卒業生の主な就職先

(株)アサヒファシリティズ／石垣市建築局／大橋エアシステム(株)／亀屋硝子(株)／(株)河村佐藤デザイン／(株)九電工／(株)JRシティ大分／(株)笹戸建築事務所／昭和建設(株)／(株)住居時間／(株)新日本設備計画／(株)スエナガ／須恵町役場／セキスイハイム九州(株)／大英産業(株)／大和ハウス工業(株)／高藤建設(株)／(株)竹中工務店／(株)ディークオン／ナフコ(株)／(株)ピースホーム／福岡エネルギーサービス(株)／丸栄化工(株)／(株)菱熱／悠々ホーム(株)／(株)よかタウン

### 主な資格取得

建築士／建築施工管理技士／消防設備士／宅地建物取引士／電気工事士

今年度も引き続き皆様から多大なるご支援を戴いております。記して深謝申し上げます。香川 治美

## ■小泉研究室（空間デザインゼミナール）

インテリア・建築・パブリックスペースなどを対象とした空間デザインに関する研究とその実践活動を主たる専門とする研究室です。

近年は、北欧の建築・デザインの調査研究を基に、それらをまとめた書籍作りや展示会の開催、講演活動などに力を入れています。以下、最近の実績。

### [学生の活動]

#### (1) 2022年度「卒業研究論文」の題目

- ・書籍 Danish Lights を資料としたデンマーク照明器具のデザイン特徴とその系譜
- ・ブルーノ・マツソンの曲木によるデザインチェアの造形研究
- ・窓の演出手法に関する事例研究
- ・狭小住宅における設計や住まうための工夫の体系化を目指した文献調査研究
- ・異文化交流とコミュニティ形成に向けた九州・沖縄エリアの留学生受け入れ学生寮の施設および利用実態調査
- ・働き方改革・コロナ禍を契機としたオフィスの在り方、働き方の変容に関する研究
- ・日本のパブリックスペースの問題点・課題を考える視点とアクティビティの制限に関する基礎調査

#### (2) 2022年度「卒業研究設計」の題目

- ・中洲エリアにおける賑わい・多様性・回遊性を創出する水辺・水上・歩行者空間の計画
- ・北九州魚町銀天街のアップグレード

### [小泉の活動]

#### (1) 北欧の建築・デザインに関する書籍・論考

- ・『北欧のパブリックスペース』 小泉隆、ディビッド・シム（学芸出版社、2023年2月）
- ・『北欧建築ガイド 500の建築・都市空間』 小泉隆＋九州産業大学小泉隆研究室（学芸出版社、2022年）
- ・『ステイホームを心地よく…ぬくもりの北欧スタイル』 行正り香、小泉隆、他（NHK出版、2020年）

- ・『アルヴァ・アアルトのインテリア』 単著（学芸出版社、2020年）
- ・『北欧の照明』 単著（同、2019年）
- ・『アルヴァ・アアルトの建築』 単著（同、2018年）
- ・『北欧モダンチャーチ&チャペル 聖なる光と祈りの空間』 単著（バナナブックス、2017年）
- ・『北欧の建築 エレメント&ディテール』 単著（学芸出版社、2017年）

#### (2) 「北欧の灯り展 ～照明デザインから見る灯りの文化～」 日本フィンランドデザイン協会と共催。

- ・2019/7/7—7/31 新宿リビングセンターオゾン
- ・2019/9/7—11/3 長野県小海町高原美術館

#### (3) 講演等

- ・2023/3/20 シティラボ東京「北欧のパブリックスペースとアクティビティ 小泉隆×ディビッド・シム “北欧のパブリックスペース”出版記念トーク」
- ・2022/10/3 クリム ためになるオンラインセミナー 講演「デンマーク式 幸せな日々を送るヒント ヒュッゲという暮らし方」 主催：生活協同組合連合会コープ九州事業部、協力：デンマーク大使館
- ・2021/1/13等 出演 NHK Eテレ「趣味ドッキリ！ステイホームを心地よく…ぬくもりの北欧スタイル 第6回おうちで実践！インテリア① 北欧に学ぶ あかりでつくる心地よさ」
- ・2020/1/17 ギャラリーエークウッド講演「アイノとアルヴァ二人のアアルトが生きた時代」
- ・2019/12/11アルテック・ストア講演「北欧の灯り」
- ・2019/9/8 小海町高原美術館講演「北欧の灯り～照明デザインから見る灯りの文化～」

[小泉 隆]



## ■福山研究室（商環境デザインゼミナール）

<A>『領域・境界』を主題にした建築意匠学・建築計画学を基盤にする**設計の研究**。

<B>『領域・境界』を主題にした**商環境**（オフィスや商業空間などの業務系施設、非専用住居、新しい形式の住居、公共施設）の**実務設計**。

上記<A><B>の研究設計・実務設計を専門とする福山秀親主宰の研究室です。企業や地方自治体から実施を前提にした設計・デザインの研究・実務を積極的・戦略的に受託を行い、『領域・境界』を主題にした建築意匠・建築計画論を社会に於いて実施の設計・デザインに繋げる方針で活動を行っています。

受託研究例（2022年度）①本学オープン・イノベーション・センターのカフェ業務空間・グラフィック・ユニフォームなどのブランディング実施計画（受託元：本学理事会+産学支援室、テーマ：障害者就労の商環境）②駅前不動産賃貸集合住宅・新しい住宅価値の創造実施計画（受託元：駅前不動産、テーマ：賃貸住宅の非専用住居化）③川端通り商店街における商・住併用空間実施計画（受託元：うちのひ、テーマ：商環境+住居・都心住居）④地方自治体のブランディング実施計画（受託元：古賀市上下水道課、テーマ：公共事業民営化の業務空間）等。

研究活動と教育活動を分けて位置付けています。

教育活動は（ゼミナール）は、商環境デザインゼミナールという名称で、業務空間（オフィスや商業空間などの商環境）・消費空間（住環境）を活動の『領域・境界』の視点・立ち位置から建築・インテリアを考察していきます。『領域・境界』を主題にした建築意匠・建築論をゼミメンバーで深め、ゼミ生個々自らが、**新しい領域論・境界論**を示し、領域形成・

境界面の形態操作を試み、**新しい建築・インテリア**の空間設計や概念操作に繋げていき、「卒業研究」で発展させました。卒業研究の形式は「**研究としての設計**（設計実習とは異なる）」です。



駅前不動産賃貸プラン

「空き家・部屋」  
を  
クラフト・キャンプ  
**Craft  
Camp**

駅前不動産賃貸集合住宅プレゼンテーション事例



商業施設設計実務事例

## ■ 諫見研究室（地域貢献実践ゼミナール）

諫見泰彦研究室（地域貢献実践ゼミナール）は、Fukuoka Growth Next（旧福岡市立大名小学校を改修した新規企業の支援施設）の実績を持つ、ディースイングループ・大村湾商事と連携した「長崎・大村湾HUB構築プロジェクト」に参画しました。長崎県大村市本町通商店街にある2階建ての空き店舗を、HUB機能を持つワーキングカフェにコンバージョンする企画・設計・施工に携わり、利用客となる住民との交流を体験したプロジェクトでした。

大村市は長崎空港や長崎道の2つのインターチェンジがあり、東京・名古屋・大阪・福岡などからのアクセスに優れています。このプロジェクトは、西九州新幹線・新大村駅新設に伴う、既存の大村駅周辺への地域貢献実践になることを目的としました。

諫見研究室は再生のための設計案の口頭発表、ポスター・模型の展示発表、提案検討のためのワークショップ、大村市民への成果プレゼンテーションを実施しました。またコロナ禍に影響されるスケジュールを工夫しながら可能な限り施工にも携わり、ささやかながらプロジェクトの実現に寄与しました。

1階には地域住民が集い、ビジネスや観光での来訪者が情報を得るカフェとワーキングスペース、2階には事業所を置きたい企業が入居できるサテライトオフィスを備えたこの場所は、「琴の海」と別称される大村湾からの発信や、多くの「事」を起こしていく拠点になることなどを目指して「coto」と名づけられ開店しました。なおこのプロジェクトは、日本インテリア学会九州支部長賞を受賞しました。



ワーキングカフェ「coto」 大村湾商事（写真左）と共同で、日本インテリア学会九州支部長賞を受賞



## ■信濃研究室（再生デザインゼミナール）

### ■既存ストックの再生・活用・リノベーション

研究のテーマの軸は、「今世紀に入り始まった“リノベーション現象”を手がかりに、既存ストックをいかに再生・活用することにより、私達が育ててもらった“まち”を次世代に引き継ぐことができるのか」です。そのためには、「これからの時代がどうなるのかを予測し、どのように対応していけば自分の住んでいるまちを維持できるのか」を学んでいく必要があります。

### ■何を学ぶのか

再生・活用・リノベーション時代に重要なのは、「文化的価値の上の文化的行為をいかに創造できるのか」です。リノベーションが生み出す「ライフスタイルの文化的価値」は「世界観」を共有する人々を吸引する「共感システム」として機能し、感度の高い人々を引き寄せ、いつしか「エリアの再生＝まちづくり」へと発展していっています。このような文化的構図を背景とした継続的な小さな取組の拡大が、育ててもらった“まち”を次世代に引き継ぐことにつながっていきます。そこで、つぎのようなことを学んでいきます。

### ■“なぜ作るのか”を考えること

産学連携による“実際の集合住宅”を対象とした再生・リノベーションデザインの実践を行います。また、作品作成能力を向上させるためのコンペ等の作品制作にも取り組みます。その時に大切なのは「これからの時代がどうなっていくのかを考えながら、具体的なエリアを想定し、これからの生き方・働き方を考えたうえで設計・デザインについて考えること」です。これからの時代は変化が激しく、予想が難しく、人口は減少し、社会は縮小していきます。このような時代においては、「なぜ作るのかを考えること」が、「設計・デザインを考えること」につながっていきます。

信濃 康博



名島三の丸団地リノベーションプロジェクト



福間倉庫リノベーションプロジェクト

## ■松野尾研究室（住生活学ゼミナール）

### □研究室の特徴

研究室では、「住居」を中心に据え、主に居住ライフスタイルに関連するテーマを扱っています。また、「住居」が集まってできた「まち」も研究対象として捉えています。ゼミでは、こうしたスタンスのもと、間取りだけでなく、法令、架構、環境を総合的に理解して住居設計ができるよう、実践的な学びの場を設けています。

### □研究室の研究テーマ

#### \*伝統的な木造建築文化に着目

日本の伝統的な木造建築文化に着目し、古民家や伝統的建造物群保存地区を研究対象としています。歴史的建造物を地域資源として活かすための課題を分析するほか、そこに住む人の暮らし方調査や古民家の実測調査も行っています。現在の住宅のあり方を考察するためにも、日本の歴史的文脈の中で培われた木造建築文化に触れるよう、伝統構法を学ぶ機会も設けています。

#### \*質の高い住まいを目指して

暮らしの価値観が表れる居住ライフスタイルや居住地選好に注目し、どこに住むとどんな暮らしが実現できるかを調査しています。調査結果から、暮らしの質を高めるための要因を考察していきたいと考

えています。住まいや住む場所の質が高まれば、毎日の暮らしが豊かになるのではないのでしょうか。こうした質の高い住まいのあり方は、地域へと波及し、まちづくりへと繋がっていくと考えています。

#### \*だれもが過ごしやすい住環境を

今後、少子高齢化が進行し、高齢者の一人暮らしや在宅介護が増加するなか、社会の変化に対応した住宅のあり方が問われています。そこで、高齢者や障害者、そして誰もが過ごしやすい住環境を目指して、福祉の視点に立った住環境も研究しています。

### □研究室の活動報告

古民家の活用を念頭に活動しており、(一社)柳川暮らしつぐ会主催の古民家清掃活動への参加や改修中の古民家の現場見学を行いました。

また、昨年度から継続して、大野城市の昭和8年建築の納屋の活用計画立案に取り組んでいます。今年度は、「地域」「福祉」「教育」の視点で、納屋横の田んぼを含めた一体的な活用案を作成し、所有者や専門家を前にプレゼンテーションを行いました。

その他、(公社)福岡県建築士会が主催する「多世代居住による空き家対策&コミュニティ再成事業」に参加し、卒業論文のテーマとして調査結果をまとめました。

松野尾 仁美



写真1 「大野城市納屋プロジェクト」発表の様子



写真2 「大野城市納屋プロジェクト」発表の様子



## ■吉村研究室（インテリアデザインゼミナール）

家具や照明器具など空間に関わるモノを対象に、特に「建築人間工学」の視点から研究を進めています。建築人間工学は人間と建築空間・設備機器・家具等との調和（安全性や快適性等）を考える学問です。

当研究室では、学生と共に、次のことを行っています。（1）学生インテリアデザインコンテスト出展、（2）卒業研究（建築人間工学に関する研究）、ほか。本稿では活動の一部を紹介します。

### （1）学生インテリアデザインコンテスト出展（図1）

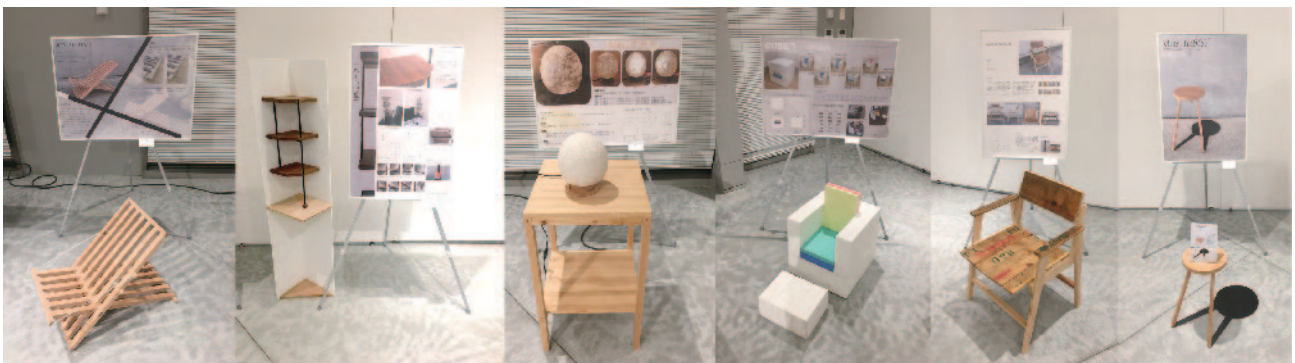
自らデザインした家具を制作し、外部からの評価を受ける機会を得るために、3年生の後期に、J I D 日本インテリアデザイナー協会南日本エリア主催「学生インテリアデザインコンテスト」に出展しています。2021年度は、「古材を活用した椅子」を提案し

た学生が奨励賞を受賞しました。審査員からお話を伺ったところ、座面や背板の寸法・角度・曲面がよく考えられており、身体へのフィット感が良かった。また、古材の荒っぽい見た目や印象と座り心地のギャップも含め、評価されたそうです。

### （2）卒業研究

主に建築人間工学分野の卒業研究を行っています。これまでの主な研究テーマ：高齢者のための木製安楽椅子の設計・製作～立ち上がり動作を考慮した肘掛けの位置に関する研究～/評価グリッド法を用いた浴室空間の評価構造に関する研究/携帯情報端末使用時の立位姿勢を補助する肘置き高さと同前方壁奥行き最適値を求める主観評価実験など。

[吉村 祐樹]



■2021 年度の出展作品



■審査会の様子：審査員の前でプレゼンする学生  
図1 コンテスト出展について



■制作風景（上段 2021 年度出展作品の右端作品）



## ■ 柳瀬研究室

2022年度より住居・インテリア学科において「設計教育に特化した新カリキュラム」が新たにスタートするに伴い、特任教授として着任いたしました。私は、31才で設計事務所を開設し、今年で38年目となります。その間22年間九産大建築学科で非常勤講師を務めるなどの教育関係、多種わたる建築、特に住宅は120以上の設計に携わってきました。

### ・ 社会に求められる人材の育成

住宅の設計は、暮らし方の提案でもあり、同時に住宅と、地域や環境、社会とのつながり方の提案でもあります。設計者にとりまして、様々な苦労はあっても、完成した住宅で、クライアントが、自身の生活そのものや、地域との関係を楽しんでいる様子を見る喜びは、代えがたいものがあります。

私の多くの経験、知識、そして何より作る喜び、作ることで社会に貢献する充実感を学生に伝え、共に学んでいくことを一番の教育方針とし、そのような教育を通して、社会に求められる人材を、いかに育成するかに取り組みたいと思います。

### ・ 「心地よい」空間の設計

「建築の発想の源は、過去に訪れた場所の風景、人やものとの出会い といった身体化された記憶にあることが多い・・・」と言われます。

本物の建築のみが持つ「心地よさ」の意味を、真に理解するには、実際に建っている場に赴き、空間に身を置き、時を過ごし、五感で感じることでしかできません。私が設計した建築はこれまでに私が体感した様々な有形、無形の空間の影響があります。設計の指導に於いては、そのような体験を出来るだけ盛り込みながら、些末に陥らず具体的、かつ実践的でリアリティーのある教育を心掛けたいと考えます。



キュウ邸

第21回 INAX デザインコンテスト「テーマ賞」



秋月の家

第3回九州建築賞 佳作  
日本建築家協会優秀建築選 2009  
第30回 INAX デザインコンテスト 入賞

koto house

第7回九州建築賞 作品賞



gallery cobaco

築90年の屋敷をギャラリー、カフェ、店舗に改装  
第12回九州建築賞 作品賞



## ■内田研究室（生態工学ゼミナール）

### 研究方針

Conserve to preserve! 都市および農村の持続的発展には、開発のみでなく自然環境との共生が不可欠です。本研究室では、自然環境の保護・保全・再生・修復・創出に資する手法について、動植物の生理生態から研究を行っています。

キーワード：都市緑化・治山緑化・生物多様性



立花山での実習



旧道における赤外線自動撮影カメラの設置



和白干潟におけるフロラ調査

### 今年（2022年度）の卒業研究課題

- ・福岡市野鳥公園（はばたき公園）造成中における生物相の変遷
- ・ネナシカズラによる強害雑草クズ（マメ科）の生物的防除
- ・和白干潟における植物相（夏季）と周辺地域における特定外来生物ナルトサワギクの逸出状況
- ・阿蘇における地域性種子を用いた治山緑化
- ・低管理インフラにおける植物の侵入と野生動物の利用実態



阿蘇烏帽子岳登山道の緑化3カ月後の植生調査

### 研究室の活動（地域交流）

- ・唐原川のいきもの観察会（福岡市）
- ・小学校プールのいきものたち（立花小・勝馬小）
- ・オグラコウホネプロジェクト（新宮町）
- ・都市のいきものたち（福岡市）
- ・立花山写真展（香椎下原公民館）
- ・立花山登山教室（香椎下原小）など



はばたき公園における生物相調査



## ■林研究室（地盤工学ゼミナール）

### ■研究室の方針

研究室での活動を通じて成長し、たくさんの良い思い出を作っしてほしいと思っています。

卒業研究では、自ら定めた目標を達成するために、自主的に考え計画的に行動してもらいたいと思っており、成果よりもプロセスを大切にしています。研究室での活動を通じて企業や他大学の方、本学の下級生とも交流する機会がたくさんあります。諸活動を通じて研究や専門分野に対する興味を高め、技術者としての素養を身につけられるとともに、幅広い人間関係を築くことで、今後の人生を豊かにするきっかけにして欲しいと期待しています。

### ■研究内容

建設資材としての土や地盤の防災に関する研究を行っています。

「発生土や産業副産物を用いた新しい土質安定処理方法の開発」では、建設工事に伴って発生する軟弱な土やフライアッシュなどの産業副産物を堤防や道路などの盛土材として活用するための土質安定処理方法を研究しています。土の力学特性改善だけでなく、環境安全面や経済面などにも着目し、民間企業と共同で問題解決に挑んでいます。

「降雨による斜面災害リスクに関する評価手法の開発」では、住宅地に近接した斜面の多い北九州市を対象に、近年多発する豪雨による土砂災害の減災対策を研究しています。雨の降り方と地形や地盤の特性の相互関係を考慮することで、土砂災害の発生を的確に予測する手法の確立を目指しています。産官学が共同で現地調査や解析などを行っています。

### ■研究室の雰囲気など

実験や調査の実施は各自の主体性を尊重していますが、研究室内の共同作業や外部との共同研究も実施しています。また、親睦会や学外での研究会・イベント参加にも力を入れているため、結構忙しい毎

日です。そのような中でもお互いに思いやりと和を大切にし、ともに苦勞を乗り越えることで絆を深めています。充実感の味わえる研究室です。



2022年度のメンバー



利根川遊水地での現場実証実験



横浜湘南道路シールド工事現場見学

## ■松尾研究室（コンクリートゼミナール）

### ■研究内容

コンクリートは社会インフラを支える重要な建設材料のひとつです。コンクリートの歴史は古く、ローマ時代から使われていました。ただ、当時のコンクリートは固まるメカニズムが現在とは全く異なるので、正確には別ものと位置付けられています。近代のコンクリートは産業革命期に新たに発明されました。それでも19世紀前半からの長い歴史があり、基本的な技術はすでに確立されています。それでもその時々、社会背景に応じて研究する内容はまだまだたくさんあります。松尾研究室ではこのコンクリートに関する材料的あるいは構造的な研究を行っています。

当研究室での最近の研究事例は、「マイクロ・ナノバブル水を練混ぜ水に用いたコンクリートの表層品質改善」、「卵殻を細骨材の代替に用いたコンクリートの特性」、「電子レンジを用いた表乾状態の判定手法の確立」、「竹筋コンクリートに関する研究」、「非破壊試験による品質管理に関する研究」、「軽量コンクリートの開発研究」、などがあります。

マイクロバブルやナノバブルは美容面でご存知の方も多いと思いますが、これをコンクリートの練混ぜ水として使うことで品質改善ができるかを確認しています。卵殻は新たな細骨材（砂のこ）としての活用を試みています。このような場合、吸水率を明らかにする必要がありますが、その手法として電子レンジを使ったやり方を提案しようと試行錯誤して実験しています。竹筋コンクリートとは鉄筋の代わりに竹を使ったコンクリートのことで、戦時中にも使われた実績があります。当研究室では、現在の設計法に合わせて見直すところから始め、竹の特性をうまく活用して適材適所で使うための技術を試行錯誤しながら開発しています。非破壊試験は社会的にもニーズの高いテーマで、劣化が急速に進みつつ

あるインフラを効率よく劣化診断する技術です。当研究室では透気係数というコンクリートの密実度を表す指標を使って基礎研究を行っています。軽量コンクリートは発泡スチロール廃材を砂の代わりに用いたもので、適用事例として農地の水門（ゲート）を作った現場での実証試験を行っています。

### ■研究室の雰囲気

実験が大変なときもありますが、研究室のみんなで一致協力して楽しく頑張っています。実験は主に9号館の1階で行っています。学生部屋は8号館4階にありますので、気軽に遊びにお越し下さい。



写真-1 卵殻が入ったモルタル



写真-2 コンクリートの固有振動数の測定



## ■山下研究室（景観計画ゼミナール）

### ■研究室の方針について

技術や思想は実践に応用されることで真価がわかります。本研究室では、学生とともに、社会が課題とするテーマについて、現場に入り、地域の人々や自然の状態を体験的に知り、それを大きな視野や科学的な手法によって捉え直し、対策を練って、実装するというプロセスを重視します。

本研究室の大きなテーマは次の2つです：

- 1) 地球温暖化への適応と分散型水管理
- 2) 伝統工芸の産地における文化的景観の持続と観光

市民のみなさんや行政や企業の技術者、それに他大学の研究者や学生との交流をとおして、幅広い実践的なプロジェクト型研究教育を進めています。



### ■学生の研究内容について

上記の2つのフレームに基づいて、2021年度は以下のテーマの卒業論文に取り組みました。

#### 【卒業論文】

- 大浦 雅人 「民間雨庭の雨水収支と植生の健康状態の評価」
- 萩原 和歩 「新宮町立花口区の古民家認証に関する研究」
- 寺本 海音 「コロナ禍における小石原焼窯元の意識について」
- 柏木 晃明 「雨庭のデザインと導入のプロセスについて」

スについて」

- 佐渡 正治 「要配慮者施設職員の水害に関する認識と課題についての考察」
- 大田 樹生 「新宮北小学校における雨水の貯留・利用の実態と新たな提案」



### ■研究室の雰囲気等

8号館4階の研究室・ゼミ室が、大学でみんながいる場所です。計画系の研究室なので、実験室はなく、研究室・ゼミ室ではおもに、研究の報告会、ゼミの研究会、PCを使った作業などを行います。もちろん、休憩時には、みんなで雑談したり、ゲームをしたりすることもありますよ。

学内では研究室・ゼミ室のほかに、23号館4階の景観研究センターで、研究会やセミナーが開催されるときに参加して、学内ではなかなか聴けない貴重なお話を伺う機会がたくさんあります。

研究室・ゼミ室での活動だけでなく、調査やプロジェクトのために、学外に行くことが多々あります。また、学会やシンポジウム・研究会での発表もあり、他大学の学生・院生と、切磋琢磨もしています。

2022度は過去2年間に比べれば、ようやくフィールドに出る機会が増えてきました。「雨庭」を学内につくって、枯山水のようなデザインをみんなで施工したり、学外の参加者とともに植物を植えたりしました。河川清掃にも参加できるようになりました。少しずつ回復しているようです。

■奥村研究室（耐震・構造工学ゼミナール）

シミュレーションの精度検証（模型レベル）

実験

検証

解析

振動台寸法：1500×1500mm  
 加振方向：水平1方向＋鉛直  
 最大加速度：14.7m/s<sup>2</sup>  
 最大搭載質量：1ton  
 振動数範囲：1～100Hz

実大構造の崩壊挙動の解明と制御法の検討

スパコンによる高精度大規模解析

「不老」FX1000  
 7.782 PFLOPS  
 2,304ノード  
 110,592コア

上落式鋼アーチ橋の崩壊挙動解析

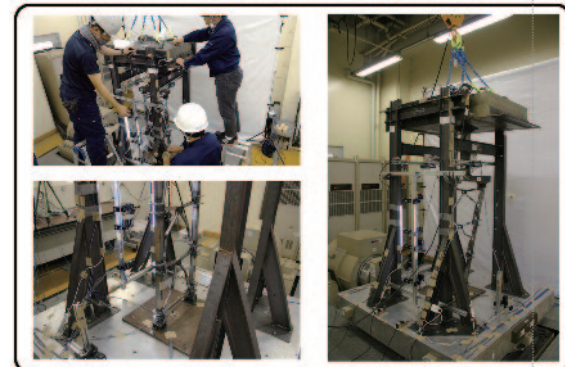
■研究の概要

橋梁の耐震設計では、あらかじめ規定した設計用の地震動に対して構造安全性や地震後の使用性・修復性等の耐震性能を確保します。設計に用いる地震動は過去に経験した最大級のものをもとに設定することが基本的な考え方となっています。しかし、その前提が崩れた場合、すなわち設計の想定を超える規模の地震動が作用した場合に対して、構造物が崩壊に至るような致命的な被害を防止するためにはどうすればよいのでしょうか？

従来、過去の記録を上回る巨大地震を経験するたびに設計用地震動の規模を引き上げるという対症療法的な対応がとられてきましたが、このような事後対応から脱却し、想定外の巨大地震に対しても構造物が致命的な大規模崩壊に至らないようにするための新たな対処法および設計法の枠組みを検討していかなければなりません。このためには、構造物の崩壊挙動を正確に予測できる信頼性の高いシミュレーション（数値解析）が重要な技術となります。

本研究室では、想定外への対応を目指した次世代の耐震技術に関する研究として、模型レベルの振動

振動台実験（9号館1F 構造実験室）



スパコンによる大規模並列計算

名古屋大学スパコン「不老」（理化学研究所「富岳」と同一機種）

※ソフトウェア：Sean FEM（株式会社工学知能開発センター）  
 演算ソフトウェア：Para View オープンソース

下部橋の応力集中

柱上部の応力集中

台実験により精度検証がなされた構造物の崩壊挙動のシミュレーション技術を確認し、これを用いて実際の構造物の大規模崩壊を防ぐための方策について検討を行っています。



## ■佐藤研究室（流域マネジメントゼミナール）

### 研究室の方針

「水」をベースとして自然と人の営みが調和した、より豊かで持続的な社会の構築を目指して、実践的な研究やプロジェクトに取り組んでいます。

地球温暖化に伴う気候変動の影響はもはや将来の問題ではありません。日本、特に九州では毎年のように豪雨災害が発生し、甚大な被害を受けています。一方で、人口減少・少子高齢化やコロナ禍、生物多様性の損失、再生可能エネルギーの導入など、社会的な課題も深刻です。持続的な社会の構築に向けて、人口増加、高度経済成長をベースに培ってきた流域における住まい方を再考する必要があります。防災・減災、環境保全、都市・地域づくりを一体的に捉えた新たな流域マネジメントを実現していかなければなりません。そのためには、自然の持つ様々な機能をうまく使って社会課題の解決を目指すNbS（Nature-based Solutions）やグリーンインフラの考え方が重要となります。当研究室では、グリーンインフラの多面的な機能の評価や不確実性を補うための最新AI/IoT技術に関する研究、災害からの復興デザイン等に関する実践的な研究を行っています。

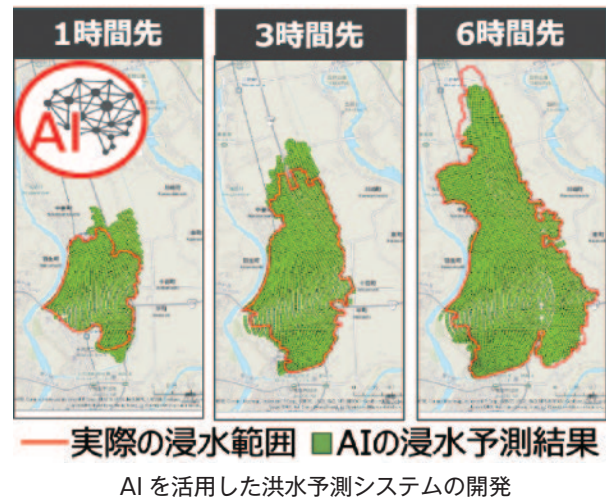
### 研究テーマ・プロジェクト

- ・自然再生河川の生物生息場、洪水減勢効果の検証
- ・流域治水の実現に向けた、住民ベースの流域モニタリングツールの開発
- ・豪雨災害からの復興デザイン

### 研究室の雰囲気

現場（フィールド）での経験、得られた感覚は貴重な財産です。出来るだけ多くの現場（フィールド）を経験できるように心がけています。また、研究は一人で行うものではありません。研究室のメンバーやプロジェクトで関係する方々に協力してもらいながら、また自身も協力しながら研究を進めていくことが重要です。

キーワード：グリーンインフラ、Nature Based Solution、流域治水、多自然川づくり、地形・地質、河川環境、小水力発電、再生可能エネルギー、GIS、ドローン、LiDAR、社会的共通資本、IoT



自然再生河川における魚類調査



災害後の小学校跡地利用に関するワークショップ

## ■山田研究室（防災計画学ゼミナール）

### ○研究室の方針

日本では毎年のように自然災害が発生しています。近年の九州地方に限っても2016年1月の大寒波、2016年4月の熊本地震、2017年7月の九州北部豪雨、2020年7月の豪雨などがあます。研究室では、災害に遭わないようにするための、もし遭っても被害を軽減するための教育研究活動、社会貢献活動に取り組んでいます。

### ○卒業研究のテーマと成果

研究は行政や住民による災害対応やソフト面の災害対策を対象にしています。

行政を対象にした研究として、2016年1月寒波における自治体の断水対応を把握し教訓を抽出した研究、2016年1月寒波が自治体広報紙の水道管凍結対策記事に与えた影響を分析し今後の記事のあり方を検討した研究などがあります。

住民を対象にした研究として、2017年7月九州北部豪雨における日田市消防団と朝倉市消防団、2018年7月豪雨における呉市消防団の災害対応を把握し教訓を抽出した研究、1969年から2018年までの風水害を対象に消防団員の人的被害を分析し対策を検討した研究などがあります。

卒業研究の成果は、学会での口頭発表や学術誌への掲載など学外で公表しています。

1) 山田忠・勝田瑞基・酒井大貴、2016年1月寒波が福岡県内60自治体の広報紙の水道管凍結対策記事に与えた影響、水道協会雑誌、Vol.90、No.1、pp.21-34、2021。（査読有）

2) 山田忠・後藤雄太・松枝心路、風水害における消防団員の人的被害の特徴－1969年から2018年までの災害を事例に－土木学会論文集F 6（安全問題）、Vol.1、No.1、pp.20-27、2020。（査読有）



日田市の災害復旧現場

### ○地域防災活動の支援

地域からの要望に応え、防災講座を開講するなど防災活動を支援しています。2022年1月に朝倉市で土砂災害に関する講座を開講しました。



防災講座

### ○3年間の主な就職先

卒業生は国や自治体（土木職）、建設コンサルタント、建設会社に就職しています。

主な就職先として、国土交通省中国地方整備局1名、諫早市役所1名、大刀洗町役場1名、大林道路株式会社2名、ライト工業株式会社1名、松尾建設株式会社1名、株式会社安部日鋼工業1名、株式会社間瀬コンサルタント1名、日本都市技術株式会社1名、株式会社エース1名となっています。



## ■横田研究室（海岸工学ゼミナール）

### 研究室の方針

海岸工学という分野には難しそうなイメージがあるのではないのでしょうか。主要な外力である波や流れの発生メカニズムは複雑であることは否めませんが、卒業研究では工学的な課題の解決を試みるので、数式の難しさを恐れる必要はありません。

1年という限られた時間のなかで（長く感じるかもしれませんが）、課題解決に資する知見が得られたならば、成功です。

大事なのは日々の研究への取り組みであり、適切な情報を収集し、得られる知見を想像し、結論を得るために必要な検討手法を考え、自主的に創意工夫を繰り返すことが求められます。

### 研究の内容

沿岸域は、物流、漁業、レジャー、観光など、多くの産業に利用される一方、高波、高潮、津波など、自然の脅威にさらされています。研究室では港や海岸などの沿岸域の利用・防災・環境をテーマとし、波・流れなどの自然現象の解明・予測や対策などの研究を行います。主に取り組んでいる研究課題は以下のとおりです。

このほか、波力発電や水質保全など自主的なテーマ設定を歓迎します。

#### ・越波に関する研究

動画に基づく越波打上げ高の出現特性の把握

越波打上げ高と海象条件の比較

波別越波量の観測装置の開発

観測に基づく越波飛沫の出現特性の把握

#### ・平板式消波構造物に関する研究

水理模型実験による効果の検討

数値実験による効果の検討



越波の現地観測



水理模型実験



水理模型実験



数値シミュレーション

## 自分を活かすものづくり

永田建築工房 一級建築士事務所 永田恵美子（1997年度卒）

九州産業大学工学部建築学科に入学してから建築に携わって30年、設計事務所を設立して16年が経ちました。私は幼いころから、建築士になるという夢を持ち進んできました。自分の描いた一つの線が現実に型になっていくことを想像しワクワクしていました。また、小学校から帰ると母親が家に居ることに憧れがあったり、技術を身に付け自分にしかできない仕事をしたいと考えていました。そのような子供だったので、何の迷いもなく、建築学科に進みました。建築の専門的学問に触れ刺激のある毎日で、設計の仕事に就きたいという意志も固く持つことができました。私は、自分は0からは創造することは難しいと感じていたので、様々な引き出しを持てるよう、より多くの人や物に出会うよう努めていました。そして就職する前に、今後の自分の武器となるよう、今しかできない経験をする事を選び、海外に出ることを決意しました。ヨーロッパ、北米で2年間、生活や旅をして日々を過ごしました。各地の設計事務所を訪ねたり、建物を見たり、人々の文化や生活を見て、そこに身を置いて来ました。良きも悪きも見聞きすることより、触れて体験して感じることは、自分の中に根強く蓄積されると思います。そして改めて自分の声を聴くことが大切だと思います。このように多くの出会いを重ね、そのうちに自己肯定感を高めることができていました。この僅か2年が当時の私を前に進める原動力になったと思います。

その後、設計事務所での勤務を経て、31歳の時に設計事務所を設立し、今は主に住宅や店舗の設計・監理を手掛けています。同じ設計事務所を営む先輩や友人のアドバイスを頂いたり、連携をとったり、建築業界にいる学友と同じプロジェクトを進めたりと、協力しながら仕事をすることもあります。独立は、自由に仕事をこなせる分、不安定な面もあり、そのバランスをとるのが、非常に難しくもあります。日々積み重ねて、一つずつ丁寧に楽しみながら設計活動をするを大切にしています。

その間、結婚、出産とライフイベントもありました。現在育児中です。現場は待つはくれません。出産前日も現場にいました。留守の際は、母乳を預け代わりに授乳してもらったり、保育園の送り迎えをお願いしたり、子連れで打ち合わせをさせてもらったりと、周りの方の協力を受けて、パートナーと協力しながら、自分のペースで仕事を組むようにしています。サポートしてくれる機関も多くあるので、しっかりと利用し無理をしないことが大切です。そのおかげで、帰宅する我子を家で迎えることもでき、母親としても沢山楽しんでます。それまでよりは、制限をしないといけない場面はあると思いますが、それが結果、仕事の効率化にも繋がります。そして、育児の中だからこそ経験できる物事も多くあり、これも自分の肥やしになり引き出しに入っていると日々感じています。

そして女性進出の機会も増えてきています。女性は男性と体のつくりが違うので筋力、体力的に辛い時もあります。しかしそれくらいで、女性だから損をしたと感じたことはなく、思えば反対に女性だから得をしたと思うことの方が多く感じます。女性目線、察する力、伝える力を活かした繊細な仕事を求められることも多く、そのおかげでチャンスを得ることはあります。現在は建築業界にはまだ女性の方が少ない分、良くも悪くも注目されやすく、気にかけてもらいやすいのです。建築業界には、多くの業種があります。建築設計、構造設計、設備設計、現場管理、多くの各工事の技術者、研究者、積算、経理、事務、営業、数知れず。決して男性社会で納まるものではなく、働く場所、時間も多々あります。そして女性が働きやすければ、男性も働きやすいのです。このものづくりの仕事は、男女関係なくそれぞれ個人の特性、感覚や経験を活かせる仕事だと思います。これから進路を選んで進んでいく皆さんには自分を制限、区別せず、チャレンジして欲しいと思います。



## 『創造の母』

有美工房株式会社 江瀬 翔（2012年度卒）

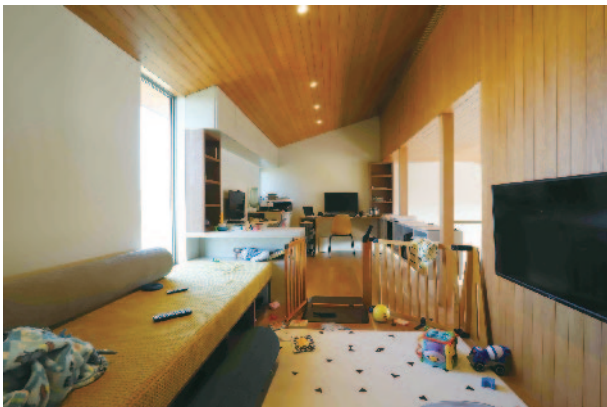
建築設計するとき、敷地条件や要望などの与条件があり、いざ計画をスタートしようという際には、おもむろに手を動かす前に想像することからスタートします。その土地でどんな暮らしができるだろうか、リビングからはどんな景色が見えるだろうか、道路からどんな風に建物が見えるのだろうか。そんなことを考えながらモヤモヤと浮かび上がってくるイメージに寸法や質感など具体的な情報を与えていくように手を動かし、イメージが形となっていくのです。これは決して建築に限った話ではないでしょう。デザインやものづくりなどクリエイティブな業種の多くも手を動かす前に、こうしたいいものが出てくるかもしれないと、ある程度見通しを立ててから手を動かします。当然、見通しを立てたとおりに行かないこともあります。それは想像の上位互換でありイメージすることの副産物なのだと感じています。

九州産業大学を卒業して10年目となり、私は現在、設計事務所を妻と経営しています。昨年竣工した自宅兼設計事務所に拠点を移してから、まさに職住一体と言った暮らしです。その中で、建築において想像こそが創造の母であるように、将来設計や家庭を築く上でも同じことが言えるのかもしれないと常々思うことがあります。学生の頃の私は将来像について割と具体的なイメージがあった方かもしれません。二級建築士取得後、キャリアを積んで管理建築士を取得したら設計事務所を起業し、それから一級建築士を取得しよう。そして、夫婦で事務所を切り盛り出来たら幸せだと当時から考えていました。まさに現在の暮らしそのものなのです。こうして話すと学生の頃の夢が順風満帆叶ったように聞こえるかもしれませんが、ですが今に至るまで紆余曲折があり成り行きもあって今の暮らしがあるように思えます。大学時代の私は、建築家になりたいのであれば建築家のところで修行するべきだと思い込んでいたため当時から憧れていた建築家の事務所の門をたたくことになります。ところがアトリエ系設計事務所の激務

について行くことができず一年足らずで退職しました。己の能力や精神力が足りないばかりに憧れの建築家のもとを去ることになり私は建築を続ける資格がないのではないかと自暴自棄にもなりました。普通に働いて普通に稼げる職を探そうと思った私の目に留まったのはパチンコ店の設備設計部の求人でした。ある程度の給料で土日も休める。学生時代から培ったCADスキルも生かせるのだから、いい就職先ではないかと思ったのです。私はそのパチンコ店に履歴書を送り、面接をすることになりました。

後日、面接官から思いがけない話をされました。「君がうちに来た理由は何となく察しが付くよ。実は私も建築家を夢見て黒川紀章という建築家のところに勤めていたことがあってね。君と同じように挫折を味わってここに居るのだけど、今の私を見てください。パチンコ屋ですよ？だから君はまだ夢を追い掛けなさい。それでも弊社に来たいときは雇ってあげます。だから、もう一度ゆっくり考えなさい。」開口一番に出たその話だけで面接は終了しました。履歴書に書かれた学生時代のコンペ受賞歴などから状況を察してくれたのでしょうか。それから数日間悩み、そして思い返したのが学生の頃描いた将来像です。そして、やっぱり建築の夢は諦めまいと地元の設計事務所に再就職をすることにしました。

再就職してからも何かと学生の頃からの将来像が、私のベンチマークとなって次の一步を導いてくれます。社会に出ると敷かれたレールなどありません。どこへ行くかも自由自在。自ら作り出すという意味では、まさに創造と言えるでしょう。イメージ通り見立て通り、の人生なんてありません。おもむろに歩き出す前に5年後の自分、10年後の自分を想像してみましよう。私が右往左往した10年間を思い返すと、全てが経験となって無駄ではなかったと感じます。その時々的人生が想像の上位互換であり、イメージすることの副産物なのだと感じるのです。



キッズスペースからワークスペースを見る



事務所併用自宅



## 建築とわたし

フリーランス 高森寛太 (2017年度卒)

私は、大学3年生から卒業までの2年間を福山秀親研究室で過ごしました。研究室では建築についての研究はもちろんのこと、いくつかのプロジェクトが常に動いており、福山先生やプロジェクトに参加しているメンバーとの議論の中、物事を考える上での基礎的な事やそれを形にしていく意味を学びました。現在は私が在学している時より、カリキュラムがとても良くなっていると聞いています。卒業後は、福津市にある高田宏明アトリエ一級建築士事務所に入りました。働く中で設計する事の大変さを痛感しながらも所長の高田さんには「プランはとても難しいが諦めずに考えていると必ずよくなっていく」ということを言葉だけではなくたくさんのスケッチやそれを図面にしていく中で体現し学ばせてもらいました。現在はフリーランスとしての活動を行いながらゼネコンの設計部で仕事をしています。

ここからは、今僕が考えていることや感じていることを正直に書いてみようと思います。

小説家の村上春樹氏は自身の職業を「上手な嘘をつくこと」と言われています。(ここだけだと誤解を生むかもしれないので村上春樹 雑文集を読んでみてください。)一方で僕の職業は建築家です。建築物の設計を生業としているのですが、実際に建物が建ち上がり人の生活の中に現れてくるので嘘をつくことができないとてもリアルな職業です。それはどういうことかという現実を人々に突きつけることになります。それはとても残酷なことにもなりえると思いますが、より良い未来(新しいリアル)をつくるのが可能です。それは芸術には難しく建築にしかできないことなのではないかと思っています。そこで何ができるのかということになりますが、答えはありません。そこを考えることが建築を設計する上でとてもおもしろいところではないでしょうか。

「実際に建築を見なさい」

この言葉を在学中の皆さんはよく耳にするのではないのでしょうか。僕も学生時代に先生方から言われて建築を見に行っていました。いざ建築を目の前にしてみるとどう評価していいのかよく分からないなという感じでした。今になって考えてみると当時は建築だけを見ていてそこを使っている人の行動や声をあまり気にしていなかった事に気が付きました。もし学生の方やこれから建築を学ぼうとされている方で僕と同じようによく分からないと感じたらそこにいる人を見て、声を聞いてみてください。なぜここに居座っているのだろう...あ、柔らかい日が差していて心地よいからだ。だとか、なんでこんな広い世代に使われているのかなあ...と近づいてみると「私ここに住みたいわ」とつぶやいている人がいるかもしれません。そうしていくうちに少しずつその建築がわかっていきます。そこで感じたことが建築を考える種となりますし結構おもしろいです。

「これから就職される方へ」

就職とは枠組みの中に入ることです。その中に入ると多くの人が考えることを少なくしないといけない状況になると思います。その背景にあることはご自身で少し考えてみてください。しかし、枠組みの中でも考え続けることはできます。建築だけに限りませんが、ずっと考え続けてほしいなと思います。

建築はリアルだという事を冒頭で述べましたがリアルだからこその何か出来事が起きるたび寄り添うことが出来なくなるような建築は良くないのではないかと最近思っています。「自分はここにおいて、建築もじっと寄り添う」そんな建築がくれたらいいなと思います。最後に皆様のご活躍を願いここで終わりにします。ありがとうございました。

## 学ぶ意義

九州産業大学 中川万理子 (2017年度卒)

私が本学の住居・インテリア学科を志望したのは、建築、特に住宅に興味があったからです。大学の授業で忘れられないものが多いです。例えば博多山笠のルートを実際に歩いたり、京都へ行ったり、初めての製図や模型で苦勞したり、瓦割を体験したり、座学だけではなく実践的な授業が多く、高校までと違って本当の意味で学ぶことができたと思います。興味がある分野に進み、与えられた課題をただこなすだけではなく、自分で考え、調べ、形にしていく。たとえ間違っていたとしても調べた経緯そのものが自分の財産となります。高校生までは用意されている答えがあり、その答えと、それを導く過程を教えられていました。しかし、大学の授業では答えがないものが多いです。答えがない問題を解決していく力が問われます。そしてこの力は、社会人にとって非常に大切な力となります。学びの本質は知の探究であると私は考えています。

私は本学を卒業後、ハウスメーカーに現場監督として入社しました。その後基地局設計の仕事をして、現在の住居・インテリア学科の助手となりました。その中でも、現場監督としての経験を少し、お話ししようと思います。

建築業界はまだ男性中心社会で、特に現場はその傾向が顕著です。しかし、昨今は徐々に女性の現場従事者も増え始めそのことに理解ある男性も増えているように感じました。女性だからといって仕事内容は変わることはありませんでしたが、できることは男性よりもやはり限られてしまうと感じました。一方で、女性ならではの観点での現場づくりが求められることが多くありました。実践できていたのか、少し自信はありませんが、職人さんからあなたの現場はきれいだね、などと言ってもらえるとまた次の現場でも頑張ろうと思えました。

現場は日々変化するので決まった答えはなく、そ

の時々で最善の選択をしなければなりません。その最善の選択ができるように大学で学び、社会人となってからも学び続けなければならないと思っています。大学で学ぶことすべてが直接的に仕事に役立つわけではありません。しかし、「学問なんて、覚えると同時に忘れてしまってもいいものなんだ。けれども、全部忘れてしまっても、その勉強の訓練のそこに一握みの砂金が残っているものだ。これだ。これが貴いのだ。勉強しなければいかん」と太宰治は言っています。

私は、基礎教育として哲学や文学の授業も履修していました。三十六歌仙の一人である大伴家持の美しい絶唱三歌や中国の纏足の歴史など心を動かされたことを今でも鮮明に覚えています。おそらく一生忘れることはないでしょう。これが太宰の言う一握みの砂金なのだと私は解釈しています。一握みの砂金は、人生を豊かにしてくれ、人間らしく、文化的に生きるためのヒントになると思います。その点において本学は各授業が魅力的で面白くて、豊かな人間性を育むことができると思います。皆さんが入学した際には、専門分野だけにとらわれることなく様々な分野での知の探究を続け、4年間の中で自分だけの一握みの砂金を見つけられるよう願っております。



8号館

## 公務員技術者の仕事 国土交通省 九州地方整備局 港湾空港部 光田隼人 (2016年度卒)

## 1. はじめに

国土交通省九州地方整備局（以下、「九地整」と言う。）に2017年入省、現在6年目となります。九地整は、道路・河川・港湾空港・営繕等九州（沖縄県除く、山口県一部含む）のインフラ整備・維持管理をおこなっています。

## 2. 学生時代

土木研究会に所属して、学内外の方に“土木”の魅力を学生なりに一生懸命伝えていました。年に一度、「土木の日」と言うイベントが開催されており、液化化現象の模型実験や、子ども向けのブースでは、コンクリートを実際に練ってつくり、型枠にながして固まるまで体験してもらい、身近な“土木”を楽しみながら知ってもらえるような取り組みをしていました。

## 3. 今までの仕事

私は、港湾空港部に所属しており、九州管内の港湾整備・国管理空港の基本施設の整備を担当しております。1年目：志布志港湾事務所（鹿児島県）では、保全課にて防波堤築造工事、消波ブロック製作据付の工事発注・監督を担当しておりました。太平洋に面する志布志港は、防波堤・消波ブロックの規格も大きく、スケールの大きさに驚きました。とにかく現場に足を運び、作業の手順や使っている材料・道具、作業環境など様々な視点で物事を見られるように足繁く通っていたのを覚えています。

2～4年目：苅田港湾事務所（福岡県）では、工務課にて予算要求・管理、地元自治体との調整、地場企業へのヒアリング、事業評価等を担当しておりました。港は、国・港湾管理者（地方公共団体）が整備をしています。港湾管理者とのコミュニケーションは必要不可欠であり、利用者のニーズにできる限り答えられるように情報交換を常におこない、限りある予算内でどのように整備を進めていくか、

事務所一体となって常に考えていました。

5年目：本局（福岡県 博多）では、空港整備課に配属となりました。本局は管内の事務所総括を担っており、初めての空港業務にも関わらず4月早々から管内7空港を担当することとなりました。本省や関係省庁とのやりとりで四苦八苦、コロナ禍ということもあり、在宅勤務も多く、職場で「隣の上司に質問しよう！」と思ってもすぐに聞くことができず、大変苦勞しました。厳しい環境ではありましたが、学べることもとても多い年となりました。

6年目：現在は、北九州港湾・空港整備事務所（福岡県）にて、北九州空港の基本施設整備に関する業務を担当しています。

## 4. 今後について

災害が多い九州では、被災直後に迅速かつ正確に被災状況を把握することが大切となります。その際に近年使用されているのが“ドローン”です。九地整では、ドローン操縦者等の育成に力をいれており、私もその一員として、日々訓練を重ねています。今後、有事の際にはその一員として早期復旧の一助となれるように精一杯頑張りたいと思います。

## 5. さいごに

刻一刻と変わる、国際・社会情勢にも対応していかなければならず、大変な仕事ではありますが、その分やりがいのある仕事です。

あたりまえの生活をあたりまえに営めるように、より豊かな九州になることができるように、これからも一生懸命頑張ります。



写真1：土木の日（土木研究会）

写真2：ドローン訓練



## 建設業に就職して

三井住友建設株式会社 市川千乃（2015年度卒）

### 1 自己紹介

三井住友建設株式会社の市川千乃です。2015年に都市基盤デザイン工学科を卒業後、就職して現在8年目になります。入社してから現在まで現場で施工管理として毎日忙しく仕事に励んでいます。

今回は建設業に就職してからの経験について寄贈させて頂き、将来、建設業で働きたいと考えている学生の参考になれば幸いです。

### 2 現場での経験について

就職して最初の現場配属先は北海道でした。元々九州出身の私には行ったことのない土地、環境、初めての現場業務ということもあり、自分に業務が務まるのか正直不安でした。現場での主な仕事は、測量、出来形管理、品質管理、写真管理を行います。出来形・品質管理は、構造物が発注者の意図する規格基準を満たしているか管理すること。写真管理は、工事の内容や過程が適切か記録するものになります。様々な業務や工種があり、それぞれ上司に基本的なことから施工の重要なポイントなどを教わりました。測量に関しては、大学の授業で経験をしましたが、実際の現場では土の上や斜面など条件が悪い所で測量機器を設置することが多く、慣れるまでに時間がかかりました。また、工事全体のことになりますが、失敗は許されないというプレッシャーの中での仕事になり、管理や計算等は何度もチェックを行うなどと大変でしたが毎日一生懸命業務に励みました。

入社4年目に九州支店に異動になり、現場の主な業務内容をしつつ、施工計画、書類作成の業務を行うことが増えました。施工計画する際、各項目の計算書作成や施工業者との打ち合わせが必要になります。計画業務をするようになって人を相手に説明する機会が増え、自分の知識不足を痛感すること多く

なりました。上司や先輩に計画の流れについてアドバイスをもらい、文献や参考書等を開きながら日々勉強を行い業務遂行に努めています。

また、3年間現場で実務経験を積むと建設業で必要になる一級土木施工管理技士の受験資格を得ることができます。現場の仕事をしつつ、時間がない中での資格取得の勉強になりますが、資格を持っていると自分のスキルの証明にもなり、仕事の幅が広がります。

入社7年目に沖縄県の現場に異動になり、初めて現場代理人という役職に就きました。今までと変わったのは、発注者や施工業者、地元への打合わせや対応により、さらに人と話す機会が増えました。

現場代理人として、施工上の細かな計画に加え、打合せや各種検査などの対応をしていく中で、覚えていかなければならないことは山積みですが責任感を持って精進し、一人前の技術者になれるよう業務に励んでいます。

### 3 学生へのメッセージ

建設業は新しい工事に就くと初めての連続になります。工種は様々で、技術、環境、材料などどれも変化することで自分の知識の幅も広がっていきます。今まで従事した工事は、夏は暑く、冬は寒く、毎日業務に追われて忙しく動いていました。施工に関する課題に悩まされ、不安なことも多いですが、問題を乗り越え、工事を終えた時の達成感は何物にも代えがたいものです。若いうちからモノづくりに携わることができるので、「この構造物は自分が造ったんだ」と実感することができます。

建設業を目指している方はぜひ、この達成感を味わっていただきたいです。

### 建築学科4年 井上寿朗

今回、本誌に寄稿する機会を頂いたことに感謝申し上げます。

私が本学の建築学科を志望したのは、漠然とした建築への興味からです。1年次は、親元を離れた大学生活、知識のない建築を学ぶ生活に大変さを感じつつも楽しみながら学んでいました。しかし、2年次世界中でコロナが流行し、大学でもオンライン授業が本格化しました。その結果、家で自分と向き合う機会は増え、徐々に将来を意識し始め、2年次まで設計への面白さを感じられなかった私は、施工管理を視野に入れつつ、また建築以外の分野も視野に入れ日々を過ごしていました。本当に建築をこのまま続けるのが良いのか分からず、ただただ自分と向き合う期間が続きました。

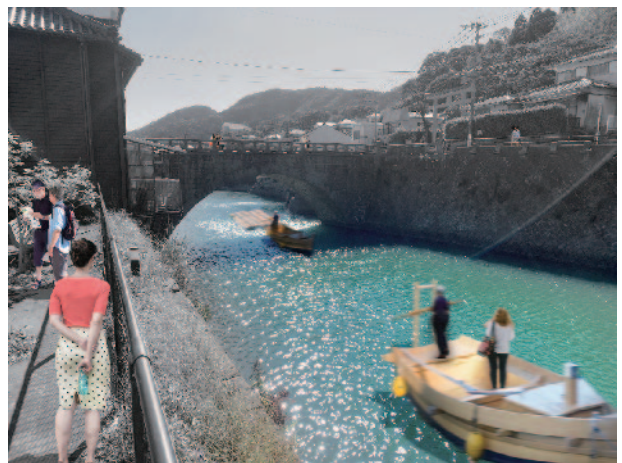
このような、状況を変えてくれたのは祖父の死去です。小さな頃から祖父母に面倒を見てもらっていた為、感情の揺れも大きく、最も印象的だったのは、生前の病室で祖父が「こんな姿になって情けない」と言いながら涙を浮かべた姿です。その言葉と姿を見た時、今度は自分が何かしなければならないという漠然とした決断をしました。そこから、3年次祖父へ何か恩返しをとという思いだけで、建築設計と向き合い、学校での学び以外に、我武者羅に建築家の方の本を読んだり、インターネットで有名建築などを調べていました。また、自身で設計をする機会を増やすため3年の夏に初めて公募のコンペティションに参加するなど、建築に向き合う時間、ソフトなどのスキル、表現を磨く時間を増やし学業と合わせ取り組んでいました。建築を見に旅行をすることもありました。その結果、2年次までにはなかったものの3年次の設計の授業では、全ての講評会で発表の機会を頂きました。最初はただ祖父の為にという気持ちで学んでいましたが、建物の背景にある建築家の考えに面白さを感じたことをきっかけに仕事と

して設計を考えるようになり、4年次頃には設計事務所への就職を考え始めました。4年次本格的に卒業設計を進めながら、夏には将来を想像しながら選んだ自分に合った事務所で2週間インターンをさせて頂きました。そして、最終的にインターン先ではないですが、10月頃設計事務所への内定を頂きました。

本学での4年間は、コロナが大きく影響し、大学内よりも家などで自分と向き合う苦しくも濃い時間となりました。何度も気持ちの変化を繰り返しながら進んできました。結果として、成績優秀者に与えられる中村治四郎奨学金を4年間で2度頂いたり、設計事務所への内定を頂くことができました。

これから就職をすると大学時代には経験できない、実際にお施主様を相手にした設計が始まります。これまで、大学生活で経験した事、考えた事に自信を持つと共に、これからも今まで以上に建築と向き合い生活をしていきます。

4年間、熱心に指導して下さった建築都市工学部をはじめとする多くの教員の方々、インターン先など大学外で今の自分に新たな経験をさせて下さった方々、大学で支えあった友人など多くの方にこの場を借りて感謝申し上げます。



(卒業設計で制作した画像)



## 住居・インテリア学科4年 牧野水都

今回、本誌に寄稿する機会を頂いたことに感謝申し上げます。

私は小学校の卒業文集ですでに建築士になりたいと書いていたほど、幼い頃から住宅やインテリアに興味を持っていました。建築だけでなく、インテリアのことまで総合的に学べる学科が九州産業大学にあることを知った時、私の夢を叶えてくれる学科だと思いました。入学してからの4年間は、あっという間だったように感じます。大学での学びは専門的だからこそ、新しい発見の毎日で、日々知識が深まっていく感覚を楽しみながら学ぶことができました。

私が特に力を入れていた設計実習の授業では、学年を追うごとに細かいところまで深く追求して考えるようになり、敷地調査から事例収集、図面や模型の作成など最後まで手を抜かずに取り組むことができました。また、学科内で発表をする機会も多く、プレゼンのスキルを磨くことができました。

「お茶堂」の設計をし、選ばれた作品を実際に組み立てまで行った授業もとても楽しかったです。私たちのグループが設計した作品は残念ながら選ばれず、悔しい思いもしましたが、選ばれた作品の図面が目の前で形として組み上がっていくという貴重な体験ができました。

所属しているゼミでは、多くの活動に参加しました。鹿児島県に行って即日設計会に参加したことは

とても印象に残っています。出題された設計課題を数時間でプランニングから製図、プレゼンまで行うことはとても大変で苦戦しましたが、ゼミの仲間達と互いに励まし合いながら、必死に取り組み、乗り越えることができたのは良い思い出です。

コロナ禍での学生生活は、不便さを感じることもありましたが、それ以上に学べることもありました。それは、自主的に取り組むことの大切さです。リモート授業が増えたことで、先生方とコミュニケーションを図ることが難しくなり、一人で課題に取り組むことに不安を感じることもありました。それでも私が頑張れたのは、周りの友人達が自主的にスキルを身につけていく姿に刺激を受けていたからです。これからも何事にも自分から積極的に挑戦することを大切にしていきたいと思います。

最後に、熱心に指導して下さった先生方、一緒に頑張ってきた友人達と出会えたこと、そして、どんな時も支えて応援してくれた両親、たくさんの人達のおかげで有意義な大学生活を送れたことに感謝いたします。



## 都市デザイン工学科4年 阿部誠生

今回、本誌に寄稿する機会を与えていただきましたこと、深く感謝申し上げます。

この機会に私の大学生活の4年を振り返りたいと思います。私は一年生のときから、「学生生活の集大成でもある卒業研究」に全力で集中したいと考えており、とにかく単位を取得して、「再履修」は効率が悪いので授業を落とさないようにしました。結果、4年生で他の授業を受けることなく、卒業研究に集中して取り組むことができました。

私は学外活動で社会人サッカーチームに所属しました。小学から高校までクラブチームや部活でサッカーをしていました。大学でもサッカーを続けたいと思っていたときに地元の友達から社会人サッカーチームに誘いがあり参加することにしました。チームには同世代だけではなく様々な年齢の選手、学生以外の色々な職業の選手が所属しており、最初はチームに馴染むことが難しかったです。様々な年齢、職業の方々と切磋琢磨し勝利という一つの目標を共有し活動するということがとても新鮮でした。社会人になっても続けたいと思っています。

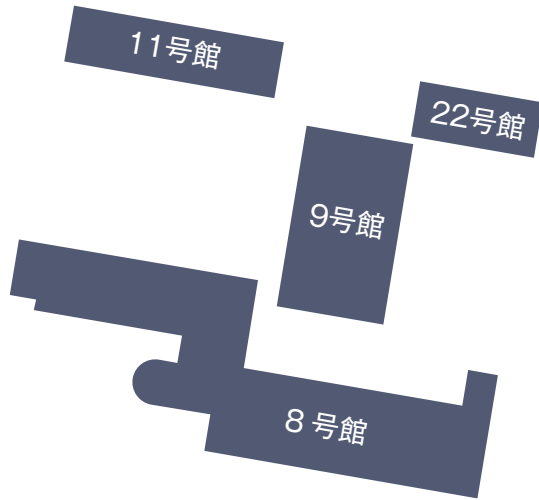
学生生活で一番苦労した授業は、3力学と呼ばれる「構造力学」「水理学」「地盤工学」でした。今思い返すと当時一年生だった私は、慣れない大学生活や高校生気分が抜けていなかったこともありかなり苦労したのを覚えています。逆に一番好印象で覚えている授業はCAD演習です。前々からCADに興味があったこともあり、積極的に授業に取り組むことができ、さらに興味を持ちました。そのため、内定を頂いた就職先も建設コンサルタントでCADを用いて図面を引く仕事に従事する予定です。将来の私の進む方向を示してくれた大学生活に感謝の言葉しかありません。

最後に大学生活を謳歌するためにサポートしてくれた両親、沢山お世話になった先生方、たくさん

の思い出を一緒に作った学友たちに感謝の気持ちでいっぱいです。あっという間の4年間でした。これから、私自身がたくさんの他人を支えられる社会人になれるよう、努力していきたいと思っています。



[ 建築都市工学部 施設一覧 ]



### ▲8号館外観

1998年に建替え新築が完了した8階建ての建物です。建築都市工学部の専門科目の多くはここで講義が行われ、ゼミ室等も配置されています。近年、エントランス廻りやトイレが改修されて綺麗になりました。



### ▲8号館円形ホール

半円形になったガラス張りの空間が特徴的で、待ち合わせや休憩スペースとしてよく利用されます。



### ▲8号館設計製図室

建築学科および住居・インテリア学科にはそれぞれ設計製図室があり、その名の通り設計デザインや作図の講義が行われます。

写真は、2017年に新しく完成した住居・インテリア学科の設計製図室です。



### ▲8号館プレゼンテーションルーム

名作照明や椅子が展示されており、パッチワーク状になった床材は実物を体感できるデザインの教材としても使用されます。オープンキャンパスは、アルネ・ヤコブセンデザインの「エッグチェア」に座れるチャンスです。



### ▲8号館食堂「クラブハウス」

“九産大”にちなんで、毎日93人目に当たるとお代が無料になります。2023年4月に全面改装リニューアルオープンしました。



### ▲9号館

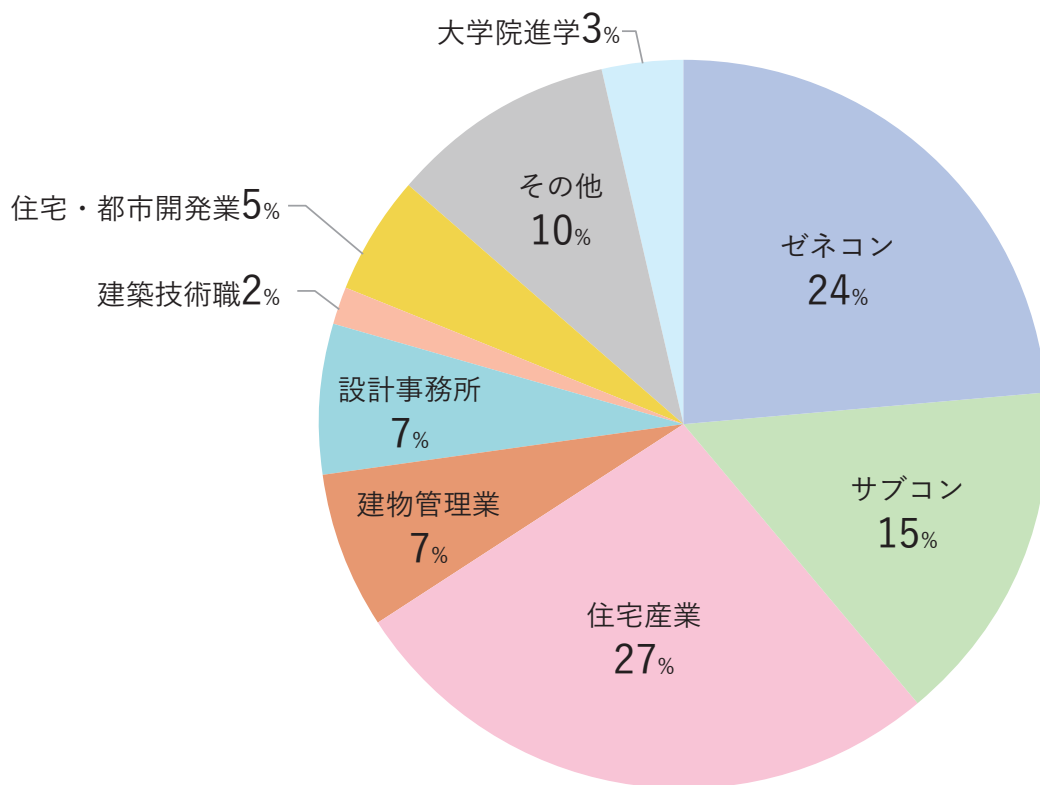
材料・環境実験などが可能な様々な実験設備が備えられており、実験系の講義や研究が行われます。また、木材加工のできる木工室などもあります。



### ▲22号館

実大立体構造物試験装置や400t万能試験機など大型の実験装置があり、様々な構造物の加力実験などを行うことができる施設です。

2022年度 建築学科 進路実績種別



## 主な進路一覧

### ゼネコン

鉄建建設  
若築建設  
大本組  
イチケン  
りんかい日産建設  
高藤建設  
ホーク・ワン  
松尾建設  
溝江建設  
上村建設  
七呂建設  
大坪建設

### サブコン

ジョンソンコントロールズ  
太平エンジニアリング  
大成設備  
新菱冷熱工業  
ダイダン  
新日本空調  
三機工業

### 住宅産業

積水ハウス  
大和ハウス工業  
三井ホーム  
セキスイハイム九州  
Lib Work

### 設計事務所

axonometric  
ヒラテ技研

### 建物管理業

シノケングループ  
カチタス

### 住宅・都市開発

東建コーポレーション  
センチュリー21・ジャパン

### 大学院

九州産業大学大学院

※ 2023年2月16日 時点の集計により作成  
※一部抜粋、順不同 ※(株)(有)は全て省略



大和ハウス工業（株）

建築学科

NAMURA HAYATO

名村 迅人

## 私の就職活動

まず、自己分析と企業研究を行い、自分自身と会社を知ることから始めました。就職活動を行う上での軸を持つことにより、一貫性が生まれるとともに自信にもなります。また、単独で進めるのではなく、第三者に相談し、意見を求めることも大切だと実感しました。伝えることで考えが整理できたり、意外な気づきがあったりします。

わずか数ヶ月の就職活動が人生を大きく左右します。後悔のないように早め早めの行動を心がけると良いと思います。



株式会社イチケン

建築学科

MORITA DAIKI

森田 大輝

## 私の就職活動

私は大学3年から施工管理職に絞り就職活動を始めました。そのなかでも規模の大きい建物の工事に魅力を感じ、ゼネコンを中心に企業説明会に参加しました。ゼネコンは数多くあり、企業ごとの特徴を掴むことに苦労しました。興味のある企業が施工した建物を調べたり、実際に行ってみたりしました。自分の目で感じたことや思ったことは面接でも自信をもって話すことに繋がりました。その結果、株式会社イチケンから内定をいただきました。



新菱冷熱工業株式会社

建築学科

SAKODA KEN

迫田 謙

## 就職活動

私は、新菱冷熱工業株式会社に内定を頂きました。

三年生の夏にゼミの先生からの勧めを受け夏期のインターンシップに参加しました。三年生から就職活動に取り組んだことで内定までスムーズに進むことができ、何事も早くから準備することの大切さも就職活動を通して実感することが出来ました。



axonometric 株式会社

建築学科

RIHO OKUGAWA

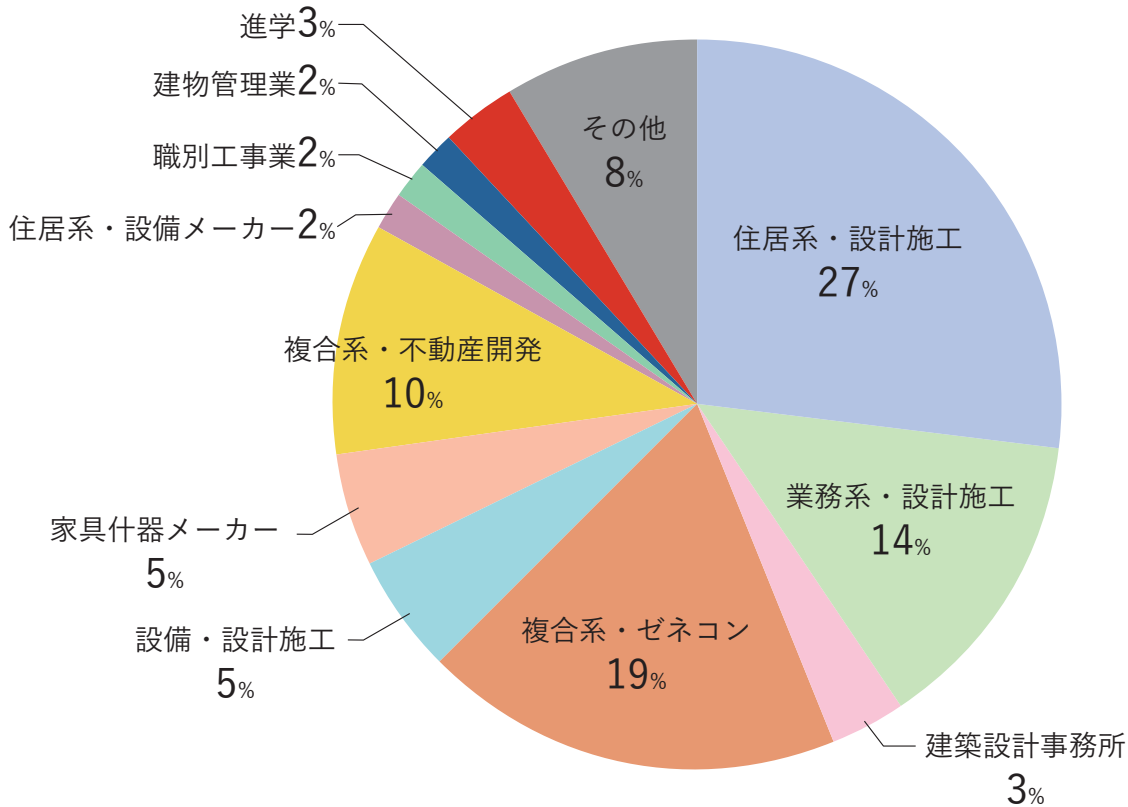
奥川 莉帆

## 将来に向けて

内定を頂いた axonometric は設計の授業で指導をして頂いた方の事務所です。春休みからアルバイトとして業務に携わっていく中で事務所の雰囲気やプロジェクト内容、コンペでの受賞を見てこれから私が建築と向き合っていく中で成長できる場所であると強く実感した為、この事務所に就く意思を伝えました。これから建築と向き合いながら、努力していきたいと思っています。



## 2022年度 住居・インテリア学科 進路実績種別



※ グラフの分類は当学科による教育上の分類です。

## 主な進路一覧

### 住居系・設計施工

住友林業ホームテック  
ヤマダホームズ

### 住居系・設備メーカー

タカラスタANDARD

### 複合系・不動産開発

生和コーポレーション  
東建コーポレーション  
大東建託

### 業務系・設計施工

大和リース  
三井デザインテック  
乃村工藝社  
イチケン

### 建築設計事務所

かわつひろし建築工房  
アーキタantz福岡

### 複合系・ゼネコン

五洋建設  
竹中工務店  
西松建設  
穴吹工務店  
ヒラテ技研

### 設備・設計施工

菱熱

### 進学

法政大学大学院デザイン工学  
研究科建築学専攻

※ 2023年3月1日時点の集計により作成  
※一部抜粋、順不同 ※(株)(有)は全て省略

住友林業ホームテック株式会社

住居・インテリア学科

TO HIKARU

藤 ひかる**就職活動について**

私が就職活動をする上で大切にすることは、嘘や曖昧な発言をせずに自分らしく発言や行動をするということです。面接はリラックスして面接官と話をするようにしていました。言葉遣いの変だったり、上手く話をまとめられなかったりしましたが、自分なりの言葉で伝えることで、好感を持っていただけたように思いました。そして面接を通して企業の雰囲気を知ることができるので、企業の雰囲気を掴み自分に合った企業を見つけてください。

株式会社乃村工藝社

住居・インテリア学科

HIRAKAWA KOUKI

平河 昂輝**将来の抱負**

私は株式会社乃村工藝社にディレクター職として内定を頂きました。乃村工藝社では“集客”をテーマに各種施設、イベントにおける内装・展示の企画、デザイン・設計、制作・施工、運営管理までを手掛けるディスプレイ会社ですが、「デジタルイノベーション×場づくり」など今までにない空間と体験の可能性を追求している点に魅力を感じました。

入社後はデジタルと空間を融合した新たな体験価値を生み出せるよう努力していきます。



タカラスタANDARD株式会社

住居・インテリア学科

IKEURA NARUMI

池浦 成美**就職活動について**

私は就職活動は夏休みにどれだけ行こうかが鍵になってくると思いました。インターンシップに積極的に参加すると会社のことを知ることができるだけでなく自分のことも覚えてもらうことができます。私の周りの友達もほとんどが夏休みにインターンシップに行った企業に就職先が決まっています。めんどくさいと後回しにするのではなく、積極的に楽しみながら行いましょう！

株式会社竹中工務店

住居・インテリア学科

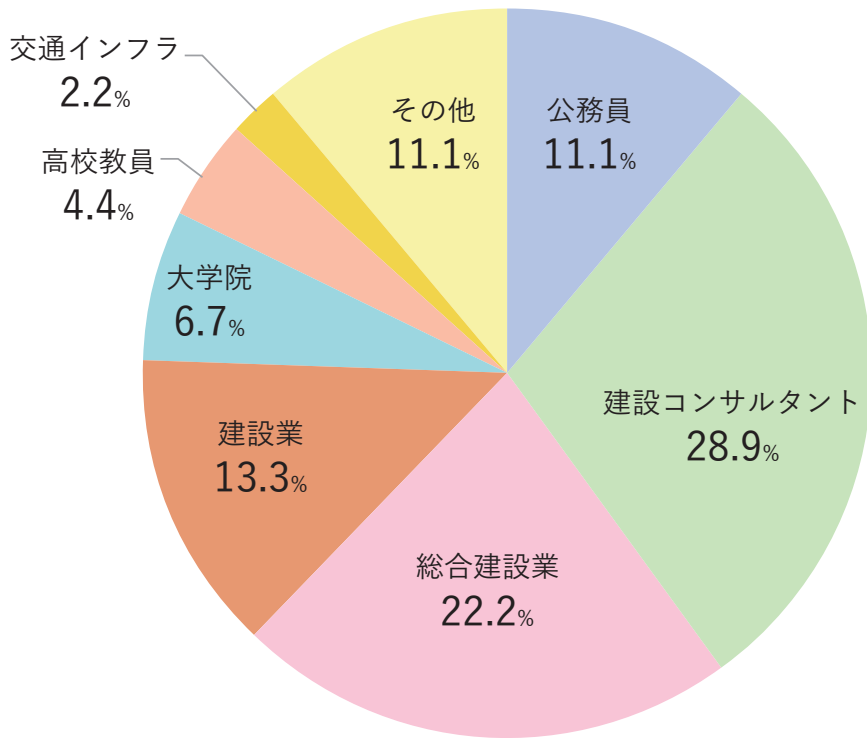
SUGIHARA YOSHINORI

杉原 慶恒**今後の展望**

私は株式会社竹中工務店の設備部として内定を頂きました。竹中工務店では、設計施工一貫となって作品を作る棟梁精神とジョブローテーション制度によって設計も施工も一度は経験できる人材育成制度、1人の設備担当者が電気・衛生・空調他全てを1人で担当する点に強く魅力を感じました。

入社後は、現在所持している2級建築施工管理技士補や消防設備士等の資格に加え、一級建築士や電気主任技術者の資格取得を目指します。

2022年度 都市デザイン工学科 進路実績種別



## 主な進路一覧

### 公務員

- 諫早市
- 大分県
- 国土交通省九州地方整備局
- 国土交通省中国地方整備局
- 大刀洗町

### 建設コンサルタント業

- ウィル
- ティーネットジャパン
- 西日本高速道路エンジニアリング九州
- 西日本高速道路エンジニアリング中国
- 復建調査設計
- 間瀬コンサルタント

### 総合建設業

- 九鉄工業
- 竹中工務店
- 東亜建設工業
- 戸田建設
- 日特建設
- 松尾建設
- 三井住友建設
- 若築建設

### 建設業

- 緒方建設工業
- 中村工業
- ピーエス三菱
- 富士技研

### 大学院

- 関西大学大学院
- 九州産業大学大学院
- 鳥取大学大学院

### 交通インフラ

- 西日本旅客鉄道

### 高校教員

- 佐賀県鳥栖工業高校
- 山口県高校教員

### その他

- 河村佐藤デザイン
- シアーズホーム

※ 2023年3月1日 時点の集計により作成  
 ※一部抜粋、順不同 ※(株)(有)は全て省略





西日本旅客鉄道株式会社

都市デザイン工学科

KANEKO ERIKA

金子英里香

## 就職活動

私は3年生の夏から就職活動を始めましたが、就職活動を始める前は土木業界の会社についてほとんど無知でした。そのため、就活イベントはオンライン開催が多かったのですが、その中でも実際に会社や現場に行けるインターンシップに積極的に参加することで様々な会社を知り自分自身が働きたいと思える会社に出会うことができました。



国土交通省中国地方整備局

都市デザイン工学科

MUKAI KOSUKE

向井 宏享

## 就職活動について

私は大学3年の春から公務員を目指し勉強を始めました。市役所・県庁のインターンシップや説明会、官庁合同業務説明会に参加し、先生方や両親と相談しながらどこを受験するか決めていきました。受験を決めた自治体は試験科目や面接様式、特徴などを調べました。各自治体の説明会やインターンシップは申し込み期限が過ぎないようにホームページを定期的に調べる必要があります。早めに目標を定め、勉強や説明会に参加することが大切です。



株式会社竹中工務店

都市デザイン工学科

SHIBATA JIN

柴田 仁

## 就職活動の意気込みと今後の抱負

就活は大学生活の中でも一大イベントだと思います。せっかくやるなら楽しんでやろうと考え、行動しました。そんな自分の就活を今振り返ってみるとすごく楽しかったなと感じます。

入社後は、学科で培った土木分野の知見はもちろん、大学生活で得た経験を胸に国内外問わず、活躍できるよう努力を重ねていきたいと思っています。



鳥取大学大学院

都市デザイン工学科

SHIBATA MASAKI

柴田 雅生

## 私の進学先

私は、鳥取大学大学院に合格を頂きました。高校時代に受験した鳥取大学で学ぶことを目標に再挑戦しました。自分で教科書を購入し独学をし、他大学への進学という不安と戦いながらたくさんの壁がありましたが乗り越えてきました。また、松尾栄治先生をはじめ、諸先生方には親身にご教授くださり本当に感謝しています。強い信念とその為の努力、諦めない気持ちを持ち続けた結果、目標達成に至ったと思います。

# 資格実績紹介

## ◀ 令和4年度 資格取得状況 ▶

### キャリア・アップ支援奨励金対象資格

ランク	資格種別	資格・免許名称	合格者
S	国家	二級建築士	19UA060 橋本 陸
			20UA034 杉上 夏月
			19UC027 柴田 仁 他 2 名
A	国家	宅地建物取引士	20UH061 吉原 岬希
	国家	技術士（第一次試験）	20UC035 鹿田 悠吏 他 3 名
B	国家	2級建築施工管理技士学科試験	19UH036 杉原 慶恒
	国家	2級土木施工管理技士学科試験	19UH032 志方 豪樹
	民間	ビオトープ計画・施工管理士 2級	21UH039 藤井 奏翔 他 1 名
	公的	カラーコーディネーター アドバンス	19UC007 今橋 龍洸 他 4 名
	民間	Photoshopクリエイター能力認定試験エキスパート	19UC026 鳴濱 佑斗 他 1 名
	民間	TOEIC IP 565	20UH061 吉原 岬希 他 1 名
	民間	TOEIC 公開 585	1 名
C	公的	福祉住環境コーディネーター 2級	20UH019 大貝 紗弥加
	民間	環境再生医 初級	20UH061 吉原 岬希
	民間	MO S (Microsoft Office Specialist) Word 365&2019	20UC035 鹿田 悠吏 他 11 名
	民間		1 名

### その他

一	公的	色彩検定2級	22GT102 楮野 美沙
	国家	消防設備士甲種4種	20UH019 大貝 紗弥加
	国家	消防設備士甲種5種	19UH036 杉原 慶恒
	国家	防火・防災管理者	
	国家	電気工事士(2種)	
	国家	高等学校教諭一種免許状(教科:工業)	1 名

## 全19種 42名！！資格取得おめでとう！！

キャリア支援センター キャリア・アップ支援奨励金  
概要URL : <https://shikaku.kyusan-u.ac.jp/career/>

キャリア支援センター WEBサイト \*1 キャリアサポート奨励金制度



この制度は、在学期間中に本学が奨励する各種資格（国家・公的・民間）を取得した学生に奨励金を給付することで学習意欲の高揚を図り、資格取得を奨励することを目的に設けられました。対象の資格ごとに定められたランクによって、合格すると奨励金が給付されます。  
【ランク別給付額】 S: 5万円 A: 3万円 B: 1万円 C: 8千円



二級建築士

建築学科

RIKU HASHIMOTO

橋本 陸

## 資格取得

将来必ず仕事で必要になる資格ということで受験を決意しました。学生の特権である暇な時間を有効活用し、毎日勉強を続けました。皆さんも勉強をコツコツ続けると取得することは可能なので、頑張ってください。



2級土木施工管理技士学科試験

都市デザイン工学科

TATSUHIRO IMAHASHI

今橋 龍洸

## 学生のうちに取得出来て良かった

内定を頂いた企業の「入社までに取得しておく」とよい資格」に紹介されていたため資格取得に挑戦しました。過去問集を購入し、2週間集中して勉強をしました。時間のある学生時代に取得できて本当に良かったです。



二級建築士

建築学科

NATSUKI SUGIKAMI

杉上 夏月

## 資格取得

私は三年時に二級建築士を取得しました。この時期に取得した理由は就活の際の武器になるということや、時間に余裕のある時にしっかりと勉強して臨みたいと思ったからです。この勉強で得た知識は授業やその先の仕事でも必ず役に立つのでぜひチャレンジして欲しいです。

消防設備士（甲種4類）

第二種電気工事士

住居・インテリア学科

SUGIHARA YOSHINORI

杉原 慶恒

## なぜ資格取得したか

学部3年の時に卒業後の進路を設備系の職種に決めたため、上記の資格取得に励みました。周りで自分と同じ資格を持っている人はおらず、暗中模索での勉強でしたが他学部の教授を頼り、取得に至りました。

難易度はそれほど高くないので時間がある人にオススメです！



宅地建物取引士

カラーコーディネーターアドバンスクラス

福祉住環境コーディネーター2級

住居・インテリア学科

YOSHIHARA MISAKI

吉原 岬希

## 資格取得

これまでの学生生活で、どれだけの知識や学問を習得することができたのか悩んだため、結果が目に見える資格取得に挑戦しました。その結果、1年間で、3つの資格を取得することが出来ました。

今後、この知識を生かして様々なことに挑戦して行きたいです。



# 博士前期・後期課程研究課題および指導教員

博士前期課程 建築デザイン分野 21GTI104 坂田夏季

研究題目：新住宅セーフティネット制度の運用状況からみた発展可能性

—地方圏の高齢者向け空き家活用に関する研究—

指導教員：矢作昌生、大庭知子

## 研究背景

近年、地方圏での戸建て空き家の増加や高齢世帯の増加が問題となっている。このようななか、公営住宅に代わり民間の空き家を活用する新住宅セーフティネット制度(以下、新住宅SN)が2017年に施行された。新住宅SN制度における空き家を活用した高齢者向け住宅の整備は、高齢者の居住環境整備及び空き家対策の両面において喫緊の課題として位置づけられる。

## 研究概要

### 1. 高齢者向け住宅の分類

自立高齢者向けのアフォーダブル住宅の環境整備が進んでいない。  
→サービス付き高齢者向け住宅や住宅型有料老人ホームなどの連携の可能性も考えられる。  
福岡県内のサービス付き高齢者向け住宅の特徴を分析した結果、一定の条件を満たさない高齢者には適応性が低く、幅広い層へ的高齢者向け住宅の整備が課題であることを示した。



## 研究目的

本研究は新住宅セーフティネット制度において高齢者向け住宅が普及するための要件を明らかにするために、現在登録されている高齢者向け住宅の特徴分析を行うことを目的とし、制度運営上の課題を検討する。  
第2章：自立高齢者向け住宅の現状把握  
第3章：居住支援協議会の実態把握  
第4章：新住宅SNに登録される物件の一般住宅の特徴の把握  
第5章：新住宅SNに登録される共同居住型住宅の特徴の把握

### 3. 新住宅SNの一般物件の特徴

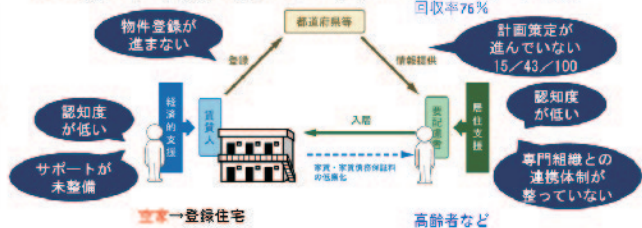
全国の登録物件を対象  
105,033棟、761,565戸

登録単位の住宅	戸数	戸数	戸数	戸数
北海道・東北	61,296(65.2%)	749,016(62.4%)	620,183	230,440
関東	181,253(78.4%)	50,002(4.4%)	100,004	3,901,219
中部	15,988(91.7%)	1,399(0.2%)	500,000	800,170
近畿	79,326(74.4%)	303,027(23.1%)	1,320,023	1,700,156
中国	440,032(58.5%)	690,160(6.0%)	1,900,000	9,300,000
九州	2,520,000(26.2%)	457,314(2.5%)	1,500,000	20,000,000
全国合計	808,430(79.8%)	1,591,526(20.2%)	11,937,000	701,565

- ・全国で低層集合住宅が多く、戸建ての少なさが顕著である。
- ・登録物件は業界団体提携による築年数が10年前後の木造低層集合住宅が多い。
- ・地方圏では家族向けが多く、首都圏や都市部では単身向けの物件が多い。
- ・業界団体提携は登録面では有効であるが、空き家の活用については課題が残る。

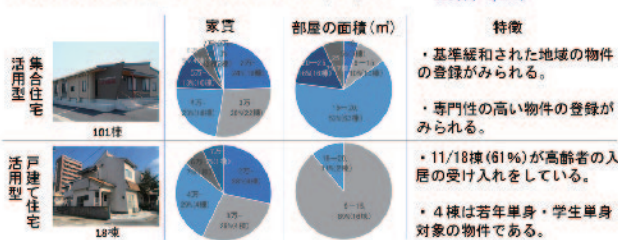
### 2. 居住支援協議会の課題

全国の居住支援協議会100団体を対象にアンケートを実施  
回収率76%



### 4. 共同居住型住宅の特徴

共同居住型住宅を対象  
119棟、1,177戸



- ・高齢者の入居を受け入れているのは87/119棟(73%)である。
- ・集合住宅活用型と戸建て住宅活用型の家賃は、ともに3万から4万円に分布し、顕著な差が認められない。

## 総括

第一に、福岡県内のサービス付き高齢者向け住宅を調査した結果、一定の条件を満たさない高齢者には適応性が低いことを確認した。第二に居住支援協議会の課題はソフト面でのサポートの充実であり、制度上の課題は物件確保のための工夫である。第三に住宅SNの登録物件の特徴は、業界団体提携による築年数10年程度の家族向けの木造低層集合住宅が大半である。不動産業者との提携は登録数の確保と制度の周知には一定の効果が見られるが、空き家活用での課題が残る。第四に共同居住型住宅の半数は高齢者向けであり、今後は戸建て活用型の自立高齢者向け共同居住型住宅の普及の可能性について検討する必要があると考える。

博士前期課程 建築デザイン分野 21GT110 羽矢晟菜

研究題目：商業集積施設の情報技術による生活様式の変化を要因とする領域・境界の形態操作設計に関する研究

指導教員：福山秀親、小泉 隆

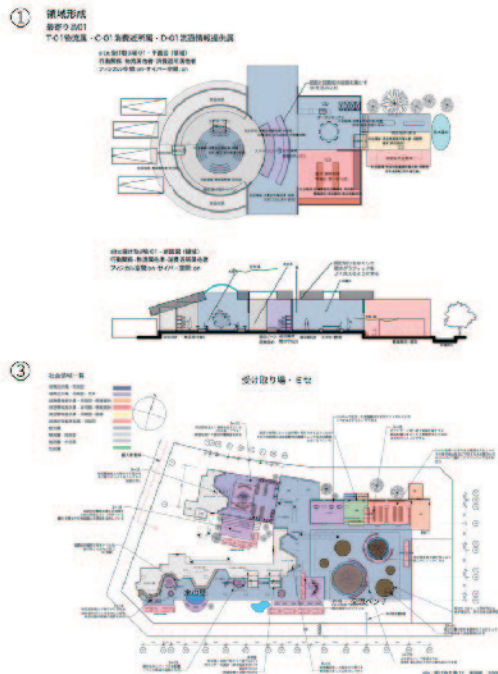
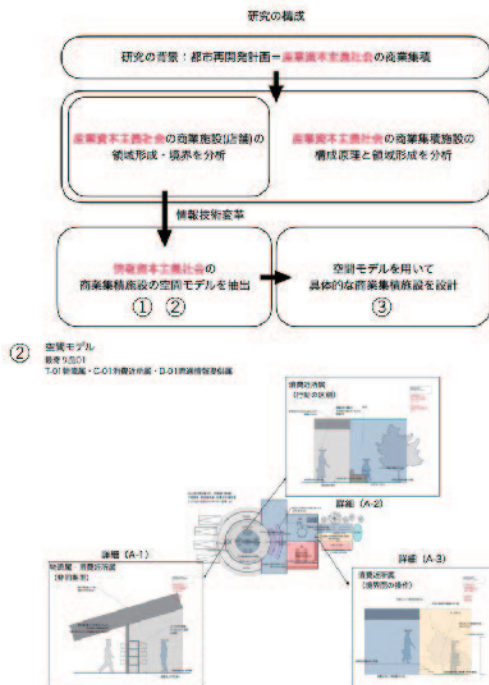
研究背景

近代の商業集積施設は生産拠点や宗教施設などの集入施設に付随して商業を集積しているが、現代（産業資本主義社会）の商業集積は商業集積施設自体を集入施設とし都市再開発に用いられている。商業集積も産業化の対象となり、都市再開発は商業集積を核とした都市自体の産業化と言える。結果、空間構造（施設の用途構成）が同一化、消費行動に対する情報提供が均一的（使用者と運営者との行為関係）、都市・建築の形態の表層的差異化の3つの特徴が産業資本主義社会の商業集積施設に挙げられる。

研究目的

産業資本主義社会の商業集積施設の3つの特徴は現代都市の同一化・ファスト化に繋がると考えた。それらを課題とし現代へ繋がる商業集積施設と商業集積を構成する各商業空間の領域分析を行う。その結果から空間モデルの抽出する。抽出した空間モデルを用いて新たな前提を制度条件とする商業集積施設を計画する。以上の方法を用いて、情報資本主義社会に対応する商業集積施設の設計行為の原理・理論を導くこととした。

研究概要



総括

現代の商業集積施設を領域・境界の視点で分析を行った。また情報技術変革を前提に情報資本主義社会（現在と異なる制度の社会）の空間・領域を形成・分析し、そこから3つの空間の操作を5つの要素を用いて検討し空間モデルを抽出した。その抽出した空間モデルを用いて具体的な3つの商業集積施設を計画することによって空間モデルの検証を行うとともに、具体的な計画案を提示することとした。



博士前期課程 土木デザイン分野 21GTI04 松本昂也

研究題目：人為圧から解放された道路空間における野生動植物の侵入と利用

指導教員：内田泰三

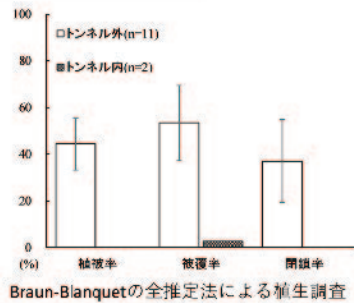
**研究背景**

近年、少子高齢化の影響によって、我が国の総人口は2008年をピークに人口減少社会を迎えている。現在、人口減少によって生じた過疎地域は国土の約60%を占めており、2050年には現居住地地域の約20%が無入化すると予想されている。  
これに伴い、道路やトンネルといった社会資本の低未利用の増加が懸念され、人間社会へ様々な悪影響をもたらすと指摘される。しかし、これら既往の報告において生態系に着目した例は極めて少ない。

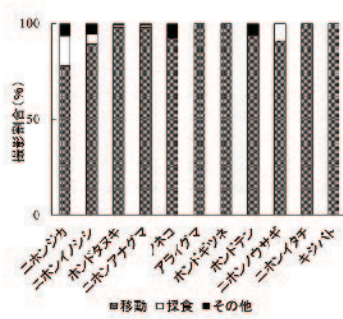
**研究目的**

人口減少社会における社会資本の管理の在り方の模索に向け、本研究では、低未利用の進んだ社会資本と自然生態系の相互関係に資する知見を得ることを目的とし、閉鎖された道路における野生動植物の侵入、野生動物の利用について評価した。

**研究概要**



多くの植物の侵入と十種の増殖

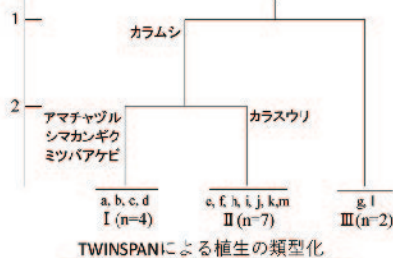


移動のための道路を活用

交通のある道路との撮影頻度の比較

種名	試験区 (n=7)	対照区 (n=7)
ホンドタヌキ	82.4	-
アライグマ	41.6	1.1
ホンドギツネ	18.4	-
ニホンジカ	16.3	-
ニホンアナグマ	14.4	-
ノネコ	11.9	-
ニホンイノシシ	11.6	1.1
ホンドテン	10.1	-
ニホンウサギ	1.7	-
ヤマドリ	1.7	-
キジノト	0.9	-
ハンソコラス	0.7	-
鳥類sp	0.4	-
ニホンザル	-	-

閉鎖による有意な活動増加



草地・光環境による植相組成の違い



**総括**

人為圧から解放された道路空間は野生動植物にとって有用な環境である可能性があること、野生動物の行動圏として機能していることが示唆された。昨今、人工的な空間を交えた生態系など、過去に見られなかった新たな生態系はノベル生態系 (Novel Ecosystems) と称され、絶滅危惧種や生物多様性の保全へ繋がることもあり、その有用性を認めて残すべきといった意見もある。本調査地のような社会資本の在り方についても、人間社会への影響も考慮しつつ議論を進めていくべき課題であると考えます。



博士後期課程 土木デザイン分野 17DTI01 古野正章

研究題目：都市空間における植物の種多様性へ街路樹が与える影響に関する研究

指導教員：内田泰三

**研究背景**

世界的に生物多様性の損失が深刻化している。これを抑止するには、都市内にも生物多様性を確保する必要がある。この様な中、都市内の緑地などが、植物や鳥類の種多様性を確保していると報告されている。しかし、近年、緑地や農地が減少すると危惧されており、新たな緑地などの整備は、用地や維持管理などの問題から困難である。一方、道路沿いに整備されている街路樹の根元の空間には、多くの植物がみられる。しかし、この様な植物は、雑草として認識され、都市生態系の一部として評価されていない。

**研究目的**

本研究では、街路樹の根元の空間に生育する植物の侵入・定着状況、除草の影響、植物群集の形成に影響を与える要因を明らかにし、街路樹が都市空間における植物の種多様性へ与える影響を評価することを目的とする。さらに、植物群集の形成に影響を与える要因を特定し、植物の種多様性をより一層確保するための、街路樹の導入方法について提案を行う。

**研究概要**

本学位論文は、街路樹の根元の空間が、都市における植物の種多様性へ与える影響について研究した成果をまとめたものである。以下に一連の研究の概要を示す。

**(1) 街路樹の根元の空間に侵入・定着する植物の生態学的特徴**

街路樹の根元の空間における植物の侵入・定着状況、同空間の面積と侵入・定着する植物の種数の関係を検討した。その結果、同空間には、多様な在来植物群集が形成されていることが明らかになった。また、各々の街路樹の根元の空間は非常に小さく、各々に侵入・定着する植物種も少ないが、同空間が集まることで都市緑地に匹敵する植物種が侵入・定着していることが明らかとなった (Fig. 1)。

**(2) 除草と街路樹の根元の空間に侵入・定着する植物の関係**

わが国で一般的に行われている除草の現状と、一般的な除草が、街路樹の根元の空間に侵入・定着する植物へ与える影響を検討した。その結果、わが国では、5月～11月にかけて、年間1回以上、抜取りあるいは、抜取りと刈取りを併用した除草が行われていることが明らかとなった。さらに、この様な除草を行うことで、街路樹の根元の空間に、より多様な植物群集が形成されることが明らかになった。

**(3) 街路樹の管理が根元の空間に侵入・定着する植物へ与える影響**

街路樹の管理のタイプ (例えば、根元に鉄格子などで覆うものなど) が (Photo. 1)、街路樹の根元の空間に侵入・定着する植物へ与える影響について検討した。その結果、管理のタイプによって、同空間に形成される植物群集が大きく異なることが明らかになった。

**(4) 緑地のタイプが街路樹の根元の空間に成立する植物群集へ与える影響**

緑地のタイプ (クロマツやシイ類などの緑地を構成している種) が、街路樹の根元の空間に侵入・定着する植物へ与える影響を検討した。その結果、各タイプの緑地周辺の街路樹の根元の空間には、それぞれ異なる植物群集が形成されていることが明らかになった。

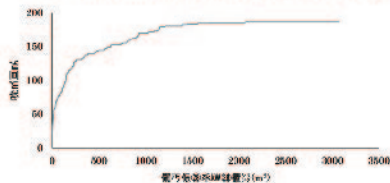


Fig.1 街路樹の根元の空間の面積と種数の関係



Photo.1 街路樹の管理のタイプの一覧

Type A: 樹木の根元に何も整備されていないタイプ、Type B: 樹木の根元にガーデニングが整備されているタイプ、Type C: 樹木の根元に鉄格子などの人工構造物で覆われているタイプ、Type D: 樹木を低く刈り込んで生垣にしているタイプ

**総括**

街路樹の根元の空間は、都市緑地に匹敵する植物種の生育地であることが明らかとなったため、同空間は、都市空間における植物の種多様性を確保していると考えられる。また、街路樹の管理のタイプ、周辺の緑地のタイプが、同空間に形成される植物群集へ影響を与えていると考えられ、植物の種の多様性をより一層確保するために、様々な管理のタイプの街路樹を導入すること、様々な緑地周辺に街路樹を導入することを提案する。一方、同空間には、侵略的外来種の生育もみられるため、これらへの対策を加味することで、植物の種多様性はより向上すると考える。

## 2022年度建築学科 卒業研究優秀作品

### ●卒業研究の総評（日高圭一郎教授）

建築学科の卒業研究は、設計または論文の何れか一方を選択する必修科目で、大学で学んだ建築学の集大成でもある。今年度は設計選択者が27.7%（18/65人）で、前年度の21.4%（12/56人）と増加した。論文は、構造・材料系が20テーマ、環境系が15テーマ、計画系が10テーマの合計45テーマであった。総合的に見て、全体の平均レベルは昨年度とほぼ同様で、設計よりも論文の方が、平均点が高い傾向であった。

卒業設計で金賞を受賞した一ノ瀬晃君の「みんなのお寺-地域に開いていく寺院建築の在り方-」は非常に意欲的な作品で興味深い提案であった。卒業論文については、「大学施設におけるエネルギー消費量とCO<sub>2</sub>排出量に関する研究」をテーマとし銀賞を受賞し、かつ最高得点を得た太田理子君を建築都市工学部長賞候補として推薦している。

### ●設計作品の講評

#### 金賞 「みんなのお寺-地域に開いていく寺院建築の在り方-」 一ノ瀬晃君

祖父母がお寺を営まれていて、継ぐことを望まれており、建築の道に進むのか、お寺を継承するのか悩みながら取り組んだ卒業設計である。檀家が年々減少し、若年層のお寺離れが進んでいるため、多世代を対象に地域に開かれたお寺の「在り方」や「可能性」を模索した秀作である。（矢作昌生教授）

#### 銀賞 「もう一度運河で繋がる」 井上寿朗君

宮崎県日南市油津の堀川運河は、江戸初期に木材運搬のために掘削され、木材の物流・加工の集積地であった。失われたその風景を、運河沿いに製材所・木工房・直販所・カフェ・宿泊施設を点在させ、舟運で繋ぎ取り戻す提案である。文化遺産に寄り添い活かす良質な提案である。（富田英夫准教授）

#### 銅賞 「記憶の建築化」 熊本亮斗君

実家が解体されるかも知れないという状況に際し、家族旅行などの「記憶（思い出）」を実家に集積することを試行した。リノベーションとして実際に施工するか否かは重要ではなく、記憶を建築化あるいは別の言い方をすれば「建築が記憶集積媒体」となり得るかを模索した作品である。（矢作昌生教授）

#### 佳作 「音楽的構築～Jazz with Strings から見える建築空間～」 奥川莉帆君

作者の趣味である「音楽」と、「建築」という違う分野を融合あるいはセッションすることによって、新しい空間（体験）が生み出せないかという試行的な作品である。スタディの過程に時間を要したが、最終アウトプットの動画では両者が融合していることが感じられる作品となった。（矢作昌生教授）

#### 佳作 「融合する建築 SF・IC すこしふしぎなインターチェンジ」 西村夢香君

SF（すこし・ふしぎ）は藤子・F・不二雄が生み出した造語である。作者は高速道路がビルに突き抜けていたり、駅にモノレールが貫入している体験が魅力的で、そのような少し不思議な体験を高速道路のインターチェンジに創造した作品で、楽しんで作っていたことが印象的である。（矢作昌生教授）

## ●構造・材料系論文の講評

### 金賞 「高さの異なるピロティ建築物の弾塑性性状の比較」 熊本雅之君

6階、10階、14階のRC造ピロティの試設計建築物を3次元非線形FEM解析によって弾塑性性状を比較した。モデル化では柱梁の主筋や壁筋を集約化によって節点数の低減等の工夫を行って大規模解析を実施し、3次元でしか見ることのできない応力状態の分析を可能とした。(内田和弘教授)

### 銀賞 「RC造十字形および段差梁柱接合部のせん断終局強度に関する考察」 椎木雄太郎君、林田庸君

鉄筋コンクリート造の十字形柱梁接合部および左右の梁に段差のある柱梁接合部に関する実験を既往の文献から抽出し、せん断終局強度に影響を及ぼし得る因子について統計的に検討した。数多くの文献から実験データを丹念に拾い出した地道な努力は高く評価できる。(花井伸明教授)

### 銅賞 「コンクリート充填角形鋼管短柱の弾塑性性状に関する解析的研究」 小池耕平君

異なるダイアフラムを有するコンクリート充填角形鋼管短柱試験体を対象として3次元非線形FEMによってダイアフラム形式による違いを検討した。実験のダイアフラム形式のほかに、解析では仮想試験体を追加することにより解析の特徴を活かした検討を実施することができた。(内田和弘教授)

## ●計画・環境系論文の講評

### 金賞 「辰野金吾設計「安川邸西洋館」案の室内装飾に関する研究」 有水玲香君

実現しなかった辰野金吾設計「安川邸西洋館」案の室内図面群は、雑誌発表時に余白が無いほど詰め込まれ、かつ省略部分も多く、解読は容易ではなかった。著者は、それらを丹念に読み解き、対称軸から部屋の相互関係を分析し、独自の手法で各部屋の重要度を数値化した。(冨田英夫准教授)

### 銀賞 「大学施設におけるエネルギー消費量とCO2排出量に関する研究」 太田理子君、李楹秋君

過去5年の本学におけるエネルギー消費量を系統ごとに分析し、同規模の大学施設と比較して年間原単位はいずれも小さいこと、コロナ禍前後でエネルギー消費動向の変化に空調・換気設備の運用が影響していること、蓄熱空調方式の運用実態と課題について明らかにした。(北山広樹教授)

### 銅賞 「温熱・空気環境のモニタリングと室内環境調節に関する研究」 小牧優那君、佐藤菜摘君

熱中症やウイルス性感染症の予防には、常時、室内環境を適正に調節・維持することが重要である。そこで、常時、室内温湿度やCO2濃度等をモニタリングし、その値を基準にエアコンや換気設備(熱交換器)をマイコンで制御し、最適運転する手法を提案し実験で検証した。(北山広樹教授)

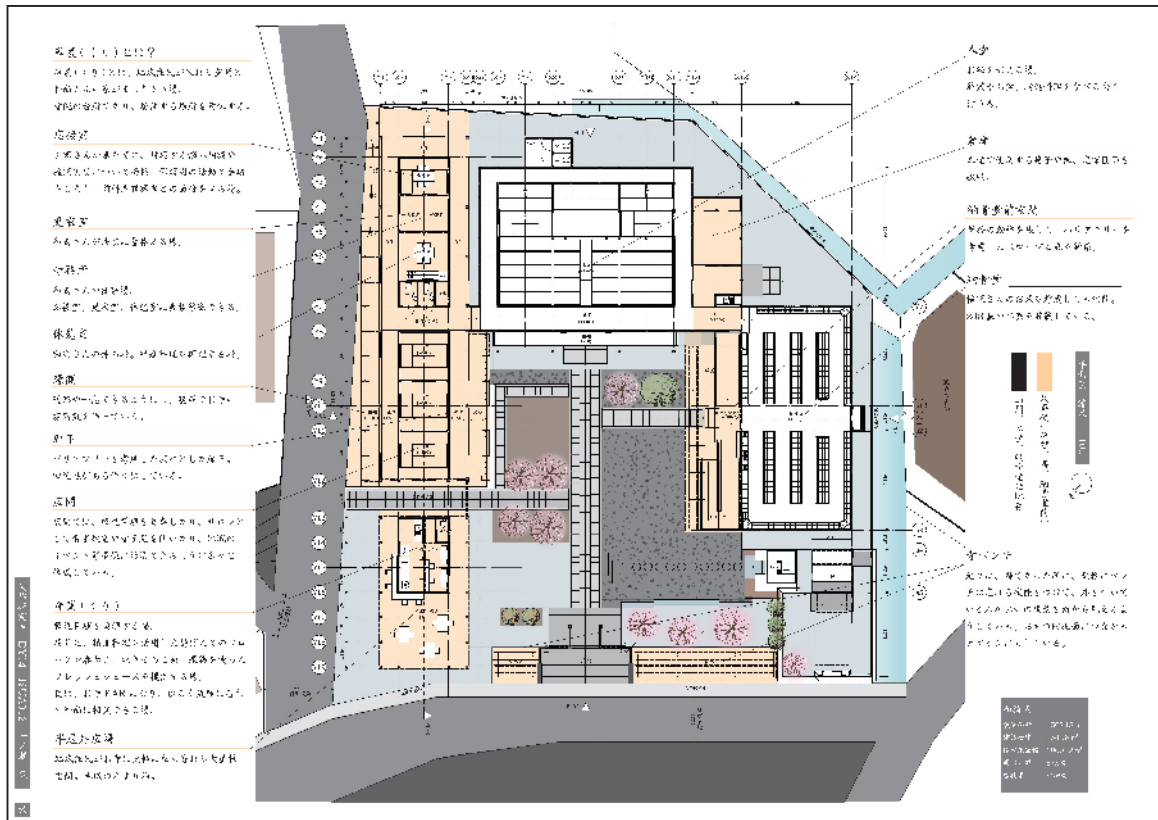
### 銅賞 「ヴァルター・グロピウスによる「イエナ市立劇場」の増改築における被覆の手法」 加生翼君

西洋建築史分野において、増改築という視点で歴史を書き直す動きがある。その動向に触発され、著者は20世紀を代表する建築家グロピウスの唯一の増改築作品を分析した。近代建築を開拓した建築家が既存建築にどう向き合ったのか、その問いへの重要な回答の一つとなった。(冨田英夫准教授)



## みんなのお寺—地域に開いていく寺院建築の在り方—

19UA012 一ノ瀬晃







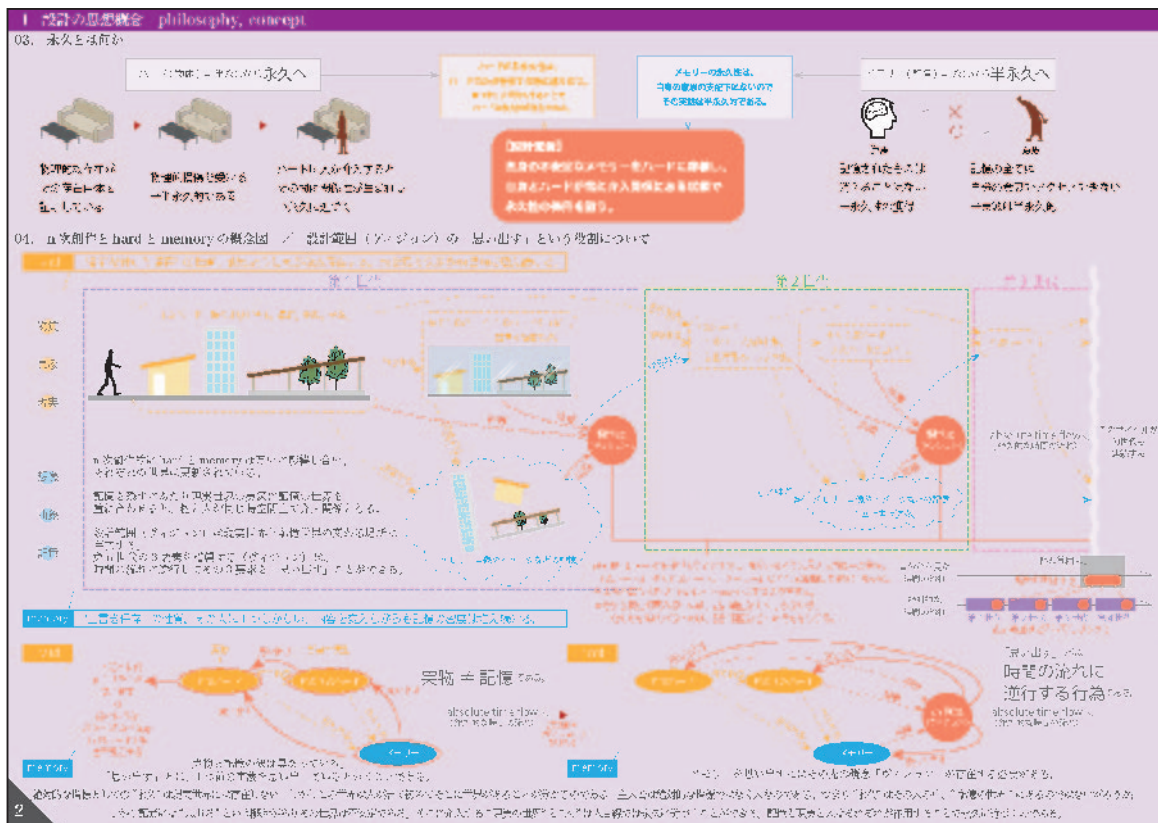






# 記憶の建築化

19UA036 熊本 亮斗









# 音楽的構築～ Jazz with Strings から見える建築空間～

19UA023 奥川 莉帆

### 音楽的構築 - Jazz with Strings から見える建築空間 -

**01** **音楽的構築**  
 本プロジェクトは、ジャズと弦楽四重奏の音楽から建築空間を構築する。音楽の要素であるリズム、メロディ、ハーモニーを建築の要素として取り入れ、空間の構成を決定する。音楽的構築の手法として、リズムを空間の構成要素として取り入れ、メロディを空間の構成要素として取り入れ、ハーモニーを空間の構成要素として取り入れる。音楽的構築の手法として、リズムを空間の構成要素として取り入れ、メロディを空間の構成要素として取り入れ、ハーモニーを空間の構成要素として取り入れる。

**02** **構成**  
 音楽的構築の手法として、リズムを空間の構成要素として取り入れ、メロディを空間の構成要素として取り入れ、ハーモニーを空間の構成要素として取り入れる。音楽的構築の手法として、リズムを空間の構成要素として取り入れ、メロディを空間の構成要素として取り入れ、ハーモニーを空間の構成要素として取り入れる。

**03** **アプローチ**  
 音楽的構築の手法として、リズムを空間の構成要素として取り入れ、メロディを空間の構成要素として取り入れ、ハーモニーを空間の構成要素として取り入れる。音楽的構築の手法として、リズムを空間の構成要素として取り入れ、メロディを空間の構成要素として取り入れ、ハーモニーを空間の構成要素として取り入れる。

**04** **長短性**  
 音楽的構築の手法として、リズムを空間の構成要素として取り入れ、メロディを空間の構成要素として取り入れ、ハーモニーを空間の構成要素として取り入れる。音楽的構築の手法として、リズムを空間の構成要素として取り入れ、メロディを空間の構成要素として取り入れ、ハーモニーを空間の構成要素として取り入れる。

先件研究室 奥川 莉帆

### 分析

**05** **分析**  
 建築的要素の分析。リズム、メロディ、ハーモニーの要素を建築空間にどう取り入れるかを分析する。音楽的構築の手法として、リズムを空間の構成要素として取り入れ、メロディを空間の構成要素として取り入れ、ハーモニーを空間の構成要素として取り入れる。

**06** **スタディ**  
 建築的要素のスタディ。リズム、メロディ、ハーモニーの要素を建築空間にどう取り入れるかをスタディする。音楽的構築の手法として、リズムを空間の構成要素として取り入れ、メロディを空間の構成要素として取り入れ、ハーモニーを空間の構成要素として取り入れる。

**07** **Stringsの置換**  
 Stringsの置換の分析。音楽的構築の手法として、リズムを空間の構成要素として取り入れ、メロディを空間の構成要素として取り入れ、ハーモニーを空間の構成要素として取り入れる。

**08** **現地**  
 現地の分析。音楽的構築の手法として、リズムを空間の構成要素として取り入れ、メロディを空間の構成要素として取り入れ、ハーモニーを空間の構成要素として取り入れる。

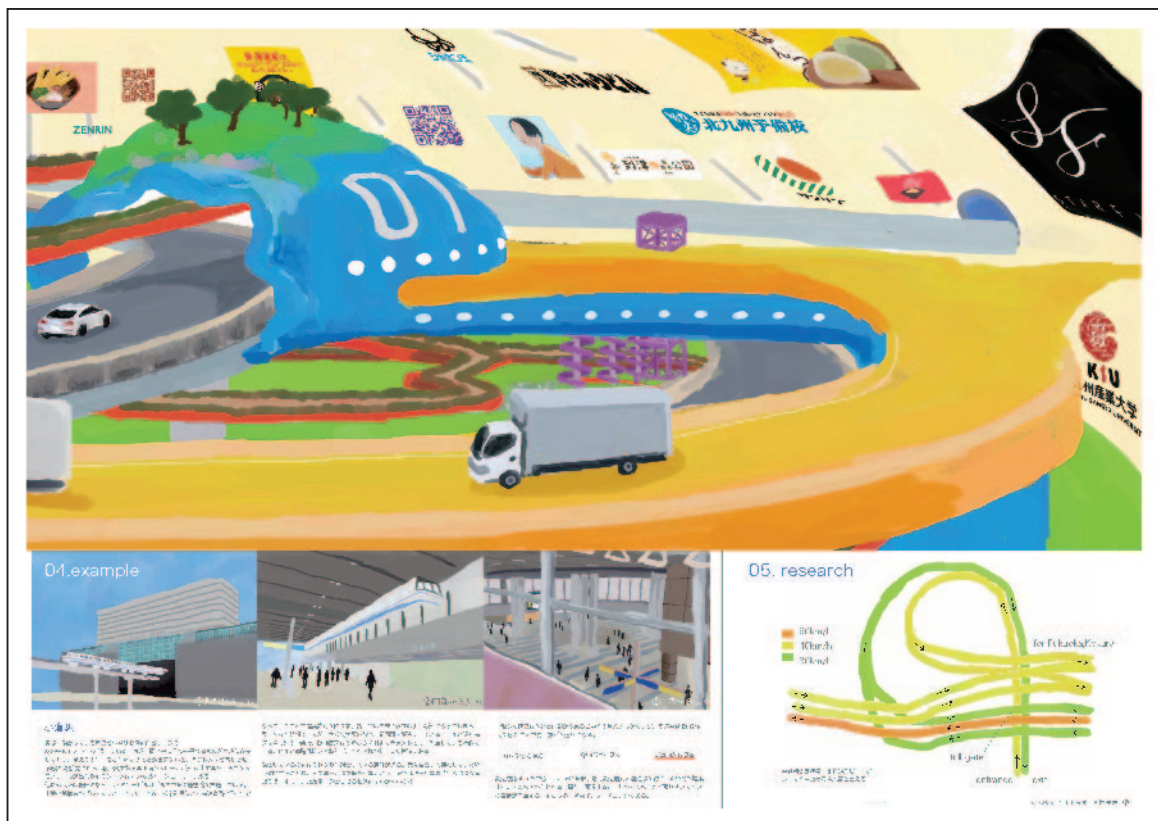
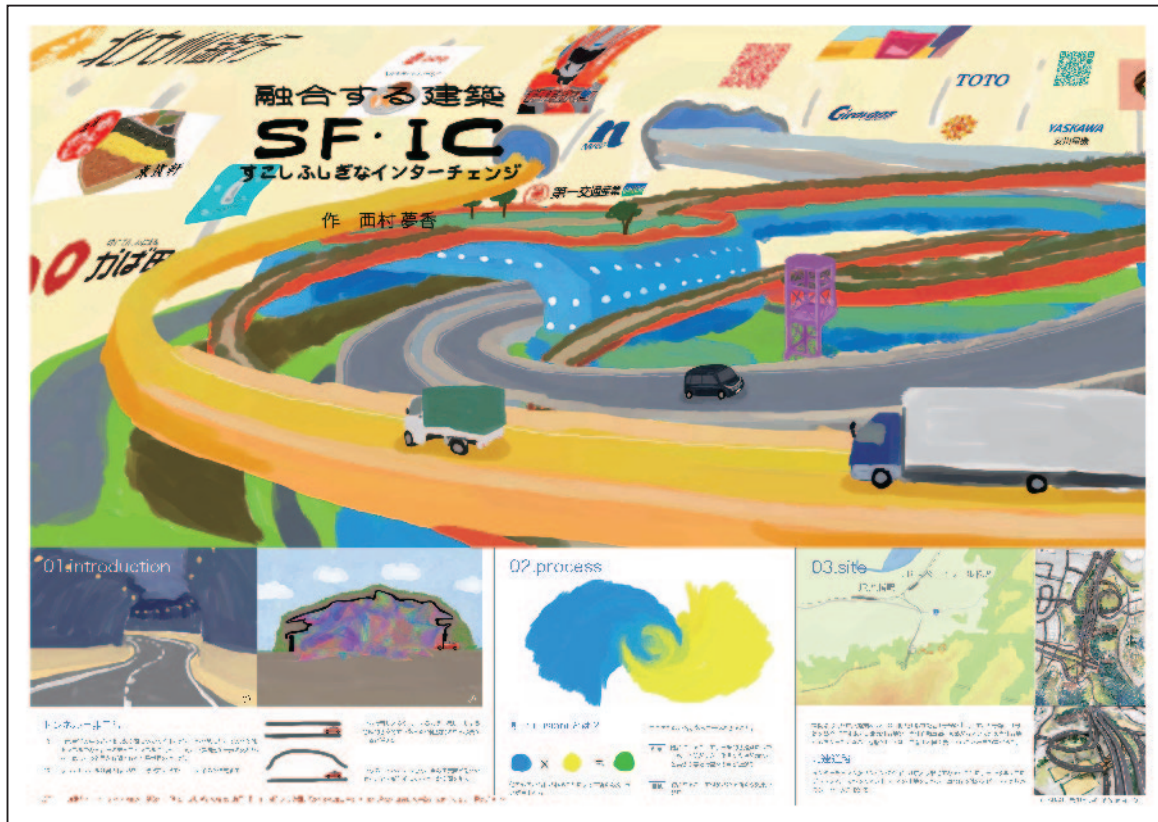
先件研究室 奥川 莉帆





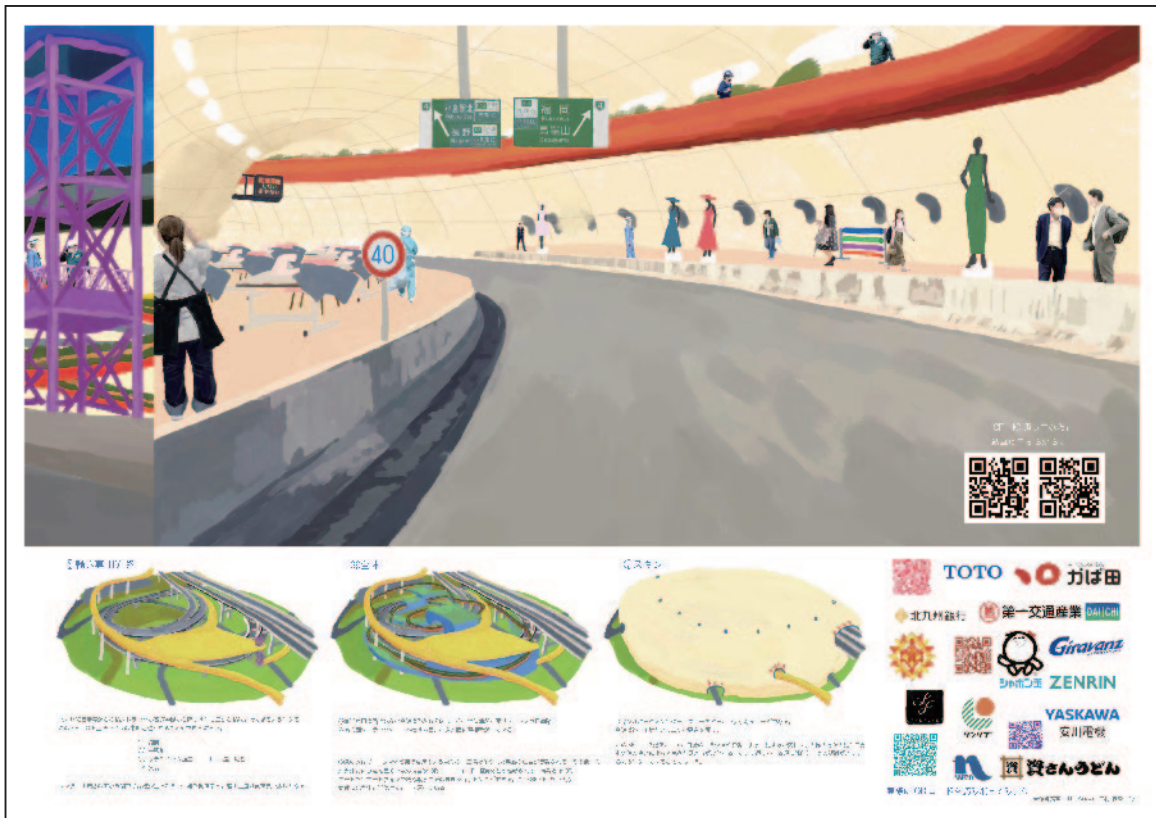
# 融合する建築 SF・IC すこしふしぎなインターチェンジ

19UA059 西村 夢香





佳作作品



## ■住居・インテリア学科卒業研究優秀賞

## 「仕切る。」19UH058 藤原和也

「内部空間における仕切り」を課題に掲げて、作者自身の実家をモデルに快適な住環境を目指した住宅のリノベーション設計作品である。併せて「空間と空間を隔てる仕切りの作用によって与える効果」についての研究設計となっている。共有空間とプライベート空間を壁などで完全に分けることでプライバシーの確保は容易であるが、空間を分けることで生まれる溝もまた容易に形成されてしまうので、視線や音など存在を感じる要素を完全に遮るのではなく、工夫して遮ることでプライバシー確保と人の共存の折り合いの可能性を広げることができる。(諫見泰彦准教授)

## 「中洲エリアにおける賑わい・多様性・回遊性を創出する水辺・水上・歩行者空間の計画」

19UH015 鬼塚文哉

近年世界的に、自動車主体から人間中心の街への転換が提唱され、歩行、自転車、水上移動などを主軸にした街づくりが注目されている。本作品は3年次の研究室ゼミで扱ったそのようなテーマや事例に影響を受け、福岡市の中洲エリアのアップグレードを試みたものである。エリア全体を組織化する構造的な組み立てと、その場にいる人間の居心地等から考える計画との連続性・バランスが良く、それらの表現も秀逸で、実現したら良いなと思わせる魅力的な作品である。歓楽街特有の猥雑性などを取り込む試みがあったらより興味深い計画になったのではと思われる。(小泉隆教授)

## 「北九州市八幡東区枝光の未来都市開発 ー空き家・空き地X新築戸建て住宅X傾斜地ー」

19UH041 富永悠生

テーマは「空き家の増加で塩漬けになった傾斜地の住宅地を、どのように手を加えれば、世代を繋ぐ住宅地に再生できるのか」である。車道の整備、既存状態を生かした造成、接道を満たした土地割、集中駐車場と傾斜地遊歩道というフォーマットを導き出し、住宅や共用施設の設計も行った。現地調査と関係者へのインタビューなどを経て、課題のハードルの高さにたじろぐこともあったが、熱意で乗り越えた。人口減少社会において、次の世代へ引き継ぐには問題がある住宅地を、どうすれば再生できるのかという難問の解決が地域再生のカギを握る。(信濃康博准教授)

## 「非線形的図書館」19UH027 午頭茉歩、19UH070 山口未夢

前提として商環境デザインゼミナールの卒業研究は設計行為を対象とし、その主題は領域・境界の形態に関する事項に限定する。

午頭茉歩と山口未夢の共同研究は1950年以降(第二次世界大戦以降)の図書館施設の用途領域の分析を行い、伊東豊雄設計の図書館に領域設定の変移点を見出す。次に変移された領域から生成される境界の形態に着目しその空間的特徴として抽出した。抽出・見出した領域と境界の形態を設定した建築に応用したものを提示した。

指導教員として分析や抽出した形態に対して考察深度不足であるとの指摘を示しておくが、研究としての構成は優れており、図書館施設の領域と境界の形態操作の可能性を見出した点は評価に値する。

(福山秀親教授)

#### 「植物と共生する住宅」19UH068 矢野詩織

植物といった自然と人工物である建築の関係性は普遍的なテーマといえる。26件の事例調査に基づく植物と建物が共生する手法を、集合住宅の空間構成と符合させながら、複層的に組み上げており、その構成が秀逸である。また、外部空間では、コミュニティ形成の視点もふまえて、居住者の庭の植栽を道ゆく人にも楽しめるよう個人の領域と公共の領域の境界の在り方についても時間をかけて熟考しており、評価できる。

(松野尾仁美准教授)

#### 「香りがハコオフィスの居心地に与える影響に関する実験研究」19UH021 木村美羽

本研究は、実際に利用されているソロワークブースで、空気温湿度・CO<sub>2</sub>濃度・照度・騒音レベルなど空間の環境物理量と、利用者の耳内温・発汗量・脳波・気分尺度といった生理・心理・精神反応を測定し、空間の居心地の総合評価を試みたものです。特に空間の香りに注目して、香り有無の居心地とその個人差を定量評価できるようにしました。木村美羽さんは、被験者実験は勿論のこと、実験に至るまでのソロワークブースの開発・組立においてもリーダーシップを発揮して、研究成果を得ました。今後の更なるご活躍を心から期待しています。(香川治美教授)

#### 「子どもに適した家庭用家具（傾斜台）の設計指針に関する研究～天板傾斜角と着座姿勢別の比較実験～」

19UH009 上田悠貴

本研究は、先行研究の椅子座の学習作業においてテーブルの天板を傾斜させることで作業性が向上するとの知見を受けて、椅子座や床座（正座・あぐら）の着座姿勢によって最適な天板傾斜角が異なるかを明らかにしようとしたものです。上田悠貴さんは、自発的に先行研究を調べ続け、社会に貢献するテーマに辿り着きました。研究遂行中も基礎調査、実験条件の設定や実施、データ処理や分析、考察にいたる一連のプロセスを継続的に行われました。研究内容はこれから改善すべき点がありますが、取り組まれたプロセスは素晴らしいものでした。(吉村祐樹講師)





8 設計のポイント

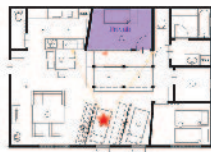


服が少量の時は色を揃えておくことで、視線の移動を減らすことができる。(本人撮影)



服が多い時は色を揃えておくことで、視線の移動を減らすことができる。(本人撮影)

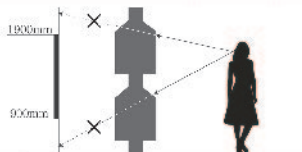
何冊かの服は収納ボックス、ボックスの位置として収納されている。



(S=12'00)



可動式の壁として、ユーザーの行動に応じて、壁の向きを自由に動かせるように設計した。また、壁の厚さを100mmに抑えている。また、壁の厚さを100mmに抑えている。また、壁の厚さを100mmに抑えている。



視線を遮る壁の厚さを100mmに抑えていることで、視線の移動を減らすことができる。

8 設計のポイント



- ・壁・天井・床・家具の色を揃えることで、視線の移動を減らすことができる。(本人撮影)
- ・壁の色を揃えることで、視線の移動を減らすことができる。(本人撮影)



壁・天井・床・家具の色を揃えることで、視線の移動を減らすことができる。



作業空間として、デスクと椅子を設置し、壁の色を揃えることで、視線の移動を減らすことができる。

9 まとめ



共有空間とプライベート空間を繋ぐことで完全に分けることで、プライベートの空間は容易である。しかし、空間を分けることも生じる。また、視線や音などの要素を減らすことで、共有空間とプライベート空間の両方を確保することができる。

共有空間とプライベート空間を繋ぐことで完全に分けることで、プライベートの空間は容易である。しかし、空間を分けることも生じる。また、視線や音などの要素を減らすことで、共有空間とプライベート空間の両方を確保することができる。







月刊「近代建築」別冊「卒業設計」掲載

### 一 アプローチ

この建物は、ポテンシャルを最大限に引き出すため、周囲の環境を最大限に活用し、自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。

① 自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。

② 自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。

③ 自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。

### 二 山内町の金水橋

山内町は、自然豊かな町であり、金水橋は、その自然を最大限に活用し、自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。

山内町は、自然豊かな町であり、金水橋は、その自然を最大限に活用し、自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。

### 三 断面図

断面図は、建物の構造と内部空間を示しています。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。

### 四 平面図

平面図は、建物の平面構造を示しています。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。

### 五 深さ機橋

深さ機橋は、建物の深さを最大限に活用し、自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。

### 六 断面図

断面図は、建物の構造と内部空間を示しています。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。

### 七 平面図

平面図は、建物の平面構造を示しています。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。

### 八 深さ機橋

深さ機橋は、建物の深さを最大限に活用し、自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。自然の恵みを最大限に享受できるように設計された。









■非線形的図書館

19UH027 午頭茉歩、19UH070 山口未夢

2000年代以降

2000年代以降の図書館の平面図と断面図。左側には従来の直線的なレイアウトが示され、右側にはより複雑な非線形的なレイアウトが示されている。

図解: 別荘的、閲覧スペース、職員、印刷・資料、複写スペース、デジタルコンテンツの検索、電子・媒体交換、教育、研究・創作、展示

19UH027/午頭茉歩、19UH070/山口未夢

一般的な図書館

●九州産業大学図書館

＜直線的形態＞  
 ・活動動線に直と交って分離している  
 ・壁で空間が仕切られている  
 ・形状や高さ等しい家具や設備が規則的に繰り返される

＜線形的な組織＞  
 ・対象を分離・分析したうえでその分離された断片を置きだりながらからの影響の及んでこないと見られた（コンパクト）空間の断片を組織する  
 ・基本ユニットの重複的集合体として構築される

伊東豊雄による図書館  
 (非線形性が導入された図書館)

●水戸大学附属図書館 ●台湾大学社会科学研究館

＜直線的形態＞  
 ・窓が少ない  
 ・家具の形式や高さ、柱の間隔が不均一  
 ・閲覧スペースと土壁が混在している

＜非線形的な組織＞  
 ・対称性から開放され、非コンパクト化、納入システムからヘテロジェニアス (heterogeneous) 異体の、見直し、振返り、不均一) 能力が導入  
 ・基点・端点を有する基本ユニットの重複が多量にあり

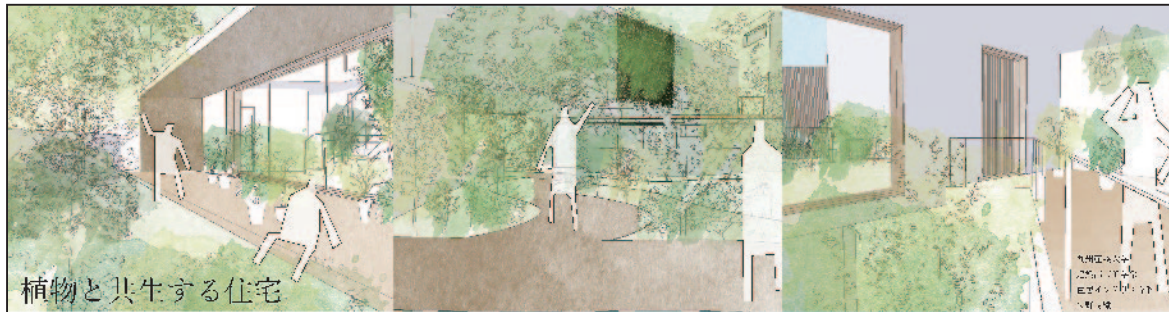
19UH027/午頭茉歩、19UH070/山口未夢





# 植物と共生する住宅

19UH068 矢野詩織

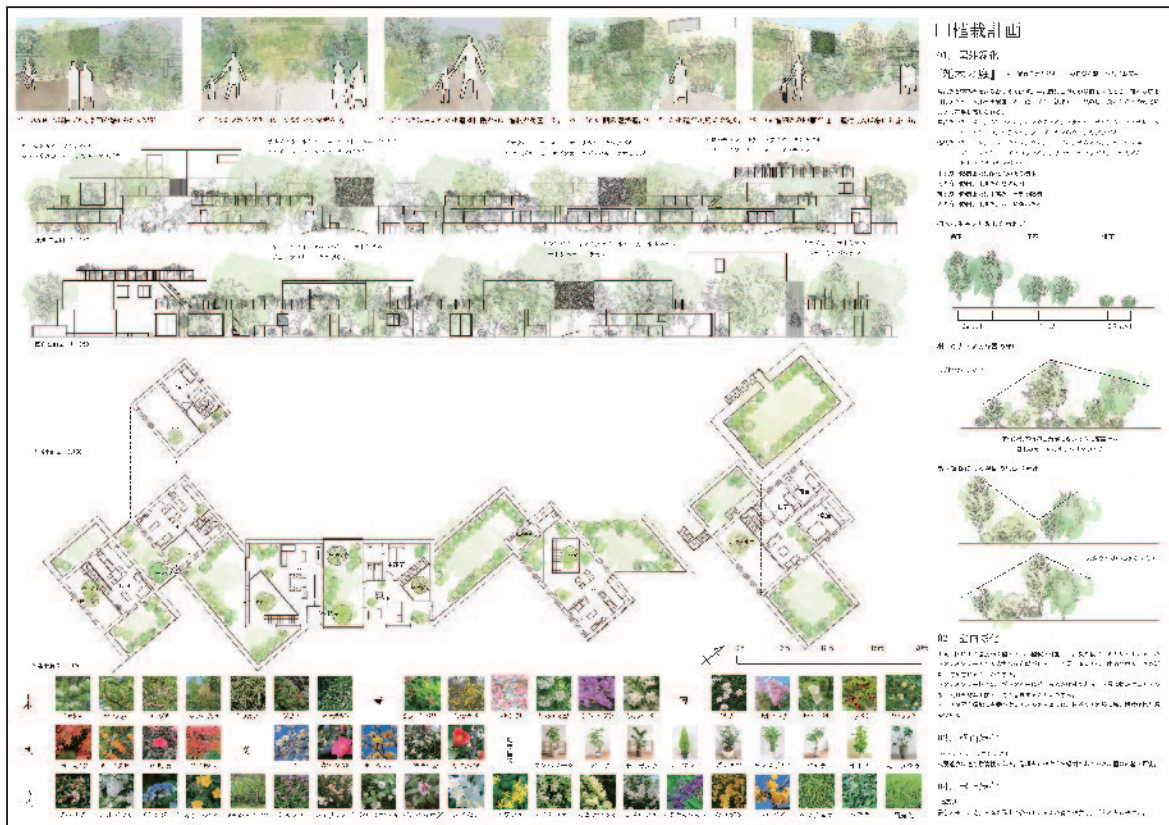
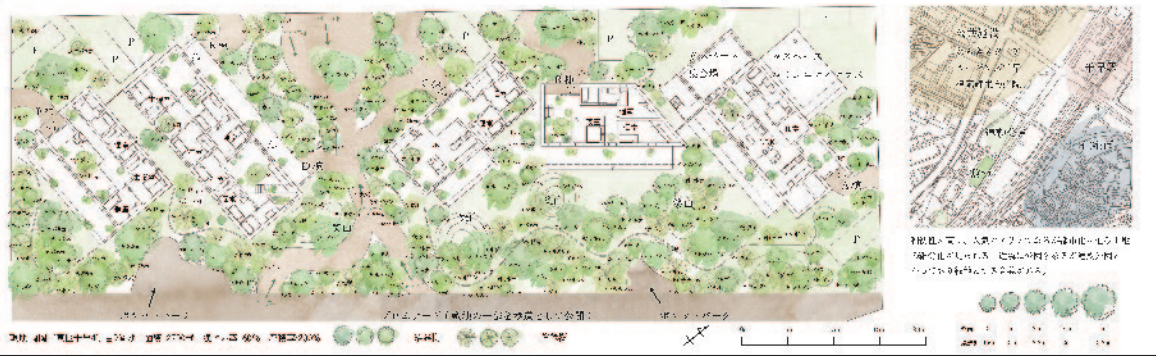


## 植物と共生する住宅

### 01. 設計主旨 「人の生活と植物の成長を共生させる住宅のあり方、よりよい生活環境の創出」

現代日本における建物の設計、本来は自然環境と共生するべきである。植物は自然環境を形成する上で重要な役割を果たしている。また、植物は人間の生活環境を改善し、健康増進に寄与する。本設計は、自然環境と人間の生活を共生させるための住宅設計を提案する。建物の外観に植物を成長させることで、自然環境と人間の生活を共生させる。また、建物の内部にも植物を成長させることで、自然環境と人間の生活を共生させる。建物の外観に植物を成長させることで、自然環境と人間の生活を共生させる。また、建物の内部にも植物を成長させることで、自然環境と人間の生活を共生させる。

### 02. 配置図





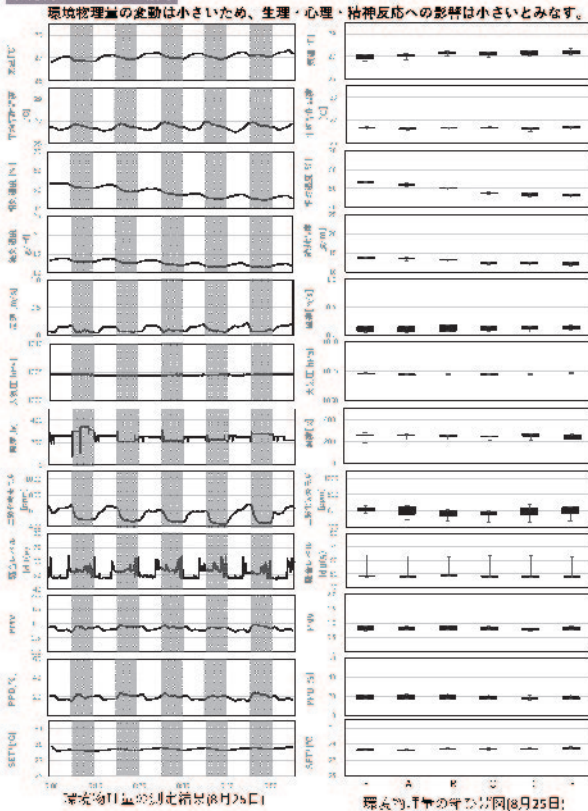








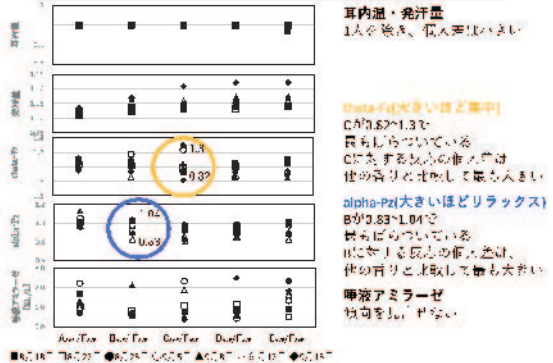
環境物理量の測定結果



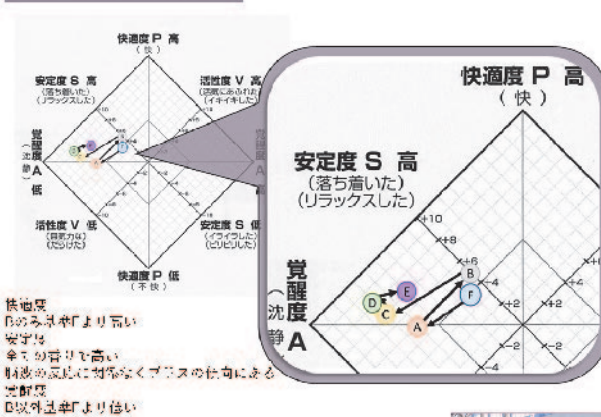
生理・心理・精神反応(基準Fとの差分)の比較 香り有無の考察



生理・心理・精神反応(基準Fとの比率)の比較 個人差の考察



気分尺度の測定結果(8月25日)



・心拍数を、客観と主観の両者の観点から、総合的に計測することができた。  
・割合をデータとして算出できる実験装置システム及び快楽尺度を構築した。  
・環境物理量には変化がないことを確認して実験を実施した。  
・香りによって、生理・心理・精神反応(Heart-Rate/alpha-Pz/唾液アミラーゼ)の反応を異なる割合で異なる結果が得られた。  
・香りの違いと脳波の反応の関係は、気分がプラスに動く場合があった。

**今後の課題**

- ・被験者を増やし、男性だけでなく女性のデータを蓄積する。
- ・ラボワークスペース内で実験装置を設置するためにはけい、また室内環境によって気温湿度が高くなりすぎるなど、実験装置のためのブースとしての機能を果たすために、新たなラボワークスペースが必要である。
- ・香りの他色及び匂い刺激の影響を確かめる必要がある。
- ・香りをはたかせる方法、例えばアロマディフューザーなどについて検討が必要である。
- ・唾液アミラーゼ、気分尺度、脳波といったストレス反応の測定精度及びタイミングの影響を確かめる必要がある。
- ・唾液アミラーゼの測定精度を上げて実験を実施する必要がある。

**参考文献**

- ・杉口真樹「木の香りや草の香りを科学的に解析する」  
科学技術情報誌「科学」11月号(2016年)
- ・平山いづみ「店舗と商品と香りの関係」  
応用計測(東北大学)第14号(2008年)

新たな個室ブース「HACOCE(ハコス)」の開発・組立





子どもに適した家庭用家具（傾斜台）の設計指針に関する研究～天板傾斜角と着座姿勢別の比較実験～

19UH009 上田悠貴

子どもに適した家庭用家具（傾斜台）の設計指針に関する研究～天板傾斜角と着座姿勢別の比較実験～

1. 研究背景

少子高齢化社会の現代において、子どもの学習環境の充実が次世代を担う人材育成において重要視されている。中でも家庭用の学習机および椅子（以下：学習家具）は子どもが日常的に使用するため、子どもの学習環境に与える影響は大きい。本研究では、椅子座における子どもに適した学習家具の設計指針の導出を目的とした傾斜天板に関する研究<sup>1)</sup>を基に、本稿やタブレット作業などの条件を付加えた実験を行った。

先行研究では、学習作業に着目して天板傾斜が計算作業に与える影響について調査していた。結果、天板に傾斜をつけた方が作業効率や被験者が感じる作業性が向上したと提示していた。このように天板傾斜の効果が示されているが、椅子座や床座などの着座姿勢に着目した研究は見られない。一般的には椅子座の割合が多く、それを想定した研究や商品が圧倒しているが、ローテーブルやちゃぶ台を使用した床座での作業をする人も一定数いるのではないだろうか。

2. 研究目的

本研究では、椅子座や床座などの着座姿勢に着目し、天板傾斜の作業性に与える影響が着座姿勢によって異なるのかを確認することで、子どもの学習環境の充実と家具メーカーの製品企画力向上に寄与する基礎資料を得ることを目指す。

3. 研究方法および手順

まず、事例調査（①先行研究、②傾斜台の寸法、③ローテーブルやちゃぶ台の高さ）を行った。次に、予備実験で床座姿勢における天板傾斜の有効性を確認した。そして、本実験で天板傾斜角と着座姿勢別の比較実験を行った。

【本実験の概要】

◆目的

本実験では予備実験の結果を基に、椅子座と床座に違いがあるかを確認した。予備実験では、椅子座と床座における天板傾斜の有効性を確認し、同じ床座でも着座姿勢によって使用感や作業性に差が生じると考察した。ここで更に詳しく調査するために、椅子座、胡座、正座の3種類の着座姿勢の比較を行い、差があるか確認した。

◆方法

天板の傾斜角を調整できる装置と一般的なちゃぶ台の高さのテーブルを製作し、傾斜角5条件（0°、10°、20°、30°、40°）、着座姿勢3条件（椅子座、胡座、正座）を組合せた計15条件を実験の条件とした。なお、テーブルの高さは700mmで椅子は座面高さ400mmの背もたれのあるもの、ローテーブルの高さは350mmで座椅子は使用せず高さ80mmのクッションを使用した。また実験は、椅子座が照度950luxで胡座と正座が900luxの条件下で行い、タブレット作業時はグレアが生じないように配慮し、両方の明るさは0～16段階中の6段階で行った。図1に各着座姿勢における実験の様子を示す。

①②での作業は、筆記作業（書き）とタブレット作業（計算）の2種類を設定した。筆記作業は平仮名と片仮名をランダムに並べた40字の文字列を横書きし、タブレット作業は一桁足し算を60秒間解くものとした。

計測項目は、使用感調査を4つの項目（書きやすさ/操作のしやすさ、見やすさ、作業のしやすさ、身体疲労感）で行った。この中の“作業のしやすさ”は、他の“書きやすさ/操作のしやすさ”と“見やすさ”を総合的に考慮した上で答えてさせている。また、使用感調査は7段階（非常に悪い、とても悪い、やや悪い、どちらでもない、やや良い、とても良い、非常に良い）で評価するものとし、被験者には条件ごとに筆記で回答させた。解析では7段階の評価を-3～+3のポイントに置換した。そして各姿勢の作業後に、傾斜角5条件を作業のしやすさ順管に並び替えてもらい、解析では-2～+2の評点に置換した。加えて作業中の姿勢を記録するために、天井のビデオカメラ（SONY HDR-CX670）を使用した。被験者は九州産業大学延築都市工学部の学生11名（男性7名、女性4名、平均年齢21.5歳、平均身長166.7cm）を対象とした。

◆手順

まず、被験者から書面にて実験参加の同意を得た。次に、ある着座姿勢と傾斜角の条件で筆記作業を実施させ、その使用感と作業性を評価させた。これをすべての着座姿勢で行い、15条件が終了するまで繰り返した。続いて、1回条件でタブレット作業を実施させた。条件の提示順序は、いずれかひとつの着座姿勢において5種類の傾斜角すべてをランダムに提示したのちに、他の着座姿勢に変更して同様繰り返す、順序とした。

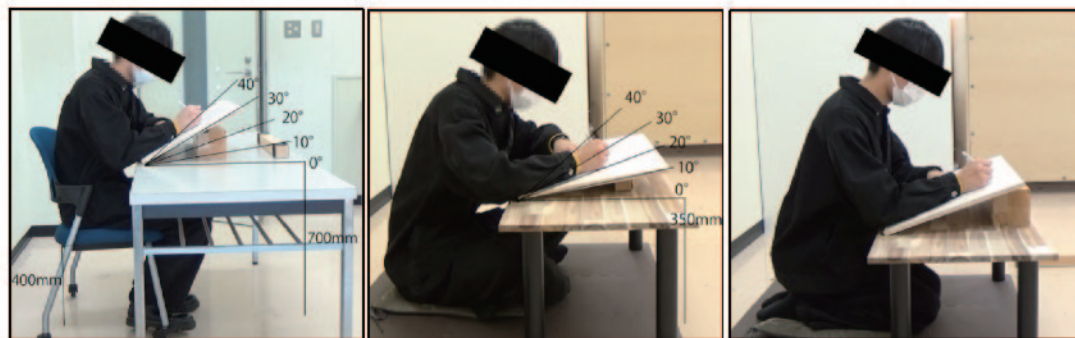


図1 実験の様子



4. 結果

4.1 筆記作業について

図2に椅子座、図3に胡座、図4に正座の作業のしやすい順に並べた調査で得られた各評価の個数と平均値を示す。この結果から、椅子座と正座は16°が良好となり、作業性向上の適正範囲は10°～20°であることが示唆された。胡座については、20°が良好となり、適正範囲は10°～30°であることが示唆された。

作業中の姿勢を記録した結果は、どの着座姿勢においても、傾斜角が大きくなるほど姿勢が起きる傾向にあった。着座姿勢別で比較してみると、椅子座と胡座は似たような体幹角度をしているが、正座の体幹角度はやや小さく前傾姿勢であった(図5)。

4.2 タブレット作業について

図6に椅子座、図7に胡座、図8に正座の作業のしやすい順に並べた調査で得られた各評価の個数と平均値を示す。この結果から、椅子座と胡座は、30°が良好となり、作業性向上の適正範囲は20°～40°であることが示唆された。正座については、20°が良好となり、適正範囲は10°～30°であることが示唆された。

作業中の姿勢を記録した結果は、筆記作業と同様にどの着座姿勢においても、傾斜角が大きくなるほど姿勢が起きる傾向にあった。着座姿勢別で比較してみると、どの姿勢も大きな差は見られなかった。他方、筆記作業との比較をすると、タブレット作業の方が、全体的に姿勢が起きていた(図9)。

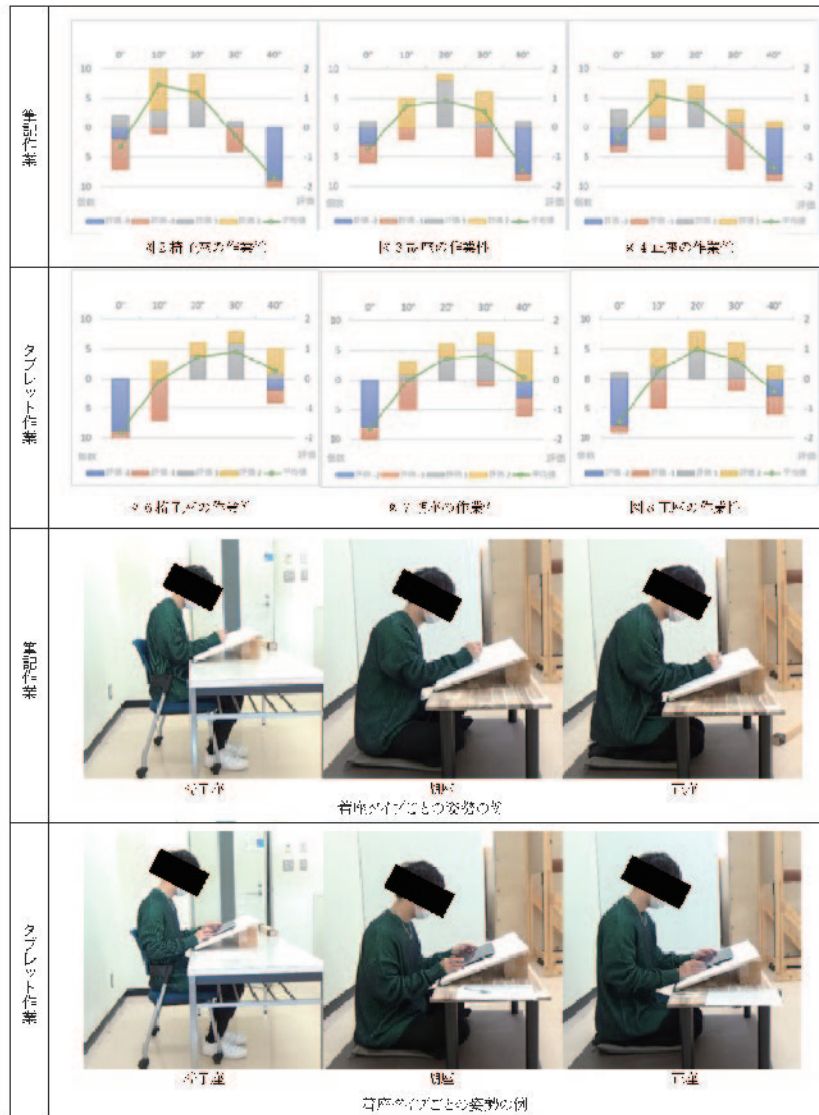
5. 考察

筆記作業の特徴として作業中の姿勢が前傾になっていることが挙げられる。特に傾斜角が0°～20°の条件の背に多く見られた。また椅子座と胡座に差が生じ、椅子座は10°～20°が許容範囲に対し、胡座は30°まで拡大していた。その考察を以下で述べる。まず、着座姿勢の特徴が影響していると考えた。胡座は椅子座に比べて座面を広く取れるため安定感が増し、急な角度(30°)でも問題なく作業を行うことができ良好な評価を得ることが、次に、姿勢の自由度、特に背骨の自由度が影響していると考えた。椅子座は背もたれがあるため後傾しにくく、正座は前のめりになりやすい。一方で、正座は背もたれがなく後傾でき、前のめりになりすぎない。そのため、天板の傾斜角に合わせて身体を後傾させることで、適切な距離を取ることができる。よって、着座姿勢や姿勢の自由度が作業性に影響を与え、胡座は10°～30°まで対応できたと考える。

タブレット作業の特徴は、極端に急な角度(40°)を除き、傾斜角が大きい方が作業性や使用感の評価が高くなることである。筆記作業と比較して小さな力で操作ができるため、天板に体重をかける必要が薄く傾斜角の許容範囲が拡大したと考えられる。ただし正座では、椅子座や胡座に比べて被験者の一線が高く、作業面との距離が聞き前傾姿勢となる。身体を安定させるべく天板の体重をかけるため、体重をかけやすいとされる20°が良好となったと考えられる。

6. 参考文献

1)山口穂高他,子どもと親した家庭用家具(学習机・椅子)の設計指針に関する研究,岐阜県生活技術研究所研究報告, No.18, pp34-37, 2016



## ■学生のコメント

## 「学内におけるコンクリート劣化調査と汚れムラに関する考察」 19UC053 本岡 翔

卒業研究の決め手となったのは応用ゼミナールの授業の中で「コンクリートの劣化」について学習したことです。コンクリートの劣化を調査することで本学のメンテナンスに繋がると思い研究に取り組みました。

近年、わが国では高度経済成長期に集中的に建設されたインフラの老朽化が懸念されています。コンクリート構造物は経時的に劣化していくため、定期点検の結果から現状把握、将来の状態予測、その後の対策へと繋げることによって、適切な維持管理が可能となります。そこで、主に目視調査により学内コンクリートの劣化発生要因・傾向を考察し、学内劣化調査データベースを作成することを目的としました。

学内のコンクリート劣化を目視で確認したうえで、多数ある中の特に劣化の損傷が大きい50箇所を調査したところ、50箇所中2箇所は早急に補修が必要と判断しましたが、本学は補修されている箇所も多く、全体的に見て健全であると判断しました。また、劣化調査の際に学内に数箇所、フェンス下のコンクリート表面に白色と黒色の汚れのムラがあることを発見しました。この発生メカニズムを推定するために成分分析を行った結果、フェンスの錆止めが関係していることが裏付けられました。すなわち、フェンス下の汚れのムラはフェンスの錆止めに含まれる亜鉛の作用によるものと推察しました。

研究を進めるにあたって多くの困難はありましたが、松尾栄治教授や飯田真生先生のご指導と助言のおかげで多くの知識を得ることができました。また、研究室の仲間の協力もあり楽しく研究を進めることができ、とても充実した研究生活を送ることができました。私はこれから土木分野ではなく建築分野に進みますが、この研究で学んだことを将来に活かしたいと思います。

## ■指導教員のコメント

松尾 栄治

土木インフラの維持管理コストは今後増加の一途をたどることが予測されており、大きな社会問題となっています。土木構造物の主要材料の一つであるコンクリートについても、最近では経年劣化のメカニズムが飛躍的に明らかになるとともに、多種多様な対策工法が開発されています。しかしながら、劣化の原因判定は極めて専門的で難易度が高く、特に概観から推定する段階においては専門家でも意見が分かれることが多々あります。都市デザイン工学科を卒業して土木分野に就職する諸君にとっては、コンクリート構造物の劣化に取り組まなくてはならない場面は必ず増えるだろうという思いから、応用ゼミナール（3年生・必修）という実習科目の中で、学内のコンクリートについて簡単な調査をすることを始めました。これが本岡君の卒業研究のきっかけになります。学内という限られた範囲で、しかも、今回は手の届く範囲を中心に調査を行いました。調査自体はとても勉強になるのですが、それに終始してしまうと研究ではなく単なる「業務」になってしまいます。研究という側面を持たせるために、調査から派生する形で、劣化メカニズムがまだ明らかになっていない「コンクリート表面の汚れのムラ」について、その発生メカニズムを推定することにしました。本岡君は自主的に成分分析や結果の考察を行い、積極的に取り組んでくれたと高く評価しています。就職先は土木分野ではなく建築分野になりますが、コンクリートを使用する点は共通で、しかも今回の学内調査では建築構造物が対象でしたので、卒業研究で触れた知識がきっと将来の役に立ってくれるものと思います。期待しています！



## 学内におけるコンクリート劣化調査と汚れムラに関する考察

19UC053 本岡 翔

### 1. はじめに

近年、わが国では高度経済成長期に集中的に建設されたインフラの老朽化が懸念されている。コンクリート構造物は経時的に劣化していくため、定期点検の結果から現状把握、将来の状態予測、その後の対策へと繋げることによって、適切な維持管理が可能となる。そのような観点から、九州産業大学内のコンクリート構造物に対して劣化調査を行った。

本研究では、主に目視調査により、表-1の項目に若目して学内コンクリートの劣化発生要因・傾向を考察し、学内劣化調査データベースを作成することを目的とした。また、事例調査として、リバウンドハンマー試験、鉄筋探査機試験も行った。ここでは学内劣化調査と汚れムラに関するメカニズムの推定を記載する。

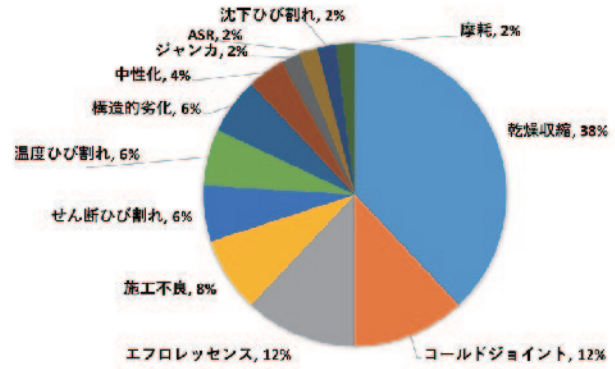


図-1 劣化要因の分類

表-1 劣化項目の分類

劣化項目	劣化の種類
初期欠陥	豆振、コールドジョイント、内部欠陥、砂すり、表面気泡
経年劣化	ひび割れ・浮き・剥離、体積変化・クラック、錆、磨耗、エフロレッセンス、変色
構造的劣化	曲げ・せん断ひび割れ、たわみ、変形、振動

### 2. 調査結果

#### (1) 全体的な傾向

学内コンクリート劣化調査を目視で確認したうえで、多数ある中の特に劣化の損傷が大きい50箇所を調査した。対象として、打放しコンクリートあるいは樹脂が透明でコンクリートの状態が確認できる箇所とした。その結果を図-1に示す。今回の調査で最も多い劣化項目は、38%で乾燥収縮である。次が12%でコールドジョイントおよびエフロレッセンスであり、8%の施工不良と続く。学内の代表的な劣化である乾燥収縮ひび割れを写真-1に示す。このような乾燥収縮が学内に多いことが判明した。

#### (2) 補修の要否

調査の結果、早急に補修が必要な箇所が4%、経過観察箇所が4%、予防保全箇所が2%、補修必要なし

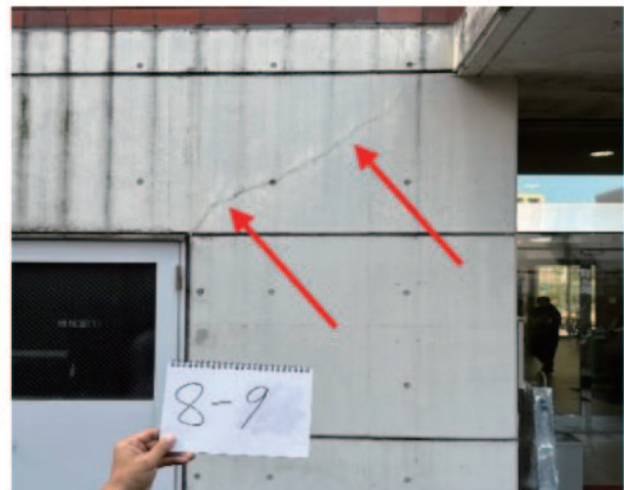


写真-1 典型的な乾燥収縮によるひび割れ

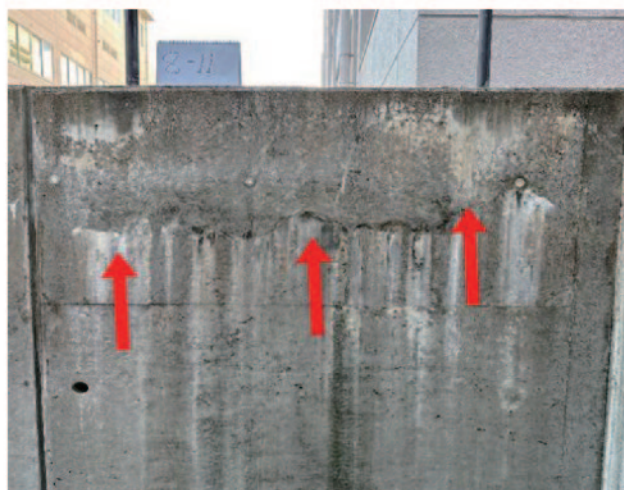


写真-2 早急に補修を要する箇所



が90%であった。早急に補修が必要な箇所の例を写真-2に示す。これはコールドジョイントに起因したひび割れとエフロレッセンスの複合劣化と判断した。早急に補修が必要な理由として、打音検査をした際に空洞部が大きく、崩壊すると第三者被害の危険性があると判断したためである。全体的には深刻な劣化がないことを確認することができた。

### 3. 汚れに関する劣化メカニズムの推定

学内の数箇所にフェンス下のコンクリートに汚れのムラがあることを確認した(写真-3)。黒色は雨による汚れで、白色は雨によりフェンスの塗装の成分の一部が流れてフェンス支柱下のみ白色に変わっていると推定した。この推定メカニズムを確認するために表面の微粉を壁面の白い箇所から採取し、X線分析と卓上SEMによる表面元素分析を行った。その結果、図-3よりCaCO<sub>3</sub>が主成分のエフロレッセンスであることがわかった。また、図-4~5よりZnを含有していることから、フェンスの錆止めが関係していることが裏付けられた。すなわち、フェンスには防錆として亜鉛メッキが塗装されており、亜鉛には抗菌性や殺菌作用、消臭作用がある。したがって、フェンス支柱下の色落ちは雨で防錆が落ちて亜鉛が流失し、その効果により直下が除菌された。対照的に黒い部分は雨の影響で真菌類の死骸が炭化し黒い汚れとなって付着していると推察した。

### 4. まとめ

- (1) 学内劣化調査のデータベースを作成した。
- (2) 九州産業大学は補修されている箇所も多く、全体的に見て健全であると判断した。
- (3) 新しい劣化のメカニズムを提案した。すなわち、フェンス下の汚れのムラは亜鉛の作用によるものと推察する。

#### 【参考文献】

- 1) 水田ら：リスクを考慮した劣化構造物の維持管理方法の提案，コンクリート工学年次論文集，Vol.36，No.2，pp.1375-1380，2014
- 2) 農林水産省HP：コンクリートの主要な劣化と特徴，劣化要因推定方法 <https://www.maff.go.jp>



写真-3 フェンス下の汚れムラの例

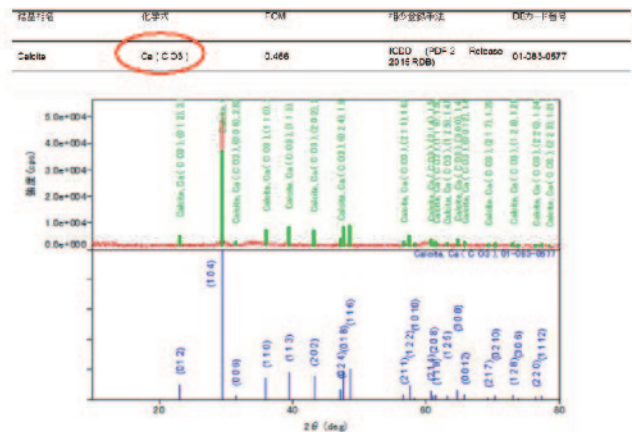


図-3 X線 miniflex600

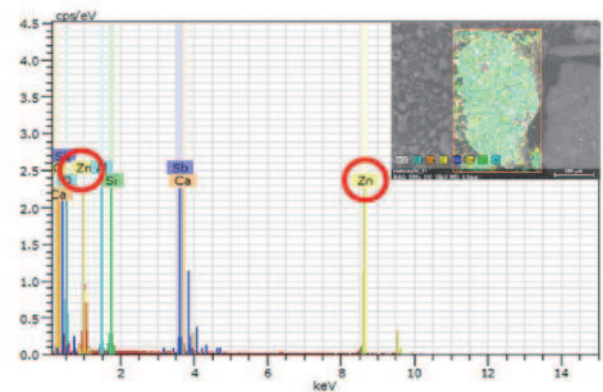


図-4 表面元素分析 (卓上SEM)

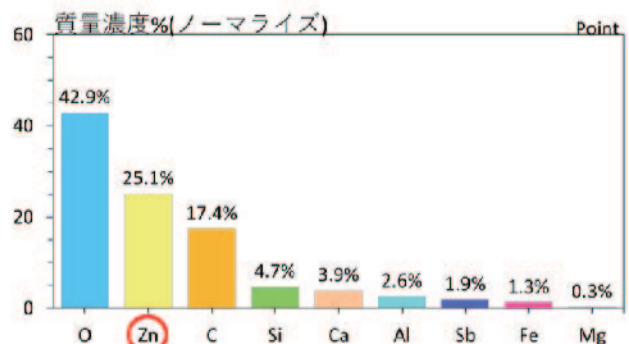


図-5 表面元素分析 (卓上SEM)



# 来たれ、高校生！

グランプリ 12 万円相当

## ■ 建築都市工学部全国高等学校プロジェクトコンテストについて

九州産業大学建築都市工学部は、インテリアから住宅、建築、そして都市、地球環境まで、人間の住まう環境を総合的に学べる全国でも珍しい建築系の学部です。

九州発「プロコン」は、九州産業大学建築都市工学部が、私たちの住まい、地域、そして国土をよりよくするために、将来に向けて考えるべきテーマなどを毎年掲げ、全国の高校生と一緒に考えようとするコンテスト形式のイベントです。〈住居・インテリア〉の領域から〈建築〉の領域、さらに〈都市デザイン〉の領域まで幅広い内容を扱います。設計部門とアイデア部門があり、高校生であればどなたでも応募・参加できます。

応募作品の中から一次審査を通過した入選者には、秋の学園祭の時期に本学に来ていただき、最終発表会でプレゼンの上、各賞の入賞者を決定します。

第5回の課題は、「緑を活かした「暮らし」」に関する課題です。高等学校での日頃の学習やクラブ活動などの成果を活かして、ぜひともグランプリを目指して「プロコン」に挑戦してください。高校生の皆さんのフレッシュなアイデアをお待ちしています。

## ■ 課題について

2022年 第5回課題

### 緑を活かした「暮らし」の提案

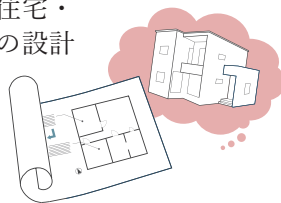
緑のもつ様々な機能を積極的に利用して、「安らぎや健康の提供」、「地域の魅力づくり」、「気候変動の緩和」、「防災や減災」などといった課題にアプローチしていこうとする考え方が住まいづくりやまちづくりにおいて広がっています。

このような時代の潮流を踏まえて、港湾や道路などの社会基盤施設から、住宅や商業施設などの建築物、さらにはインテリアに至るまで、緑を活かした「暮らし」に関する新しいアイデアや実現可能な具体的な案を求めます。

## ■ 部門について ～設計を学んでいる人も、学んでいない人も、自由にどちらの部門にも応募できます～

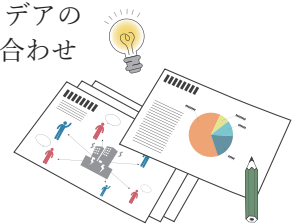
### a 設計部門

具体的なまち・建築・住宅・  
インテリア・装置などの設計  
(設計図面を提出)



### b アイデア部門

研究調査に基づいたアイデアの  
提案 (図表と文書を組み合わせた  
提案書を提出)

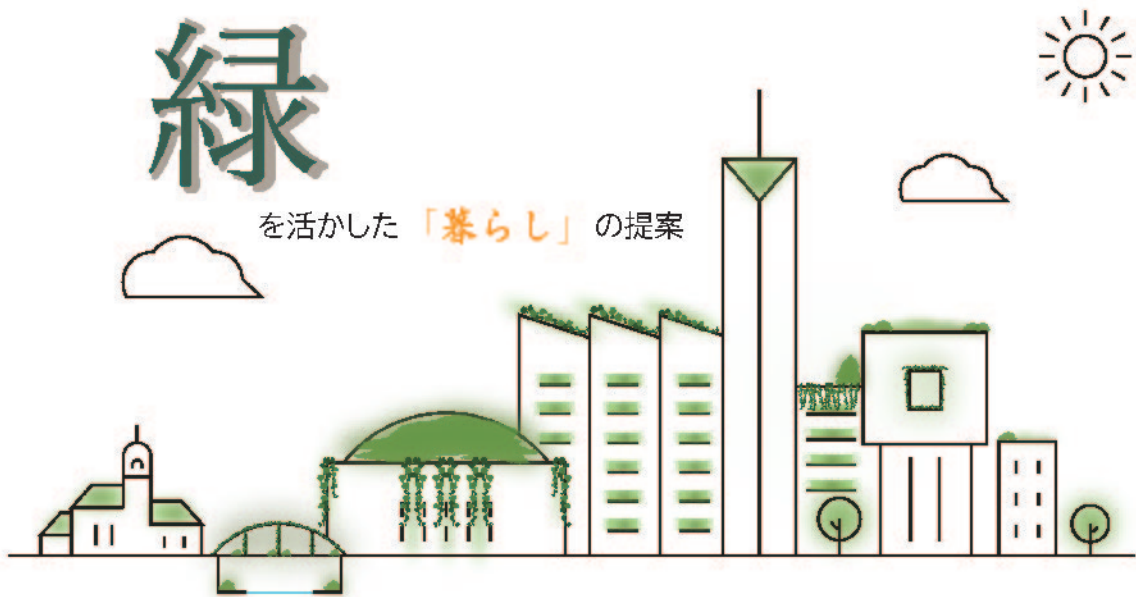


\* 9月29日に一次審査を行い、通過した6都道府県8高等学校の9名が最終発表及び審査会に参加しました。結果、金賞1点(6万円相当)、銀賞2点(3万円相当)、銅賞4点(1万円相当)、奨励賞2点(5千円相当)が決定しました。



# 緑

を活かした「暮らし」の提案



## 九州産業大学第5回建築都市工学部 全国高等学校プロジェクトコンテスト

提出締切：2022年9月1日（消印有効）／一次審査結果発表：9月29日／グランプリ賞品12万円

九産大  
プロコン  
2022

### 課題：緑を活かした「暮らし」の提案

緑のもつ様々な機能を積極的に活用して「安らぎや健康の提供」「地域の魅力づくり」「気候変動の緩和」「防災や減災」などといった課題にアプローチしていこうとする考え方が住まいづくりやまちづくりにおいて広がっています。このような時代の潮流を踏まえて、港湾や道路などの社会基盤施設から、住宅や商業施設などの建築物、さらにはインテリアに至るまで、緑を活かした「暮らし」に関する新しいアイデアや実現可能な具体的な案を求めます。

小さなことでも、大きなことでも、みんなのアイデアで私たちの住環境をより良くしましょう。

（住居・インテリア）（建築）（地域・コミュニティ）の領域を対象にどの部分でも、どのような側面からでも結構です。

日本国内の高等学校に在籍する生徒であれば、どなたでも参加できます。（高等専門学校は除く）。

図面等を用いて設計提案する「設計部門」と、スケッチやダイアグラムでアイデアを表現する「アイデア部門」のどちらかを選択し、挑戦してください。多くの高校生のフレッシュなアイデアをお待ちしています。

応募件数に対する一次審査通過者を九州産業大学（福岡市）に招待し、最終プレゼンテーションの結果、グランプリ以下の各賞を決定します。

\*裏面に応募要項



## 審査委員長 都市デザイン工学科 教授 内田 泰三

## 総評

緑には、物質生産、保健休養、環境学習、文化・芸術への寄与、防災・減災、気候緩和など様々な機能があります。そして、このような多面的機能を「まちづくり」、「住まいづくり」に活用していこうとする考え方が、世界中で主流化しつつあります。このような潮流を踏まえて、今年のプロジェクトコンテストでは、道路・港湾・街路などの社会基盤施設から、住宅・オフィス・病院などの建築物、さらにはこれらのインテリアに至るまで、緑を活かした「暮らし」に関する新しい提案について、募集を行いました。

その結果、設計部門69作品、アイデア部門10作品、計79作品の応募がありました。これは、昨年度と比較して、各部門ともに約2倍に増加しており、応募対象者の高校生にとって、取り組みやすいテーマだったのかもしれない。見方をかえれば、高校生の皆さんが、暮らしの中の緑の重要性について、常日頃からつよく意識している証だったと考えています。

応募作品の内容をみてみると、両部門あわせて、インテリアを含めて建物についての提案、屋外空間・街路についての提案、そして両者を横断する提案に大別できました。これらの作品については、審査委員会（2022年9月15日（木）開催）にて厳正に審査が行われ、設計部門8作品、アイデア部門1作品、計9作品の入選作品が選出されました。2022年11月5日（土）開催の最終審査会では、グランプリに該当する作品こそ選出されませんでした。金賞1点、銀賞2点、銅賞4点、奨励賞2点が選出されるなど、いずれの作品も土木・建築・インテリアの領域を扱う本コンテストに相応しいものでした。

持続可能性の確保には、環境危機の克服が不可欠で、それにあたっては、多様な主体の参加・協働によって解決の道を探ることが求められています。上記作品とそれらのプレゼンをみると、まさに君たち若者世代がこれからの主役だと感じざるを得ませんでした。とっても頼もしく思うと同時に、有意義な時間を君たちと共有できたことに感謝しております。

## 金賞

東京工業大学附属科学技術高等学校 内山 權「設計部門」

## 「自然軸のくらし」

バイオフィリックの観点から、自然と人工物が融合した住環境を提案するものでした。本作品では、設定する時間軸（短期（24時間）・中期（12ヶ月）・長期（5～20年））の中で自然と人との関わり方をデザインし、それを住環境に落とし込むことに成功しています。また、自然を受け入れることを表現した円弧状の平面計画と庭との関係性を密にするための断面計画が、詳細に図面上に表現されている点も高評価のポイントでした。欲を言えば、提案する住環境で完結するのではなく、それを取り巻く住宅街や近隣公園との関係性にまで考察が加わると、「くらし」がもっとみえた作品になったかと思われます。加えて、住宅にはパッシブデザインの要素があると、

より今回のテーマに沿った作品になったと思われませんが、本作品は、時間の流れとそこでのくらしを想像する上で金賞に値する素晴らしい提案でした。

**銀賞**

東京工業大学附属科学技術高等学校 佐藤 亜紀「設計部門」

### 「小さな森ギフト」

暮らしのなかで、人々がもつ背景は千差万別です。通勤者や通学者であったり、観光客や住人であったり、元気な人やそうでない人、一人でいたい人や会話を楽しみたい人など様々でしょう。本作品は、こういった多種多様な人々に対応する配慮（みどりというギフト）になっている視点がとても面白いといえます。その配慮を効果的に発揮させるためか、一つのギフトを小さくしていること、地域に複数分散させていることも評価できる点でした。都市の中心部において、緑を導入する上での土地の確保は決して容易ではありませんが、作品が示すスケール感はこのハードルを下げられるように思われます。スケッチもよくできており、ギフトを贈ることによる効果が、人々の幸福感としてよく伝わってきました。一方で、緑を扱う以上、その維持管理についてや、本作品でいえば手足湯における水管理などのアイデアについても、是非触れてほしかったところでした。

**銀賞**

兵庫県立尼崎工業高等学校 中島 旺「設計部門」

### 「竹取緑化物語り」

竹林の放置と、これに伴う竹林拡大、土砂災害、生物多様性の劣化などといった問題に対して、竹の積極的な利用によって解決を図ろうとする作品でした。具体的には、地域の竹を、地域資源の一つとして、地域のバス停という空間の材として全面的に活用することで、地域独自の景観を発信するとともに、地域の活性化につなげていこうとする、顕在化する昨今の社会・環境問題に対する提案になっています。本作品は、内装も含めて、全体としてのデザイン性も高く評価でき、竹ならではの描写に成功しています。スケール感もよく表現できている反面、耐久性や維持管理のあり方、竹の種類などについてもアイデアが組み込んであれば、よりリアリティ感あふれる作品になったと思われました。





銅賞

三重県立伊賀白鳳高等学校 小野寺 芽衣「設計部門」

### 「経年変化を楽しみ活かす家」

建築の造形としては、完成度の高い提案でした。伊勢神宮の式年遷宮をヒントに、伐採・製材された後の木材の経年変化に注目した点は、新しい視点といえます。木材の経年変化を理解するために、実験した点にも好感を持ちました。住まい手の変化（子どもの成長など）と木の変化（植木の成長・木材の経年変化）との関係などが見えてくるとさらに良い作品になったと思われました。

銅賞

富山県立富山工業高等学校 和田 龍之介「設計部門」

### 「緑のカーテンと花のじゅうたん。」

自身の母校に日ごろから感じている課題に対して、緑のカーテンで改善を試みる提案でした。一般的な固定型の緑のカーテンではなく、車輪と巻上機を利用した可動式の緑のカーテンは、季節毎の環境に対応できると思われ、秀逸な仕組みでした。視覚的効果や温度低減効果だけでなく、タイムカプセル保管庫や地域住民に開放された花のじゅうたん等のアイデアも散りばめられており、よく考えられた作品となっていました。

銅賞

三重県立四日市工業高等学校 川村 羽叶「設計部門」

### 「徳田駅発数日農家」

農家の後継者問題と里地・里山保全といった社会的課題に対して、「農業体験」という観点からアプローチした作品です。鉄道と融合したユニークな建築造形の中に、現実的な運営システムが設定されており、ハードとソフトの提案がバランスよくとれている点が高く評価されました。とくに、農家体験のステップ（コース）が初級、中級、上級ときめ細やかに設定されている点はとても面白い発想でした。

銅賞

広島市立広島工業高等学校 石井 桜雫「アイデア部門」

### 「ギターの胴体に耳をあてた事がありますか？」

様々な可能性を持つ森に入ること、そこで森の音風景（soundscape）を体感するというアイデアは、秀逸かつ魅力的で、スケッチや図面、そして言葉も美しいとても詩的な作品でした。森に入りたくなったときに、キットを持参し、その場で組立てるという想定もリアリティを感じ

じさせられるものでした。キットのスケール感や素材感、内部インテリアの作り込みにも成功しています。森における音の発生の仕方・音源の位置・音の種類・音の取込み方にもう少し工夫があると、より豊かな音風景が想像できる作品になったと思われました。

**奨励賞** 三重県立伊勢工業高等学校 西村 桜「設計部門」

---

### 「森の循環～私の町の三角州～」

本作品では、川や海と山との繋がりや、自然の有する水質浄化機能に着目し、河口域の水質を向上させるための中州の造成とそれに付帯する建築が提案されています。中州の周囲には水質浄化を狙った樹林帯や海藻類が生育する場が設けられているほか、中州内には防災用のシェルターや人が集う造船所も計画されるなど、本作品には多くのアイデアが詰め込まれている点に興味深い反面、全体としてのまとまりにもう少し工夫があればより充実した作品になったと思われました。

**奨励賞** 岡山県立岡山工業高等学校 福原 楓「設計部門」

---

### 「緑と飽和する商店街」

本作品は、地域の衰退した商店街に対して、今ある課題を整理し、その活性化に向かって緑を用いて解決を図ろうとするものでした。緑によって、地域に一体感を持たせようとする発想はいかにもありそうでない、秀逸かつ現実的な作品といえます。しかし、対象地域や商店街のスケール感や距離感、また、個々の店舗に関する情報がなく、商店街全体としての魅力が十分に伝わってこなかったのが残念でした。



金賞 | 「自然軸のくらし」 内山 權



自然軸のくらし

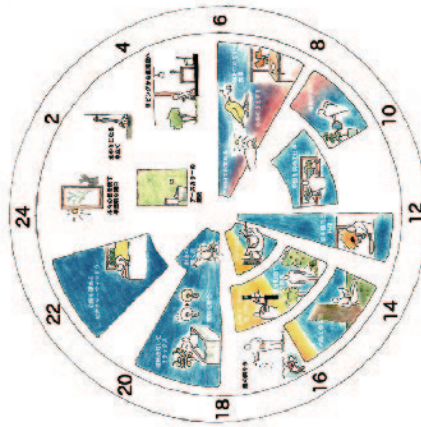
計画地

この計画地は、都市計画で定められた用途地域である。周囲には住宅地や商業地があり、交通の便が良い。また、緑地や公園も豊富にある。計画地は、自然の恵みを最大限に活用し、快適な生活環境を実現することを目的としている。



植栽計画

植栽計画は、自然環境を豊かにし、快適な生活環境を実現するために不可欠な要素である。本計画では、四季を通じて楽しめる多様な樹種を配置し、緑の豊かさを確保する。また、自然の恵みを最大限に活用し、快適な生活環境を実現することを目的としている。



12ヶ月の軸：循環

この図は、12ヶ月の生活リズムを示している。各月に異なる活動やイベントが計画されており、生活の循環を促している。また、自然の恵みを最大限に活用し、快適な生活環境を実現することを目的としている。



建築物のイメージ

建築物のイメージは、自然の恵みを最大限に活用し、快適な生活環境を実現することを目的としている。また、自然の恵みを最大限に活用し、快適な生活環境を実現することを目的としている。



24時間の軸：循環

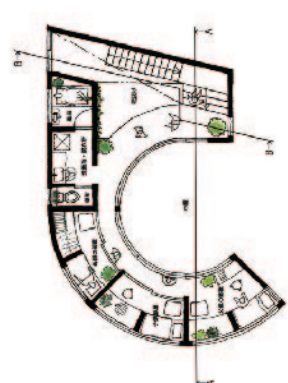
この図は、24時間の生活リズムを示している。各時間帯に異なる活動やイベントが計画されており、生活の循環を促している。また、自然の恵みを最大限に活用し、快適な生活環境を実現することを目的としている。



年月の軸：成長

この図は、年月ごとの生活リズムを示している。各月に異なる活動やイベントが計画されており、生活の循環を促している。また、自然の恵みを最大限に活用し、快適な生活環境を実現することを目的としている。

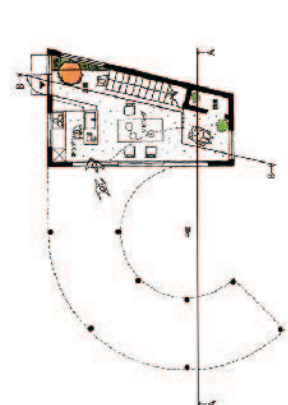
自然には、水の手回り、草木の生い茂り、小鳥のさえずりなど、人工物にはみえない自然の恵みがある。こうした自然の恵みを最大限に活用し、快適な生活環境を実現することを目的としている。また、自然の恵みを最大限に活用し、快適な生活環境を実現することを目的としている。



この図は、1階の平面図を示している。建物の配置や緑地の配置が示されており、自然の恵みを最大限に活用し、快適な生活環境を実現することを目的としている。



この図は、2階の平面図を示している。建物の配置や緑地の配置が示されており、自然の恵みを最大限に活用し、快適な生活環境を実現することを目的としている。



この図は、3階の平面図を示している。建物の配置や緑地の配置が示されており、自然の恵みを最大限に活用し、快適な生活環境を実現することを目的としている。



この図は、4階の平面図を示している。建物の配置や緑地の配置が示されており、自然の恵みを最大限に活用し、快適な生活環境を実現することを目的としている。



銀賞 | 「小さな森ギフト」佐藤 亜紀

# 小さな森ギフト

まちでの暮らしを豊かにするために、健康であること、コミュニケーションを取ること、まちを知ることで、その暮らしを好きになることなどが大切だと考える。また、まちのなかには緑があることで、日々の疲れを解消し、人を癒やすことができれば、暮らしをさらに豊かにするのにも役立つ。暮らしが豊かになれば、まちの魅力は、人を惹きつけていくだろう。そこで、緑を拓いて暮らしを豊かにし、まちを案内して人と人をつなげる、小さな森のギフトを、まちに届けたい。

## ギフトの仕掛け

—小さな森がギフトになる理由—

- 1. 植木鉢**  
植木鉢のようなくわいっと、小さい森のような、ギフトを贈ります。
- 2. 花袋**  
春、秋、冬、それぞれの季節のようには花袋が贈られる。花袋のようなくわいっとを贈ります。
- 3. 手足湯**  
手足湯で、リラクゼーション効果、香り、お風呂の心地よさを引き出す。お風呂の心地よさを引き出す。
- 4. 気化熱**  
暖かい、手足湯の気化熱を利用することで、ギフトの温度を上げる。
- 5. 見え方**  
平面的な部分と立体的な部分が見え隠れすることで、ギフトの温度を上げる。また、見え隠れすることで、ギフトの温度を上げる。

## 誰に、どんなふうに

—贈る人におすゝめの過ごし方—

**E01. 贈る人**

- ・お気に入りの贈り物で、贈ります。
- ・贈る人から贈る。
- ・贈る人から贈る。
- ・贈る人から贈る。

**E02. 送る人**

- ・お風呂で、リラクゼーション効果、香り、お風呂の心地よさを引き出す。
- ・お風呂の心地よさを引き出す。
- ・お風呂の心地よさを引き出す。

**E03. 送る人**

- ・お風呂で、リラクゼーション効果、香り、お風呂の心地よさを引き出す。
- ・お風呂の心地よさを引き出す。
- ・お風呂の心地よさを引き出す。

**E04. 送る人**

- ・お風呂で、リラクゼーション効果、香り、お風呂の心地よさを引き出す。
- ・お風呂の心地よさを引き出す。
- ・お風呂の心地よさを引き出す。

**E05. 送る人**

- ・お風呂で、リラクゼーション効果、香り、お風呂の心地よさを引き出す。
- ・お風呂の心地よさを引き出す。
- ・お風呂の心地よさを引き出す。

## 3つのギフト —小さな森ギフトと周囲—

ギフトには、手足湯がある。贈りと手足湯を組み合わせて3種類のギフトボックスをつくる。

### 1. 「くわいっと」

贈り：植木鉢、花袋、花袋の中に入れておくれ、お風呂の心地よさを上げる。

贈り：植木鉢、花袋、花袋の中に入れておくれ、お風呂の心地よさを上げる。

贈り：植木鉢、花袋、花袋の中に入れておくれ、お風呂の心地よさを上げる。

### 2. 「くわいっと」

贈り：植木鉢、花袋、花袋の中に入れておくれ、お風呂の心地よさを上げる。

贈り：植木鉢、花袋、花袋の中に入れておくれ、お風呂の心地よさを上げる。

贈り：植木鉢、花袋、花袋の中に入れておくれ、お風呂の心地よさを上げる。

### 3. 「くわいっと」

贈り：植木鉢、花袋、花袋の中に入れておくれ、お風呂の心地よさを上げる。

贈り：植木鉢、花袋、花袋の中に入れておくれ、お風呂の心地よさを上げる。

贈り：植木鉢、花袋、花袋の中に入れておくれ、お風呂の心地よさを上げる。

## 配布マップ —それぞれのギフトを贈る場所—

横濱市などから近い地区を重点的に

配布の仕方

- ・配布の仕方
- ・配布の仕方
- ・配布の仕方

新しい発見

- ・新しい発見
- ・新しい発見
- ・新しい発見

人に届ける

- ・人に届ける
- ・人に届ける
- ・人に届ける

自分だけの魔法

- ・自分だけの魔法
- ・自分だけの魔法
- ・自分だけの魔法







銅賞 | 「経年変化を楽しみ活かす家」小野寺 芽衣

経年変化を楽しみ活かす家



この家は、経年変化を楽しむ家として、多岐にわたる用途に活用できることを目指しています。...



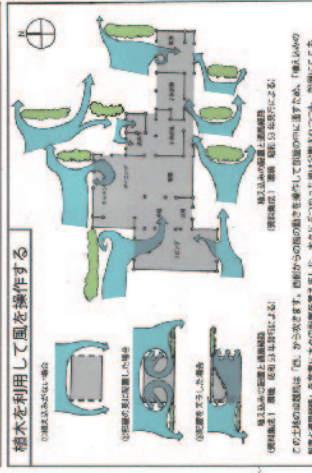
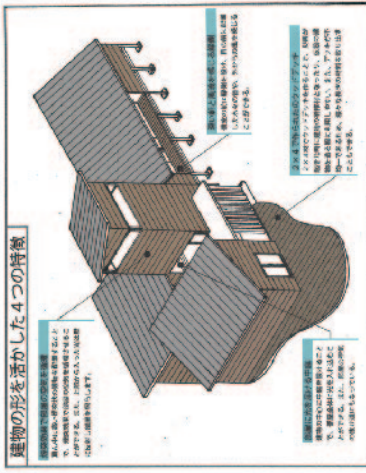
経年変化を楽しむ家として、多岐にわたる用途に活用できることを目指しています。...

経年変化を楽しむ家として、多岐にわたる用途に活用できることを目指しています。...

経年変化を楽しむ家として、多岐にわたる用途に活用できることを目指しています。...

経年変化を楽しむ家として、多岐にわたる用途に活用できることを目指しています。...

経年変化を楽しむ家として、多岐にわたる用途に活用できることを目指しています。...

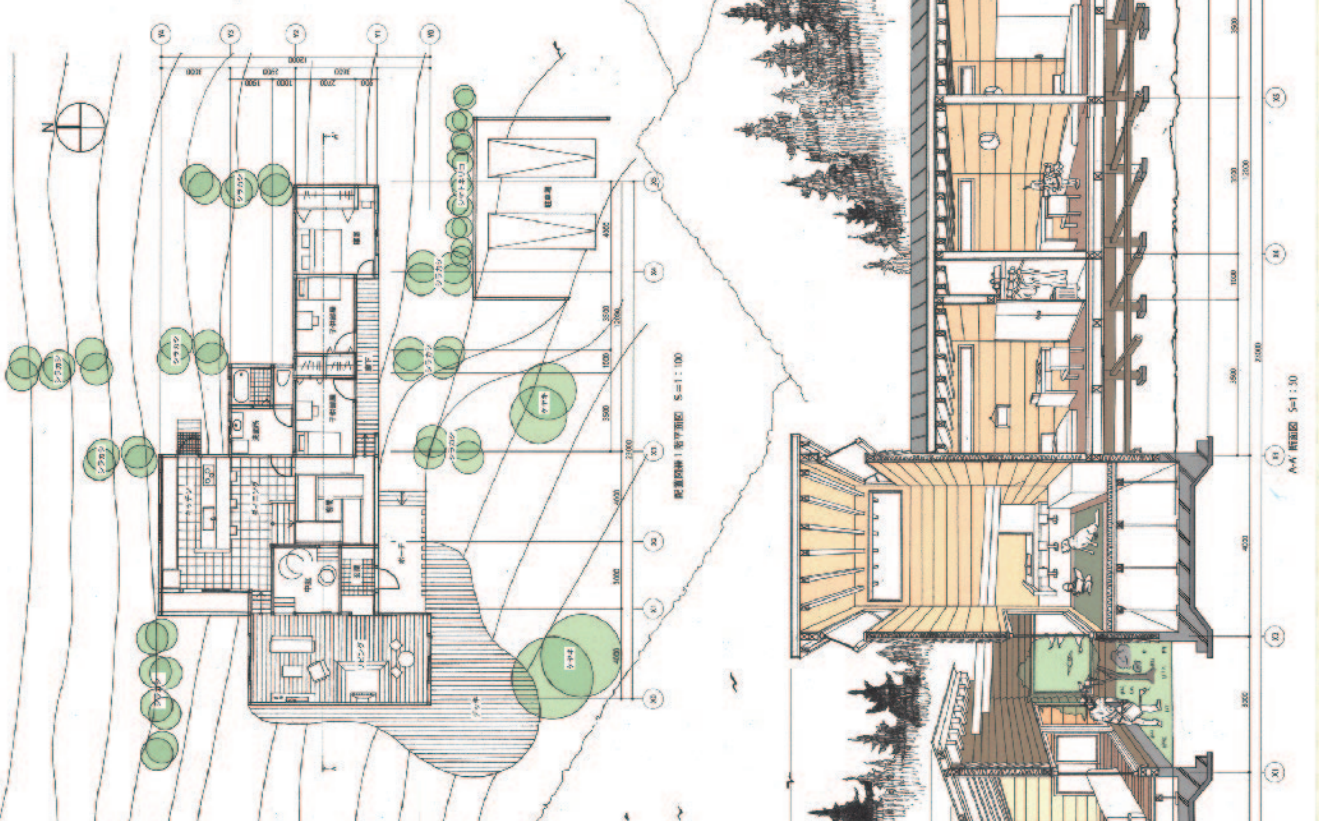


経年変化を楽しむ家として、多岐にわたる用途に活用できることを目指しています。...

経年変化を楽しむ家として、多岐にわたる用途に活用できることを目指しています。...

経年変化を楽しむ家として、多岐にわたる用途に活用できることを目指しています。...

経年変化を楽しむ家として、多岐にわたる用途に活用できることを目指しています。...





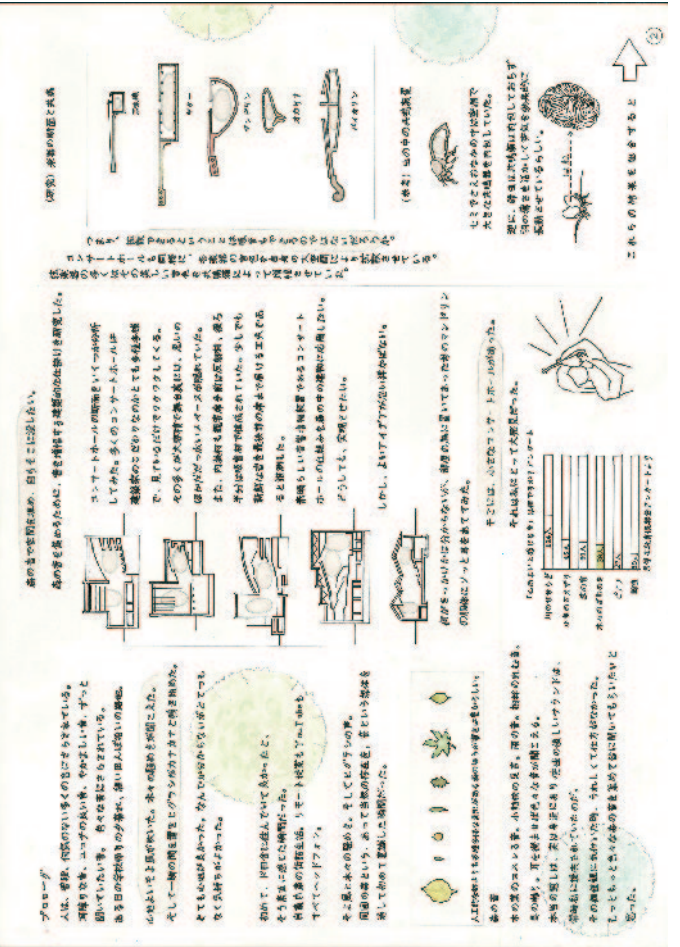
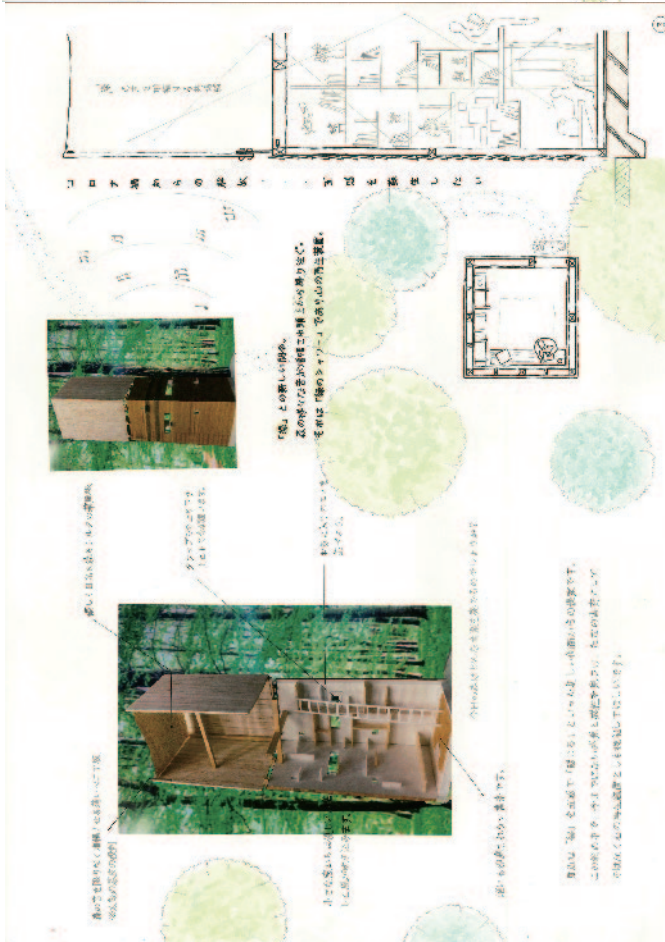
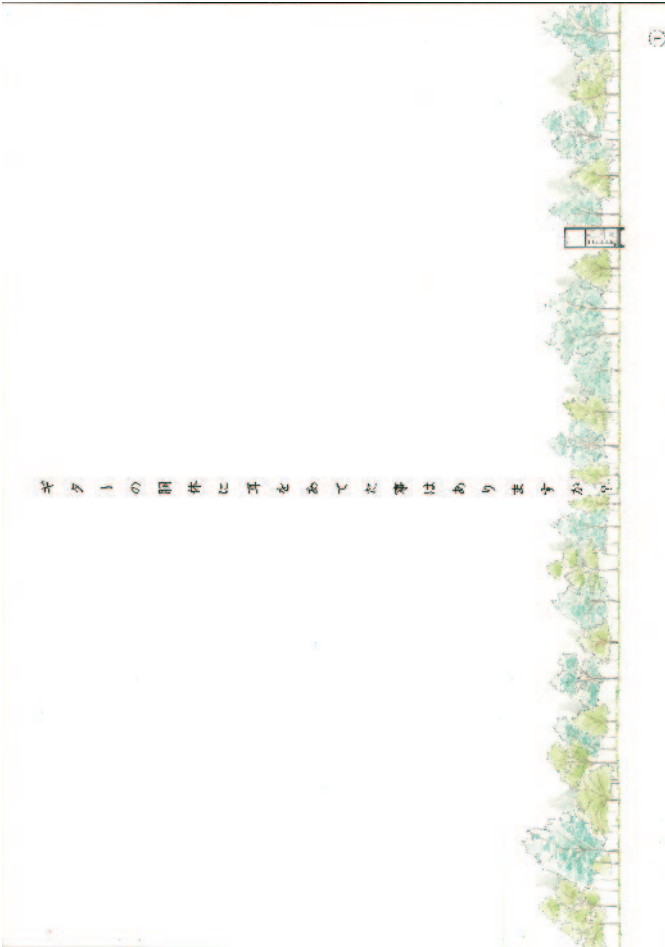






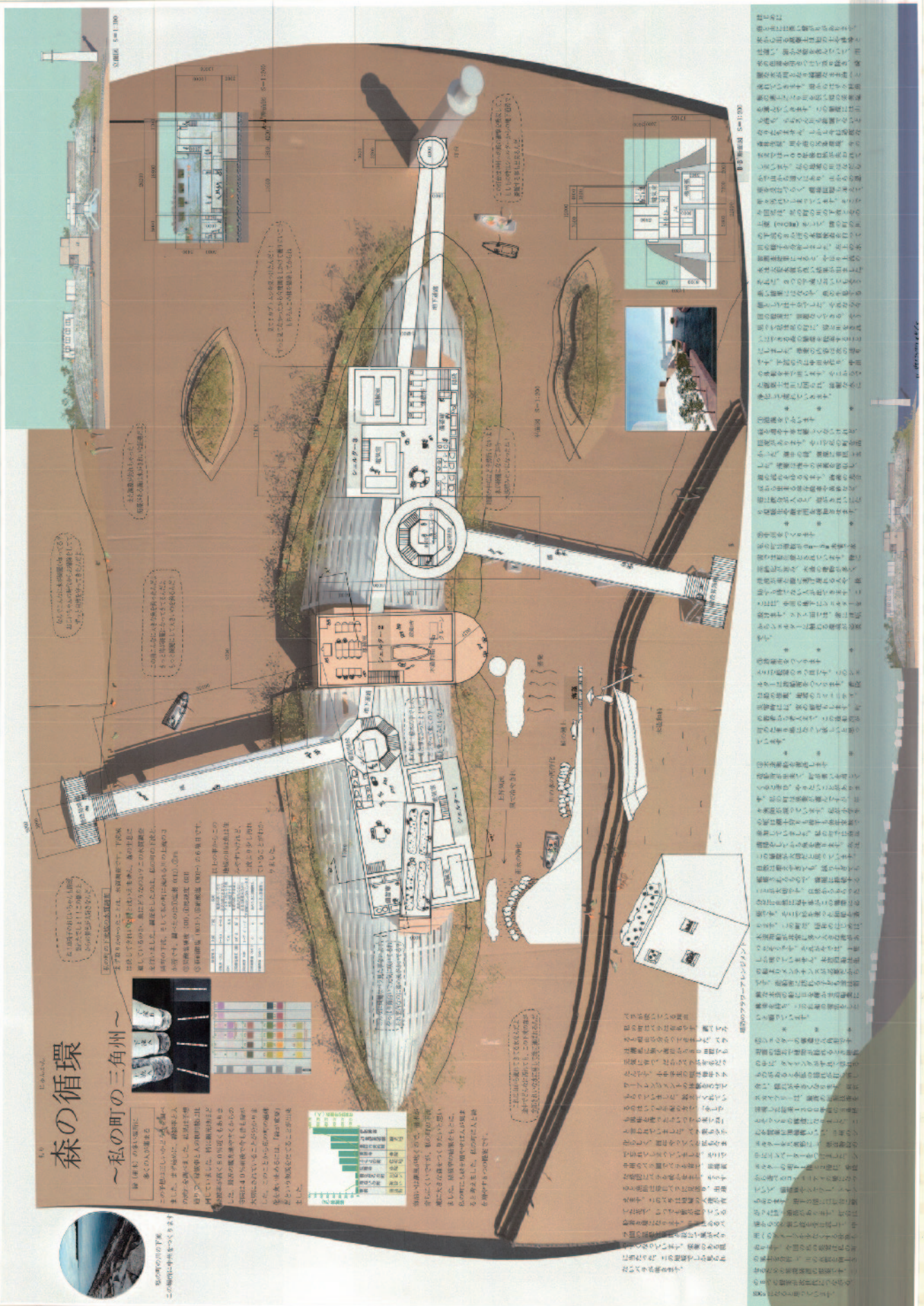


銅賞 | 「ギターの胴体に耳をあてた事はありますか？」 石井 桜華





奨励賞 | 「森の循環～私の町の三角州～」西村 桜



# 森の循環

## ～私の町の三角州～

森の循環とは、自然の循環と人間の循環を結びつけること。自然の循環は、水、土、空気の循環であり、人間の循環は、人々の生活、文化、経済の循環である。この二つの循環を結びつけることで、持続可能な社会を実現することができる。

このプロジェクトは、自然の循環と人間の循環を結びつけることを目的としており、森の循環を実現するための建築設計を行っている。

① 自然の循環  
② 人間の循環  
③ 森の循環



項目	内容
建築設計	建築設計
都市計画	都市計画
環境設計	環境設計
経済設計	経済設計
文化設計	文化設計
社会設計	社会設計
政治設計	政治設計
法律設計	法律設計
教育設計	教育設計
医療設計	医療設計
福祉設計	福祉設計
防災設計	防災設計
交通設計	交通設計
エネルギー設計	エネルギー設計
環境設計	環境設計
経済設計	経済設計
文化設計	文化設計
社会設計	社会設計
政治設計	政治設計
法律設計	法律設計
教育設計	教育設計
医療設計	医療設計
福祉設計	福祉設計
防災設計	防災設計
交通設計	交通設計
エネルギー設計	エネルギー設計

森の循環とは、自然の循環と人間の循環を結びつけること。自然の循環は、水、土、空気の循環であり、人間の循環は、人々の生活、文化、経済の循環である。この二つの循環を結びつけることで、持続可能な社会を実現することができる。

このプロジェクトは、自然の循環と人間の循環を結びつけることを目的としており、森の循環を実現するための建築設計を行っている。

① 自然の循環  
② 人間の循環  
③ 森の循環

このプロジェクトは、自然の循環と人間の循環を結びつけることを目的としており、森の循環を実現するための建築設計を行っている。

① 自然の循環  
② 人間の循環  
③ 森の循環

このプロジェクトは、自然の循環と人間の循環を結びつけることを目的としており、森の循環を実現するための建築設計を行っている。

① 自然の循環  
② 人間の循環  
③ 森の循環





# 教員・学生受賞一覧

## ■建築都市工学部長賞

学生の自主的な諸活動を表彰することで、学生の学習意欲や学力、就職力、技術者としての資質の向上に寄与し、九州産業大学や建築都市工学部(以降、本学部と称する)の発展に寄与することを目的として、建築都市工学部に所属する学生のうち、以下の項目において顕著な成果を上げた個人または団体を表彰するものです。

＜優れた卒業研究への表彰＞

No.	氏名	学科名	受賞業績名
1	太田 理子	建築学科	卒業研究「大学施設におけるエネルギー-消費量とCO2排出量に関する研究」
2	本岡 翔	都市デザイン工学科	卒業研究「学内におけるコンクリート劣化調査と汚れムラに関する考察」

＜本学部が掲げるカリキュラム・ポリシーに関連した自主的、積極的な活動への表彰＞  
 ＜本学部が掲げるディプロマ・ポリシーに関連した能力の獲得に向けた自主的、積極的な活動への表彰＞  
 ＜他学部や学外と連携した活動を通じて、本学部へのプレゼンス向上や発展に寄与した活動への表彰＞

No.	氏名	学科名	受賞業績名
1	鴻江 舞香	建築学科	意志を継ぎ、遺伝子を残す
	田中 元晴		
	原 仁之丞		
	森下 汀菜		
	山口 宗真		
	木村 勇樹		
	北原光輝人		
志賀 桜空			
2	熊本 亮斗		記憶の建築化
3	石原 真依	住居・インテリア学科	地域貢献活動「積み木であかりのワークショップ」の計画と実践
	天本のぞみ		
	岡 侑希		
	小田くらはら		
	古賀 朱莉		
	佐々木恵里		
	高木 朋輝		
	田中 翔惟		
	永井 和奏		
	平岡 祐輝		
元村 俊樹			
レーティタントウイ			
4	柴田 仁	都市デザイン工学科	学生の模範となる顕著な功績

## ■その他 学内外での受賞一覧

No.	受賞日	主催団体など	受賞名	受賞者名	学生教員の別	所属学科	対象テーマ	備考
1	令和5年3月17日	日本建築学会九州支部	日本建築学会九州支部支部長賞	井上 寿朗	学生	建築		
2	令和5年3月10日	日本都市計画学会九州支部	日本都市計画学会九州支部2022年度支部長賞	濱崎 郁也 近藤 龍昇	学生	住居・インテリア	地理情報データを用いた福岡市障がい者グループホームの立地評価	香川研究室
3	令和4年7月9日	日本建築学会	日本建築学会第11回子どもたちのまち・いえワークショップ提案コンペ優秀賞	地域貢献実践ゼミナール(4年生10名)	学生	住居・インテリア	積み木であかりのワークショップ～童話を題材とした読書感想光～	学長賞
4	令和5年2月10日	日本インテリア学会九州支部	2022年度日本インテリア学会九州支部長賞	地域貢献実践ゼミナール(3年生12名)	学生	住居・インテリア	積み木であかりのワークショップ～童話を題材とした読書感想光～	学部長賞
5	令和4年7月18日	九州産業大学基礎教育サポートセンター	第32回学びのコンクール(数学編)優秀賞	杉原 慶恒	学生	住居・インテリア		香川研究室
6	令和4年4月22日	地盤工学会九州支部	地盤工学会九州支部優良学生賞	秋武 重飛	学生	都市デザイン	薬品添加によるフライアッシュの六価クロム溶出抑制効果	
7	令和5年3月4日	土木学会西部支部	土木学会西部支部研究発表会優秀講演賞	佐渡 正治	学生	都市デザイン	要配慮者施設職員の水害に関する認識と課題についての考察	
8	令和5年3月10日	日本都市計画学会九州支部	日本都市計画学会九州支部2022年度支部長賞	佐渡 正治	学生	都市デザイン	要配慮者施設職員の水害に関する認識と課題についての考察	
9	令和5年3月17日	日本コンクリート工学会九州支部	日本コンクリート工学会九州支部支部長賞	柴田 雅生	学生	都市デザイン	福岡ノ場で発生した軽石を用いた軽量モルタルの基礎物性	
10	令和5年1月21日	日本建築家協会	日本建築家協会ゴールデンキューブ賞2020/2023組織部門特別賞	諫見 泰彦	教員	住居・インテリア	アート・サイエンスコミュニケーションと地域貢献に関する踏査および実践研究	
11	令和5年1月22日	奥能登国際芸術祭2023実行委員会	文化庁国際文化芸術発信拠点形成事業「奥能登国際芸術祭2023」出展作品企画採択	諫見 泰彦	教員	住居・インテリア	あかりのありか<のと>	



本年度のオープンキャンパスは、入場制限をしながらではありますが、久しぶりに来場型で開催することができました。2週にわたり開催し、7月17日に176名、7月24日に155名、計241名の高校生や保護者の方にご来場いただきました。本稿では、開催時の様子をご紹介します。

### 1. 学科紹介

学科紹介コーナーでは、分野別の研究室の紹介や(材料・構造、意匠・計画、設備環境系)、受講コースの紹介、卒業生の活躍等についての説明パネルの展示を行いました。来場者へは、教員が適宜補足説明をさせていただきました。

### 2. 製図授業作品展示

在学生の製図等の授業での作品展示を行いました。1年次の授業では手を動かし創造する体験から始めることを紹介しました。訪れた高校生は、授業で実際に制作した空間模型や、名作建築のトレース図面及び軸組み模型等の展示物を興味深く鑑賞する姿が印象的で、時には熱心に教員に質問をする高校生もいました。また、3年次では集合住宅等の大規模建築の設計課題に取り組むことを、優秀作品の展示を通して紹介させていただきました。

### 3. 卒業設計作品の展示

4年次の卒業設計の優秀作品の展示を行いました。迫力のある模型や平面図に、来場者の方々は真剣に見入っている様子でした。実際に指導した教員から、当時の様子や、どのようにしてスキルを身につけていくかという指導の過程についても説明をさせていただきました。

### 4. ABC建築道場作品展示

毎年学内で開催している「ABC建築道場の展」を移設し、来場者の方々にも見ていただく機会を設けました。今回は、「日常」をテーマに、道場で毎日設計に向き合っている学生たちの努力の結晶である模型作品を展示しました。また、ABC建築道場が主催の「建築レクチャーシリーズ」でご講演いた

だいた建築家・構造家の方々のパネル展示も行いました。



1年次前期授業で製作した空間模型



3、4年設計優秀作品の展示



ABC建築道場の作品展示会場

# ■ オープンキャンパス紹介 | 住居・インテリア学科

本年度のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、オンライン型と来場型を併用して、実施しました。本項では来場型の開催時の様子を紹介します。

## 【カリキュラム説明】

教務委員の信濃准教授より、2022年度からスタートした、空間設計のスペシャリストを育成する独自の新カリキュラムについて次のような説明がありました。

「新カリキュラムでは、まず、1・2年次で①空間、②住居、③業務系施設のインテリア、④住居系複合施設のインテリアを対象に、主幹科目である設計実習を主軸に学びます。また、設計に必要な環境・設備、構造、周辺領域である家具、色彩、照明、地域環境などの基盤科目も学びます。3年次からは、自分に適した進路・分野を選択します。大学では珍しいスタジオ制によって、少人数で実践的に専門性を高めます。各種空間の設計系を中心に、環境・設備、家具、まちづくりまで、学生の興味関心に応える多彩なスタジオがあります。早期から専門性が身につけられ、昨今早まるキャリア活動に向けても有効です。」



写真1 カリキュラム説明の様子

## 【在学生との交流：実習科目の優秀作品紹介】

新カリキュラムの主幹科目である設計実習の優秀作品の展示と作者（学生）による作品解説を行いました。思い入れ満載の設計案が並び、熱の入った説明や来場者とのやり取りなどで、会場は活気に満ちていました。



写真2 設計作品について語り合う来場者と学生

## 【模擬講義：北欧名作照明・家具の魅力】

北欧の建築・デザインに関する著書を多数出版されている小泉教授による、北欧名作照明や家具の魅力の解説がありました。来場者のみなさんは名作照明やその断面模型を観察したり、名作椅子の座り心地を確かめたり、熱心に参加している姿が印象的でした。

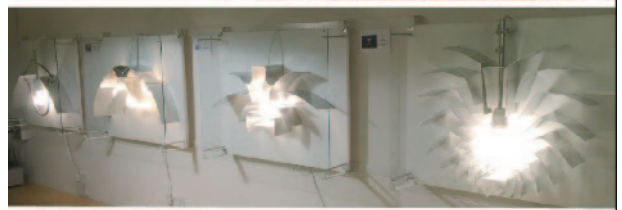


写真3 模擬講義の様子と照明断面模型及び椅子



令和4年度オープンキャンパスが、7月17日（日）と7月24日（日）の2日間にわたり開催されました。昨年度と同様、事前予約による人数制限を設けたうえで、対面で実施いたしました。本学科には、総計62名（高校生37名、保護者25名）の方々にご参加いただき、大いに賑わいを見せました。ご来場くださった高校生・保護者の皆様、ありがとうございます。また、オープンキャンパスの開催にあたり、ご協力いただいた学生・教職員の皆様、ありがとうございました。

本学科では、「学科の特色紹介（内田教授・横田准教授）」、「学科に関する相談会（山下教授・松尾教授）」、「パネルによる研究室紹介（全教員）」、「施設見学・体験実習（林教授・奥村准教授・山田准教授・佐藤准教授）」を開催いたしました。この体験実習では、土質実験の紹介、振動台実験の紹介、距離測量およびドローンによる3次元地形データの紹介が行われました。

土質実験の紹介では、卒業研究で取り組んでいる「雨の降り方と斜面崩壊の関係性」、「不溶化処理したフライアッシュの地盤材料としての活用」、「軽石を用いた泥土の改良」などについて、実際に使用している材料や実験装置などを用いて紹介しました。



土質実験の紹介



パネルによる研究室紹介

振動台実験の紹介では、研究室の学生が卒業研究で行っている耐震実験について熱心にわかりやすく説明を行いました。また、実際に振動台を稼働させて地震動を再現しているところを見学していただきました。

距離測量では、来校者にトータルステーションの使い方を学んでもらい、距離を測定しました。初めてトータルステーションを触る方が多く、簡単、かつ正確に距離を測れることに驚かれていました。また、学生による測量学実習の成果（校舎周辺を測量し、作成した地図）を紹介する場面では、学生と来校者との学習内容やキャンパスライフについての活発な情報交換が行われていました。

ドローンによる3次元地形データの紹介では、近年、土木分野で活用が進んでいるドローンと、その空撮画像から作成した3次元地形データの紹介を行いました。見学に来てくださった高校生や保護者の方々は、九産大キャンパスの詳細な3次元データに驚いていらっしゃいました。

来年度もこのようなオープンキャンパスを開催でき、九産大、そして都市デザイン工学科の魅力を高校生・保護者の方々に発信できたらと思っています。

（入試広報委員 内田）

## ABC建築道場

ABC建築道場は、私が着任した2011年からはじまり2022年度で12年目を迎えました。きっかけは2011年に3年生であった数名の学生が、私が現役の建築家だということを知って、建築サークルを立上げたいとの相談からでした。その内の2名は、今年からスタートした新カリキュラムの設計製図科目に非常勤講師として大学に戻ってきました。時の流れを感じます。

話は少し逸れますが、建築学科は日本では工学分野であり、エンジニア（技術者）を育成することを目的としています。そのため、日本の建築教育は一級建築士資格取得を前提としたカリキュラムとして技術的知識を優先して組まざるをえません。一方、欧米では建築学や芸術学の分野で、技術のみならず美学的な能力も兼ね備えているアーキテクト（建築家）を育成します。ものづくりでは技術や知識に加え、クリエイティビティ（創造力）、コミュニケーション能力、統合力が必要です。そこを鍛えようと思うと、4年間のカリキュラムでは収まらなくなります。そのため、ABC建築道場では授業を補う教育として以下のような活動を行っています。

### 1) しゅうまい

テーマを決めて模型で空間デザインを表現してみんなで議論を行います。毎週やるから「しゅうまい」なのですが、造形力と表現力がかなり鍛えられる「建築筋トレ」です。他大学から参加している学生もいます。

### 2) 建築レクチャーシリーズ

第一線で活躍している建築家・構造家などを招聘して講演会を開催しています。単に講演を聴講するだけでなく、講演者の講演テーマで「しゅうまい」をつくり、懇親会でゲリラ的にプレゼンテーションを行って批評を行ってもらっています。これほど積極的な学生達を見たことないと講演者から高い評価

を頂き、就職やインターンシップの受入れに結びついています。

### 3) ABC建築道場の展

毎年、学内でABC建築道場の活動展示会を行っています。単なる展示ではなく、会場構成もデザインして原寸で空間をつくります。また、同時に講演会を開催し、講演者には「公開しゅうまい」の講評も行って頂いています。

### 4) 国内外ワークショップ

毎年、学外のワークショップに参加して、他大学や外国の学生と競い学び合っています。また、グループ設計なので、他者との協調性を身につけることができます。今年の「JIA日韓合学生ワークショップ2022」では九州支部長賞を受賞することができました。



### 5) 学外建築イベント

建築の甲子園と言われる「SDL卒業設計日本一決定戦」や3年生以下の学生も参加できる「Fukuoka Design Review」「tonica北九州」など学外の大会に出場して、毎年コンスタントに優秀な成績を収めています。

矢作昌生



## ■九産大野生動植物研究会

九産大野生動植物研究会は、地域の子供たちや大人の方々に「自然の大切さ」、「自然の不思議さ」、「自然とふれあう楽しさ」を学び感じてもらい、同時に私達自身も自然環境の保護・保全のあり方を見出すために活動を行っています。活動は、建築都市工学部や商学部の自然が好きな学生と共に、福岡市だけ

でなく新宮町、熊本県熊本地方ならびに阿蘇地方など様々な地域で行っています。本報では、近年実施してきた活動の一部を紹介します。

都市デザイン工学科 内田研究室 古野正章

### 活動紹介

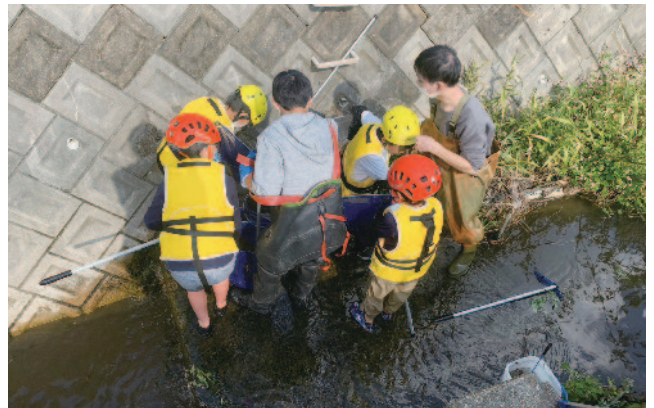


#### ■自然学習会

香椎下原小学校にて、香椎下原小校区の自然、特に立花山・三日月山の自然に関する学習会を実施しました。学習会では、立花山・三日月山にいる生き物に関する特別授業を行い、その後、実際に登山をしながら様々な生き物の観察を行いました。

#### ■川の生き物観察会

新宮町おもてなし協会の協力のもと、2018年より新宮町の小学生を対象とした、川の生き物の観察会を実施しています。今年度は、新宮町寺浦地区にて、魚や水辺の生き物の捕まえ方、観察方法に関する環境学習会を実施しました。



#### ■阿蘇荻岳の観光資源としての「花」調べとその写真展

熊本地震などの災害からの復興に貢献するため、阿蘇市波野地区の方々と、地域の魅力を内外に発信する活動を行っています。今年度は、阿蘇市波野地区の道の駅にて、地域の方々や私達が撮影した、「阿蘇」に関する写真の展示会を開催しました。





## 「建築都市工学部 Year Book 2022-2023」の発刊にあたって

2017年4月に理工学領域の学部再編に伴って発足した建築都市工学部は、建築学科、住居・インテリア学科、都市デザイン工学科の3学科から構成されており、住居からまちや都市、国土まで幅広い空間のデザインやインテリア、建築物、社会基盤施設などの空間デザインやものづくりを総合的に学び研究することができるのが特徴です。2022年4月から新カリキュラムがスタートし、ますます学部の特長や魅力を高められたと思います。

「建築都市工学部 Year Book」は、建築都市工学部の多種多様な年間の活動を紹介するための機関誌として2018年度に創刊しました。在学生が必要とする内容だけでなく、これから進路を選択する高校生のみなさんにも役に立ててほしい情報を掲載することを目指しています。

本号では二つの変更を行いました。一つ目は「教員・学生受賞一覧」の追加です。社会がWithコロナに向かう中、建築都市工学部の教員や学生の活動も再び盛んになってきました。その幅広い活動や研究で多くの教員・学生が賞をいただいています。その成果をみなさんにもご紹介する場を設けました。もう一つは発行時期の変更です。これまでは3月末に発行していたため、2月下旬以降の情報が十分に掲載できていませんでしたが、本号から発行時期を若干繰り下げて3月末までの情報をしっかり網羅することにしました。また、新年度の情報も若干先取りすることでより充実した内容になりました。もっと知りたい情報やよい企画がございましたら、学部事務室までご連絡ください。

Year Book は建築都市工学部のウェブサイトでも公開しています。在学生、教職員、高校生のみなさんだけでなく、卒業生や企業、地域の方々にも是非ご覧いただき、私たちと新しいつながりが生まれるきっかけとなり、さらには本学部の発展に寄与するものになってくれることを期待しています。

建築都市工学部長 林 泰弘

### 2022年度建築都市工学部機関誌編集委員会

- 委員：大庭 知子（建築学科）
- 委員：吉村 祐樹（住居・インテリア学科）
- 委員：佐藤 辰郎（都市デザイン工学科）
- ワーキングメンバー：
  - 嘉野 広美（住居・インテリア学科）
  - 江上 史恭（建築学科）
- 建築都市工学部長：林 泰弘
- 建築都市工学部事務室長：鶴田 亜矢

### Year Book 2022-2023

2023年5月18日 印刷

2023年5月31日 発行

発行者 九州産業大学建築都市工学部  
林 泰弘

福岡市東区松香台2-3-1

印刷所 ヨシミ工産株式会社

北九州市戸畑区天神1-13-5

